

救急搬送データから見る
日常生活事故の実態

令和2年

東京消防庁
防災部防災安全課

目 次

データ・用語	1
--------	---

第1部 令和2年の概要

1 年別発生状況	2
2 年齢層別搬送人員	2
3 月別・時間帯別搬送人員	3
4 事故種別ごとの搬送人員	4
5 発生場所別搬送人員	4
6 初診時程度別搬送人員	5
7 コロナ禍における日常生活事故の状況	6
(1) 年別搬送人員	6
(2) 月別搬送人員	6
(3) 年齢層別搬送人員	7
(4) 事故種別ごとの搬送人員	7
(5) 初診時程度別搬送人員	8
(6) 発生場所別搬送人員	8
(7) 住宅等居住場所と住宅等居住場所以外の比較	9
① 全体の搬送人員	9
② 月別搬送人員	10
③ 時間帯別搬送人員	11
④ 事故種別ごとの搬送人員	12
(8) コロナ禍のピックアップ	13
① 減少した事故の例	13
ア 電車のドア・戸袋への挟まれ事故	13
イ エレベーター・エスカレーターでの事故	14
② 増加した事故の例	14
ア 乳幼児のベランダ・窓からの墜落事故	14
イ 掃除中の事故	15
ウ アルコール消毒等の事故	17
エ 遊具での事故（12歳以下）	18
オ ビニールプールでの事故	19
カ トランポリンでの事故	20
キ 熱中症	21

第2部 種別ごとに見る事故

1 ころぶ	25
2 落ちる	27
3 ぶつかる	29
4 ものがつまる・ものが入る・誤って飲み込む	31
5 切る・刺さる	33
6 はさむ・はさまれる	35
7 やけど	37
8 かまれる・刺される	39
9 おぼれる	41

第3部	年齢から見た事故	43
1	年齢区分から見た事故	
(1)	0歳～5歳（乳幼児）の事故	44
①	0歳～5歳	44
②	0歳	48
③	1歳	50
④	2歳	52
⑤	3歳～5歳	54
(2)	6歳～12歳（小学生）の事故	56
(3)	13歳～18歳（中学生・高校生）の事故	59
(4)	19歳～64歳の事故	62
(5)	65歳以上（高齢者）の事故	65
①	65歳以上（高齢者）	65
②	65歳～74歳（前期高齢者）と75歳以上（後期高齢者）	69
2	年齢層別での比較	
(1)	年別搬送人員での比較	72
(2)	事故種別（その他、不明を除く）ごとの比較	74
(3)	時間帯別での比較	76
第4部	関連器物から見た事故	
1	エスカレーター	79
2	エレベーター	84
3	自転車の幼児用座席	88
4	遊具	91
5	ガスによる事故	94
第5部	区市町村別の比較	
1	事故種別ごとの救急搬送人員①	99
2	人口10万人当たりの事故種別ごとの救急搬送人員①	100
3	事故種別ごとの救急搬送人員②	101
4	人口10万人当たりの事故種別ごとの救急搬送人員②	102
5	発生場所別の救急搬送人員	103
6	人口10万人当たりの発生場所別の救急搬送人員	104
7	年齢層別の救急搬送人員	105
8	人口10万人当たりの年齢層別の救急搬送人員	106

データ・用語

日常生活事故

救急事故のうち、運動競技事故、自然災害事故、水難事故、労働災害事故、一般負傷に該当するものをいう。

分析データ

平成28年～令和2年中の救急搬送データ（救急搬送したもの）における日常生活事故に該当するデータ

初診時程度

- ・死亡・・・・・・・・初診時死亡が確認されたもの
- ・重篤・・・・・・・・生命の危険が切迫しているもの
- ・重症・・・・・・・・生命の危険が強いと認められたもの
- ・中等症・・・・・・・・生命の危険はないが入院を要するもの
- ・軽症・・・・・・・・軽易で入院を要しないもの

関連器物

受傷原因に直接または間接的に影響があった器物のことをいう。

事故種別

- ・落ちる・・・・・・・・倒れた際に高低差の移動を伴って受傷したもの
- ・ころぶ・・・・・・・・倒れた際に高低差の移動を伴わず受傷したもの
- ・ものがつまる・ものが入る・誤って飲み込む（ものがつまる等）・・・・食物または、食物以外のものを飲み込んで受傷したもの（目・耳・鼻へ異物が入ったものを含む）
- ・ぶつかる・・・・・・・・人と人、人と物との衝突により受傷したもの
- ・はさむ・はさまれる・・・・・・・・物体間または物体内に挟まれたもの
- ・やけど・・・・・・・・高温の液体、気体等により受傷したもの
- ・切る・刺さる・・・・・・・・刃物や鋭利物等により受傷したもの
- ・かまれる・刺される・・・・・・・・動物や虫などにかまれた、刺された等により受傷したもの
- ・おぼれる・・・・・・・・浴槽、プール、河川等で溺れたもの

年齢区分

- ・乳幼児・・・・・・・・5歳以下
- ・小学生・・・・・・・・6歳以上13歳未満
- ・中学生・高校生・・・・・・・・13歳以上19歳未満
- ・高齢者・・・・・・・・65歳以上
- ・前期高齢者・・・・・・・・65歳以上75歳未満
- ・後期高齢者・・・・・・・・75歳以上

東京消防庁管内

東京都のうち稲城市、島しょ地区を除く地域

第1部 令和2年の概要

1. 年別発生状況

東京消防庁管内では、日常生活における事故により平成28年から令和2年までの5年間に684,835人が救急搬送されています。令和2年中は、127,382人が救急搬送されています（図1-1）。

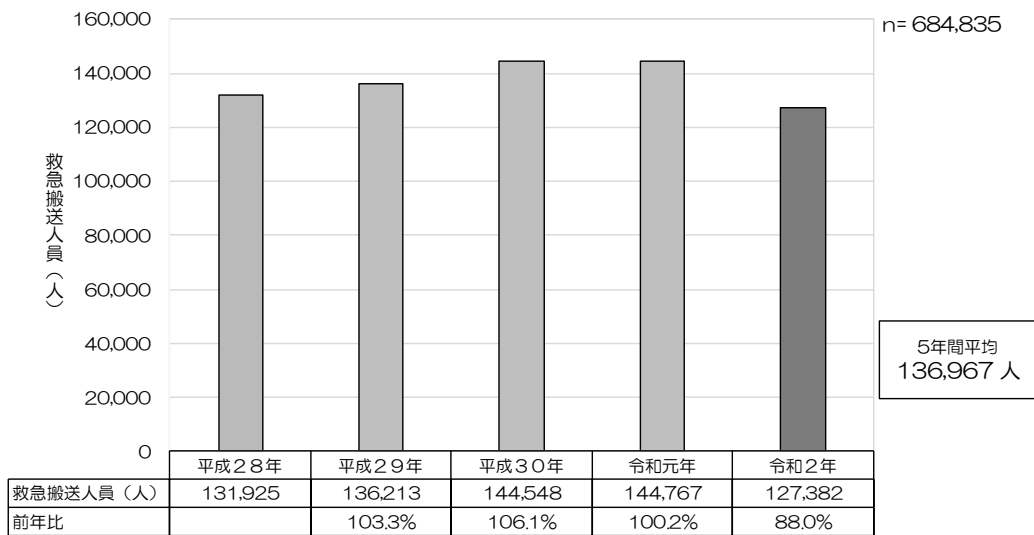


図1-1 年別の救急搬送人員

2. 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別の救急搬送人員を見ると、乳幼児と高齢者に多く発生しています（図1-2）。

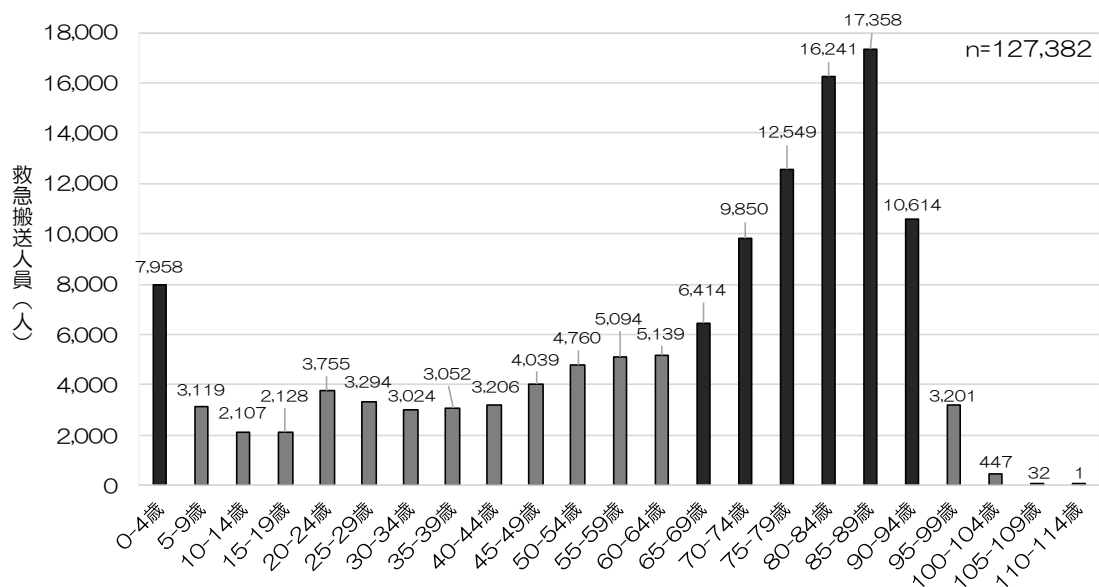


図1-2 年齢層別の救急搬送人員

3. 月別・時間帯別搬送人員

月別に見ると、8月の14,006人が最も多く、次いで1月に12,508人が救急搬送されています（図1-3）。

時間帯別で見ると、9時台から20時台までは約6,000人以上が救急搬送されています（図1-4）。

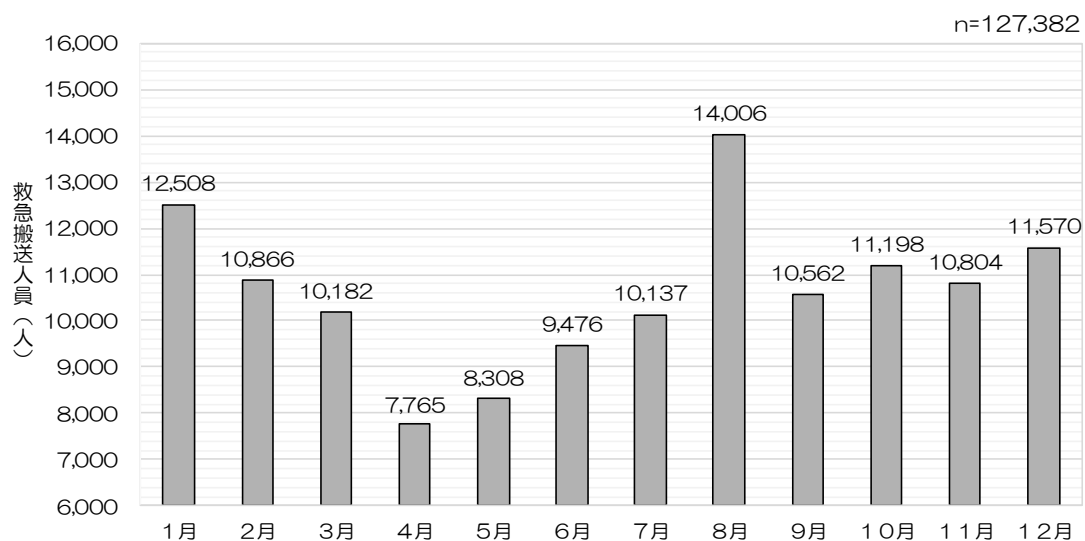


図1-3 月別の救急搬送人員

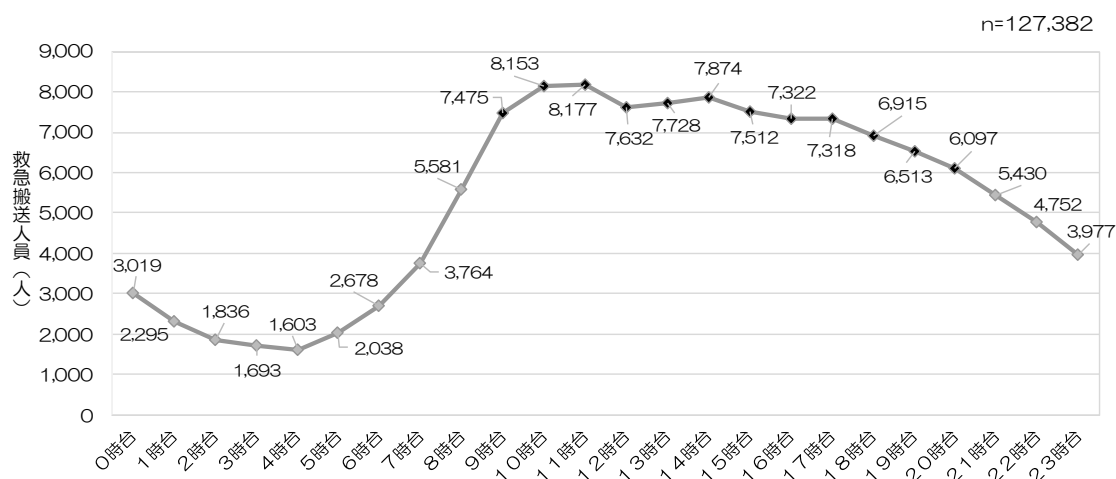


図1-4 時間帯別の救急搬送人員

4. 事故種別ごとの搬送人員

事故種別ごとに見ると、「ころぶ」事故が全体の約6割を占め最も多くなっています。
 なお、事故種別ごとの概要については第2部で取り上げています（図1-5）。

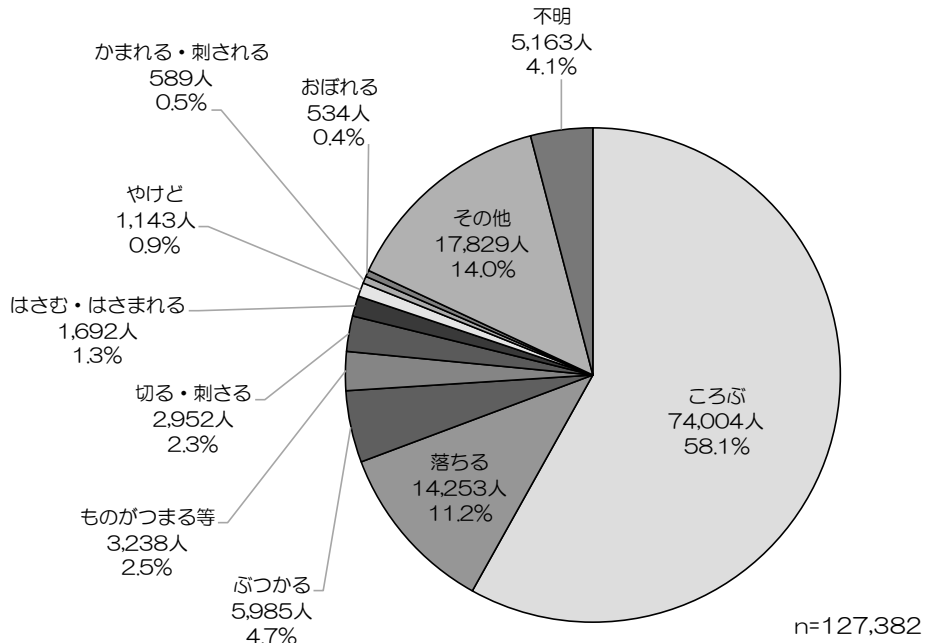


図1-5 事故種別ごとの救急搬送人員

5. 発生場所別搬送人員

発生場所別に見ると、半数以上が住宅等居住場所で発生しています（図1-6）。

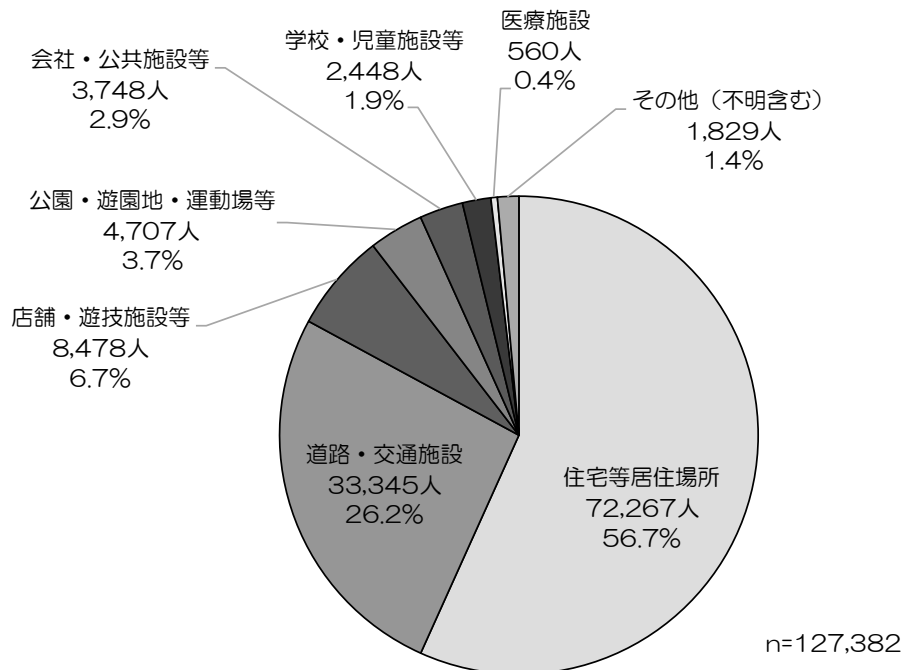


図1-6 発生場所別の救急搬送人員

6. 初診時程度別搬送人員

救急車で搬送された人の初診時程度を見ると、3割以上が入院を必要とする中等症以上で、生命に危険を及ぼすような事故も発生しています（図1-7）。

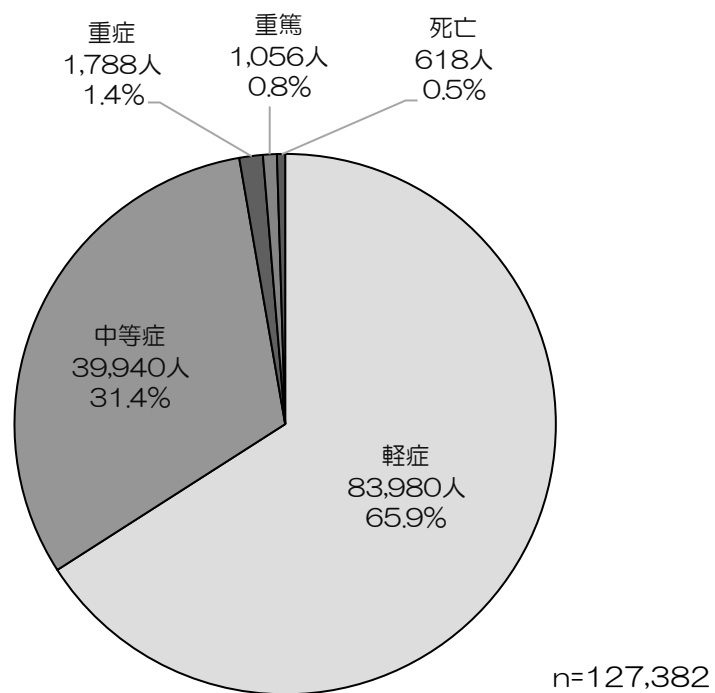


図1-7 初診時程度別の救急搬送人員

7. コロナ禍における日常生活事故の状況

日常生活事故の件数は近年増加傾向にありましたが、コロナ禍においてその状況に変化が見られました。ここでは、新型コロナウイルス感染症の流行が拡大した令和2年とそれ以前の令和元年とを比較し、差異が見られたものを中心にみていきます。

(1) 年別搬送人員

令和2年の救急搬送人員の総数は、前年より17,385人減少し、前年比約9割となりました（図1-8）。

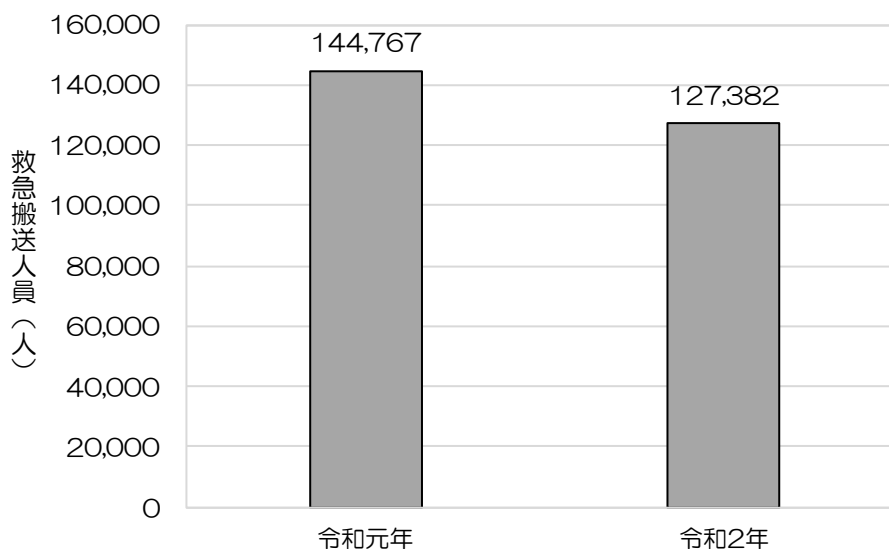


図1-8 救急搬送人員総数

(2) 月別搬送人員

感染者数が増加した3月から救急搬送人員が減少しており、特に緊急事態宣言が発令されていた令和2年4月及び5月が顕著に表れています（図1-9）。

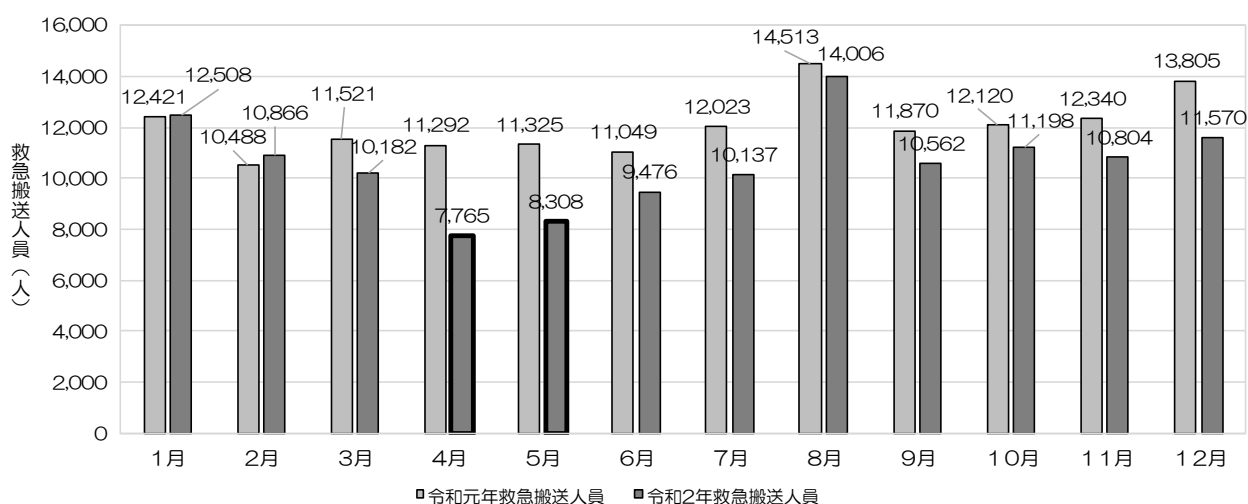


図1-9 月別の救急搬送人員

(3) 年齢層別搬送人員

令和2年は、令和元年と比較して全体的に減少しています（図1-10）。

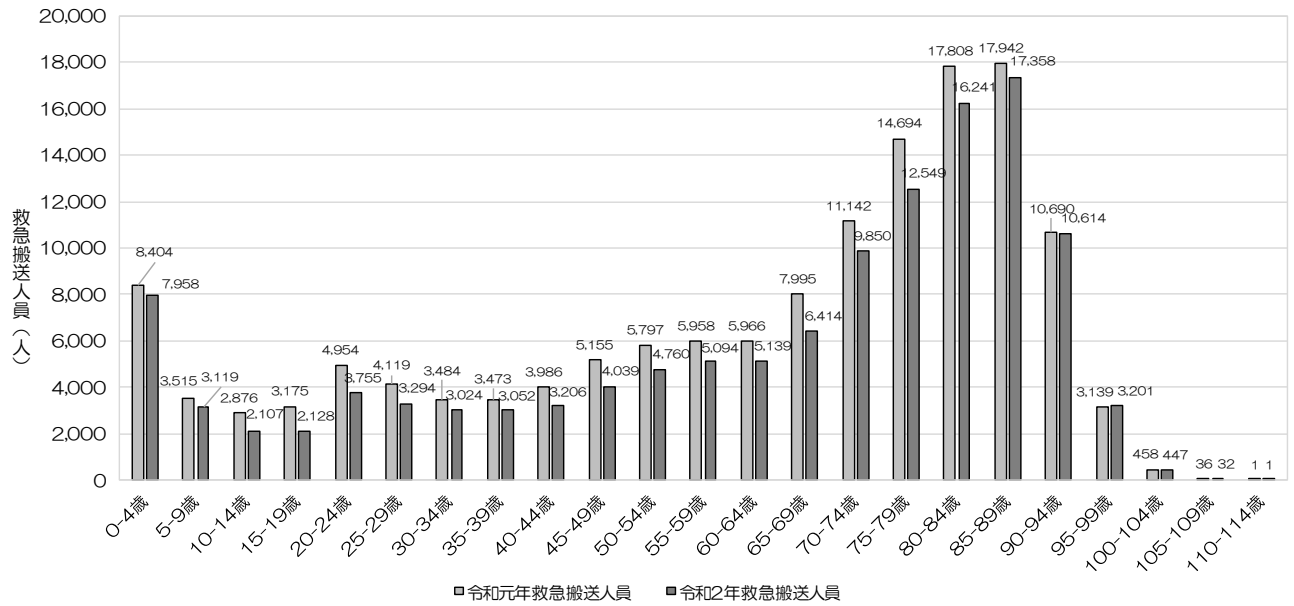


図1-10 年齢層別の救急搬送人員

(4) 事故種別ごとの搬送人員

令和2年は、令和元年と比較して全体的に減少しています（図1-11）。

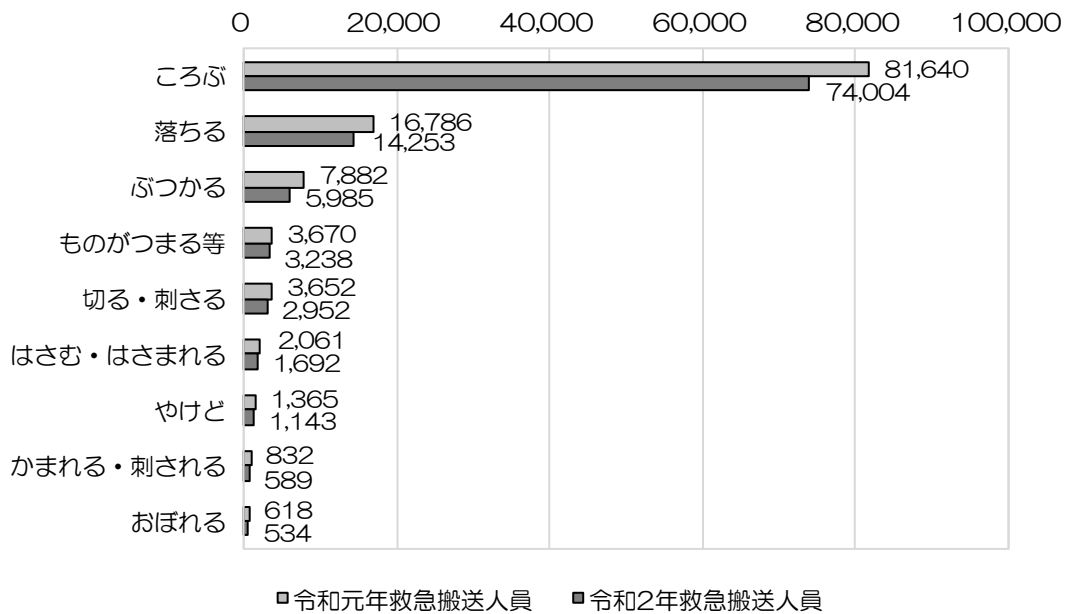


図1-11 事故種別ごとの救急搬送人員（その他、不明を除く）

(5) 初診時程度別搬送人員

令和2年は、令和元年と比較して全体的に減少しています（図1-12）。

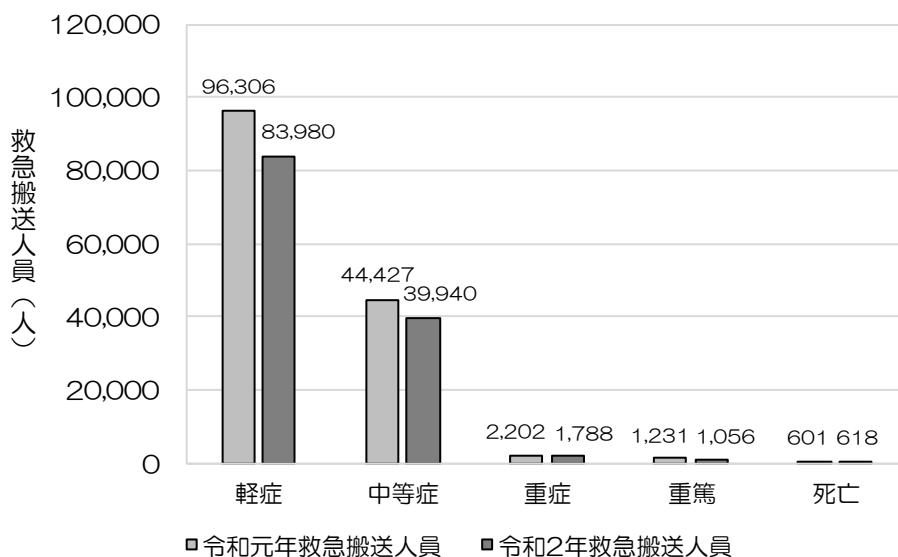


図1-12 事故種別ごとの救急搬送人員

(6) 発生場所別搬送人員

令和2年は、令和元年と比較して全体的に減少しています。道路・交通施設が約18%減少していますが、住宅等居住場所は約3%の減少に留まっています（図1-13）。

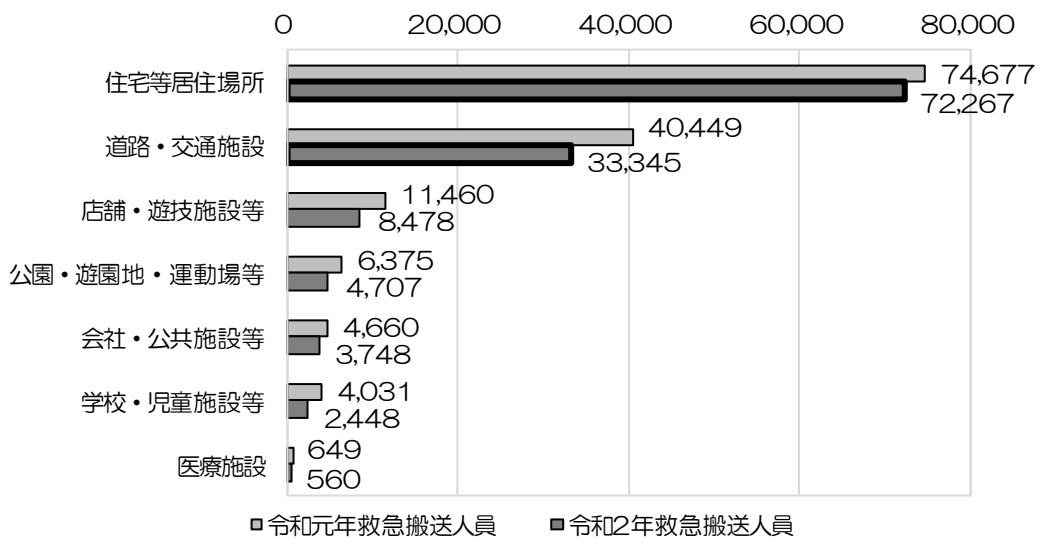


図1-13 発生場所別の救急搬送人員（その他、不明を除く）

(7) 住宅等居住場所と住宅等居住場所以外の比較

① 全体の搬送人員

住宅等居住場所（以下「住宅等」という。）はほぼ減少が見られない（約3%減少）のに対し、住宅等以外は21%以上減少しています。

また、令和2年の住宅等は、同年の住宅等以外の発生場所と比較し、131%以上となっています（図1-14）。

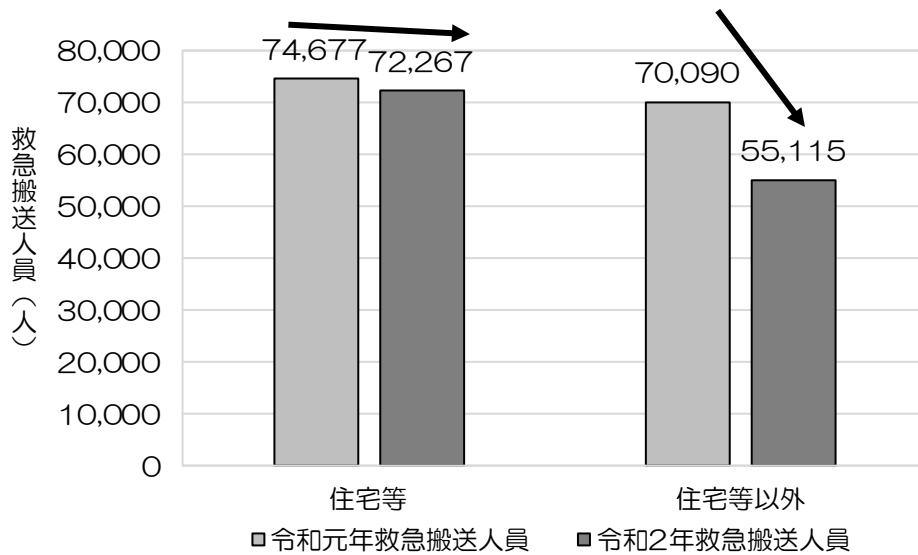


図1-14 住宅等と住宅等以外の発生場所の救急搬送人員

② 月別搬送人員

住宅等はほぼ減少が見られない一方（図1-15）、住宅等以外の発生場所は大きく減少しており、特に緊急事態宣言が発令されていた4月及び5月には、令和元年の約5割に減少しています（図1-16）。

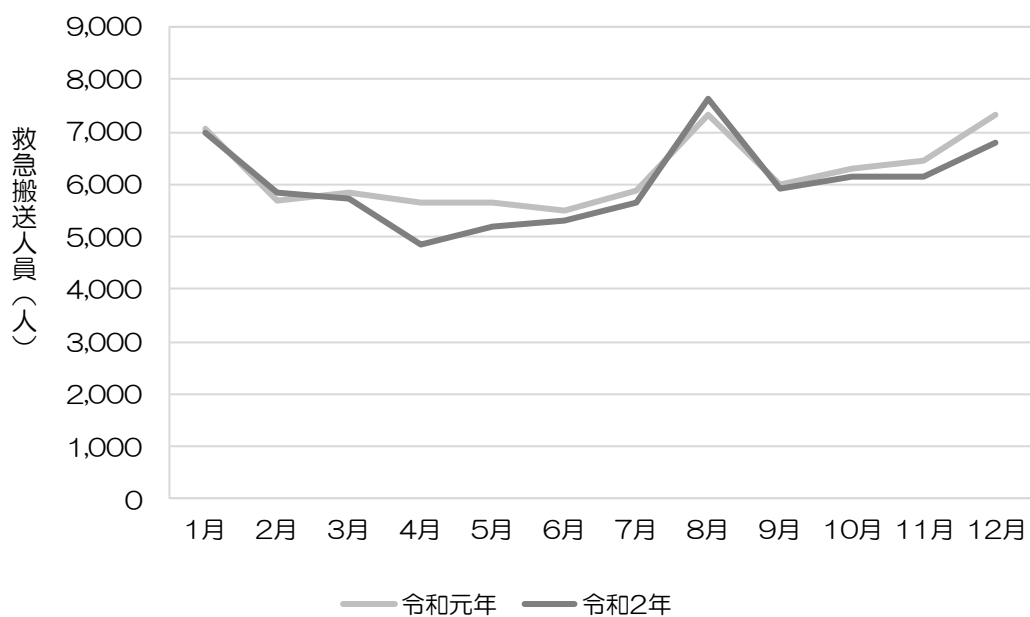


図1-15 住宅等の月別の救急搬送人員

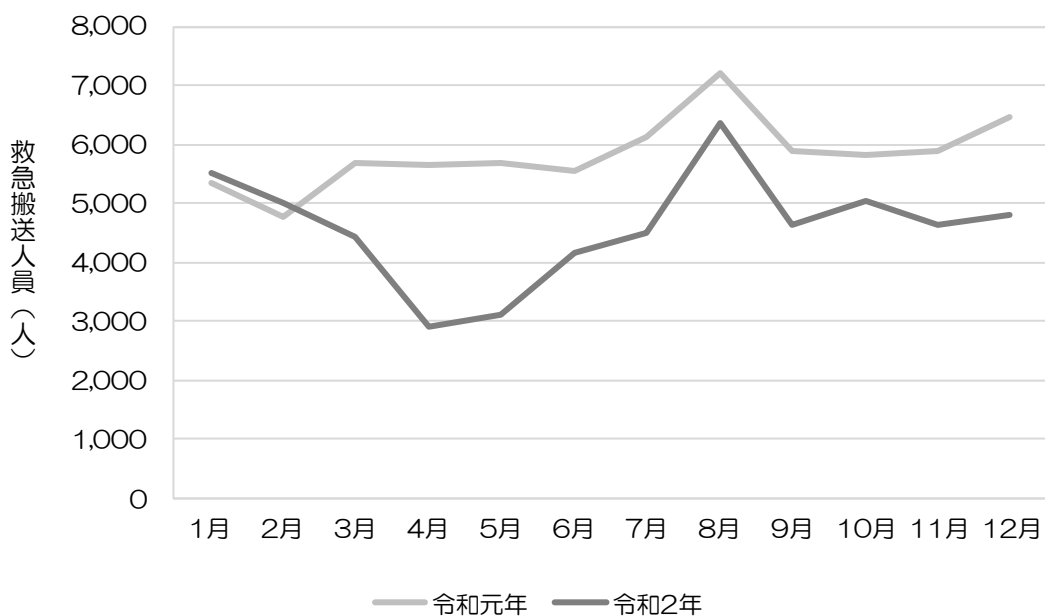


図1-16 住宅等以外の月別の救急搬送人員

③ 時間帯別搬送人員

住宅等はほぼ減少が見られない一方（図1-17）、住宅等以外の発生場所は、大きい減少が見られた12時から翌0時までの時間帯で2割から3割程度の減少が見られました（図1-18）。

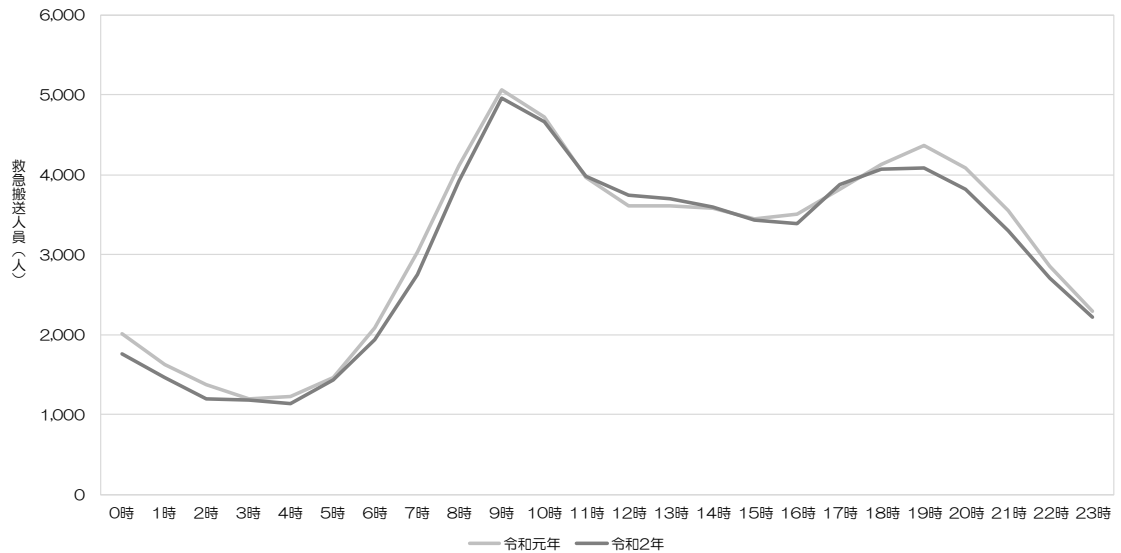


図1-17 住宅等の時間帯別の救急搬送人員

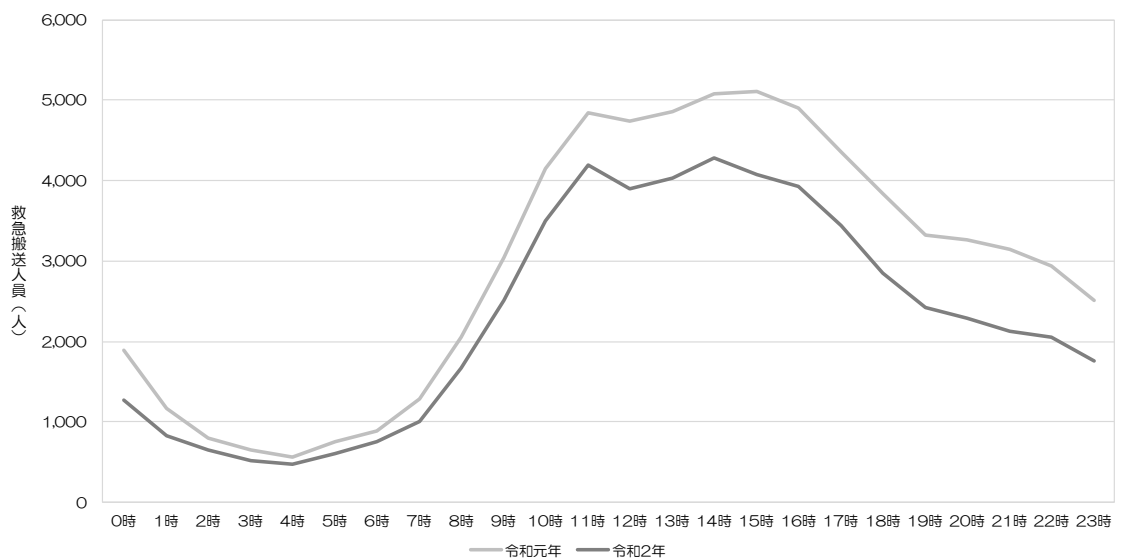


図1-18 住宅等以外の時間帯別の救急搬送人員

④ 事故種別ごとの搬送人員

「ころび」事故については、住宅等では大きな減少幅は見られない（約2%減少）のに対し（図1-19）、住宅等以外では16%以上減少しています（図1-20）。

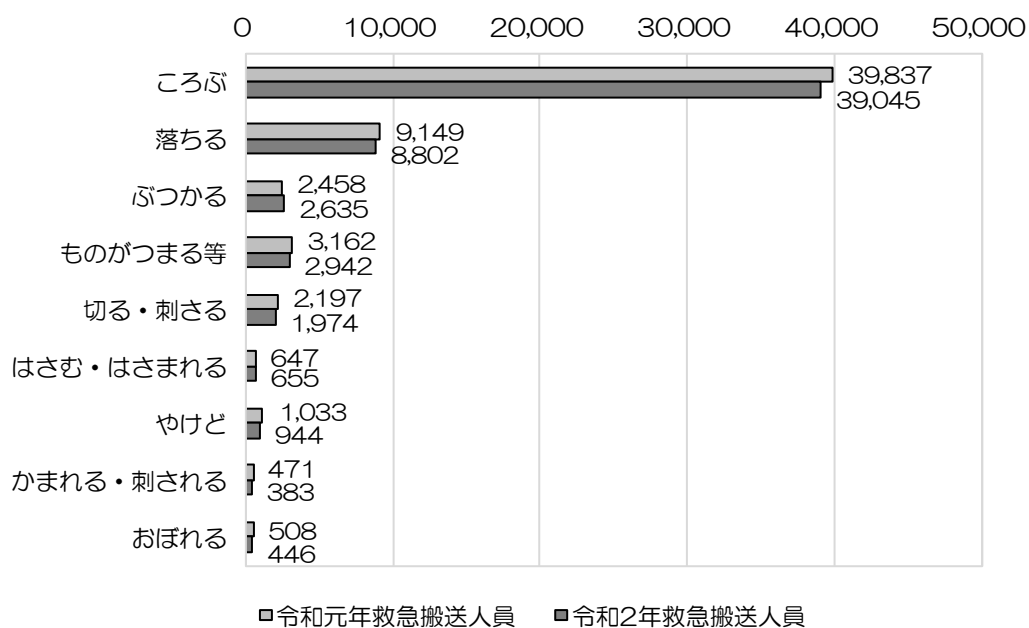


図1-19 住宅等での事故種別ごとの救急搬送人員（その他、不明を除く）

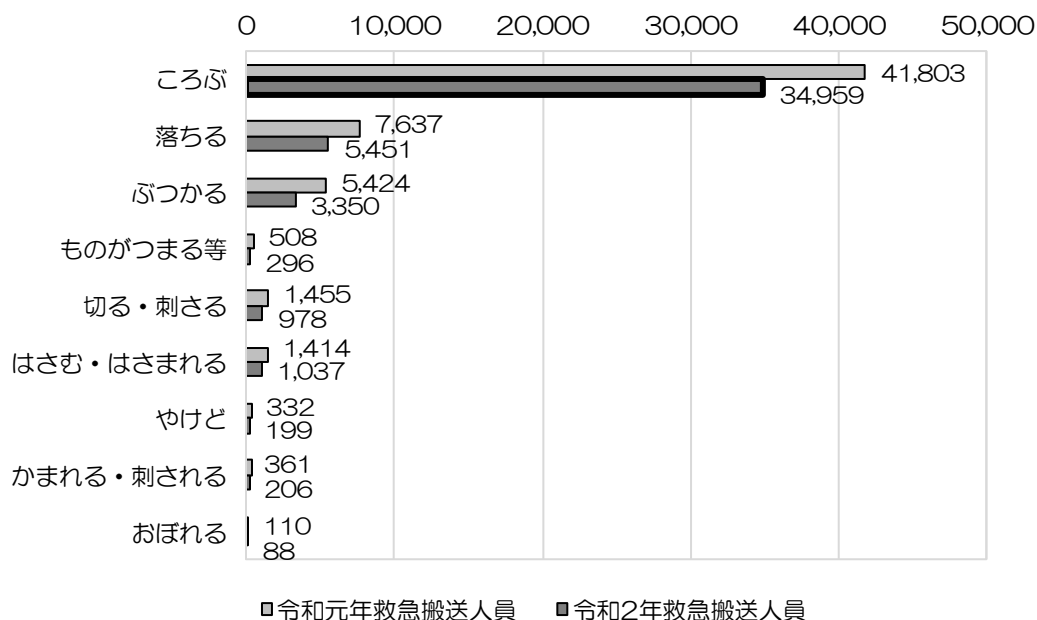


図1-20 住宅等以外での事故種別ごとの救急搬送人員（その他、不明を除く）

(8) コロナ禍のピックアップ

ここでは、事故に関する器物や行動に着目し、コロナ禍において増減が見られたものを中心に見ていきます。

① 減少した事故の例

ア 電車のドア・戸袋へのはさまれ事故

令和2年は、令和元年より56人減少し、令和元年の3割以下となりました(図1-21)。

また、乳幼児についても19人減少し、令和元年の約3割となっています(図1-22)。

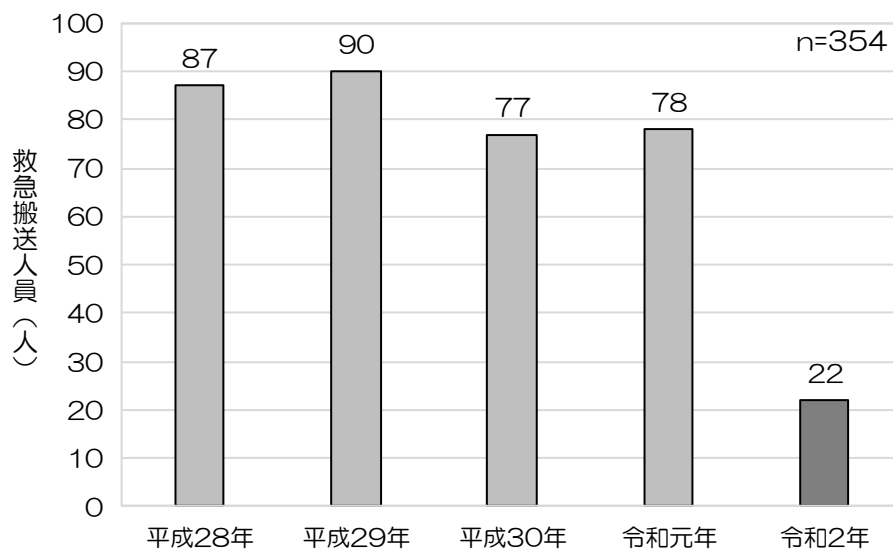


図1-21 年別の救急搬送人員

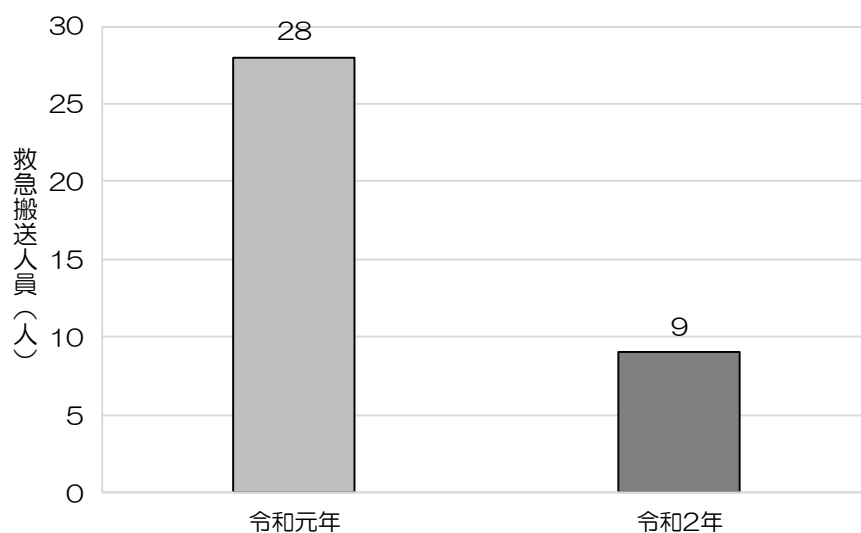


図1-22 乳幼児(0歳~5歳)の救急搬送人員

イ エレベーター・エスカレーターでの事故

エレベーター、エスカレーターともに令和2年は大幅に減少が見られます（図1-23、図1-24）。

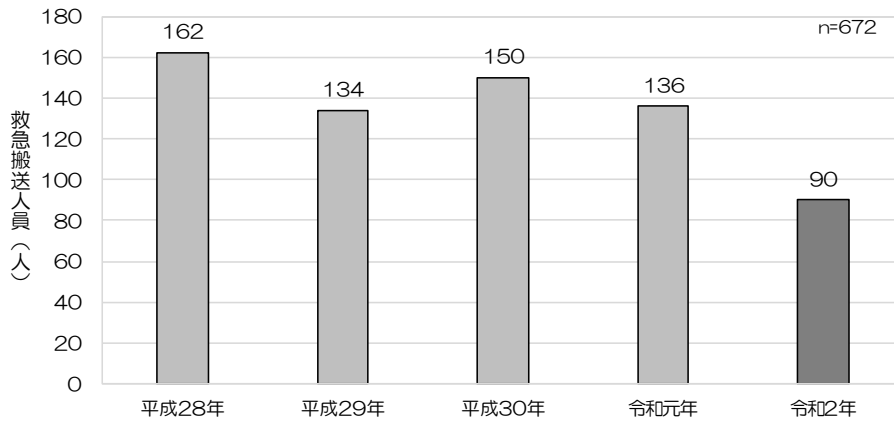


図1-23 年別の救急搬送人員（エレベーター）

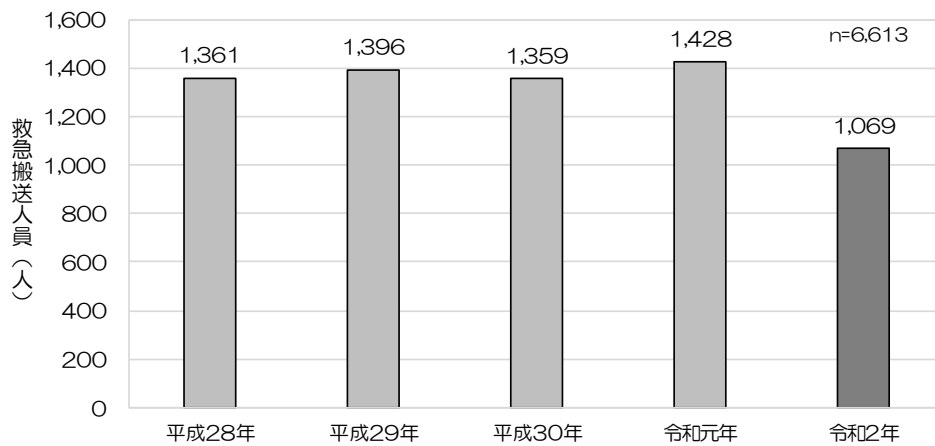


図1-24 年別の救急搬送人員（エスカレーター）

② 増加した事故の例

ア 乳幼児のベランダ・窓からの墜落事故

令和2年は、令和元年より7件増加し、16人が救急搬送されています（図1-25）。

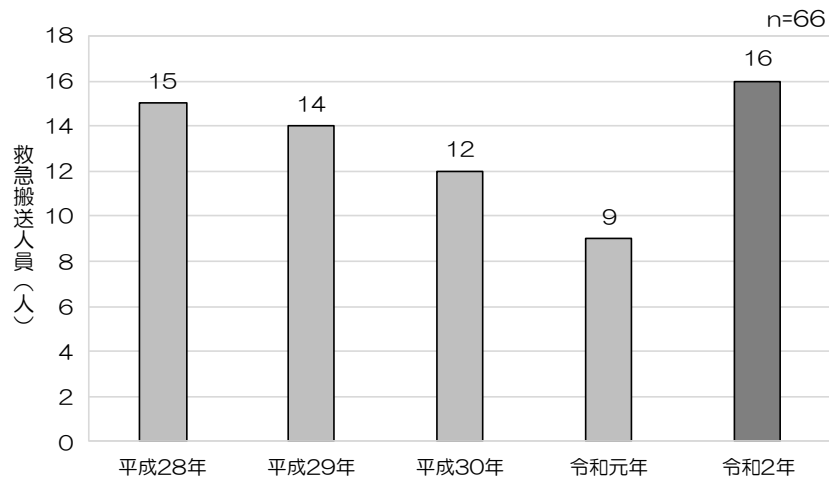


図1-25 年別の救急搬送人員

イ 掃除中の事故

日常生活の事故全体の搬送人員数が前年から約12%減少している一方、掃除中の事故は7件増加しています（図1-26）。

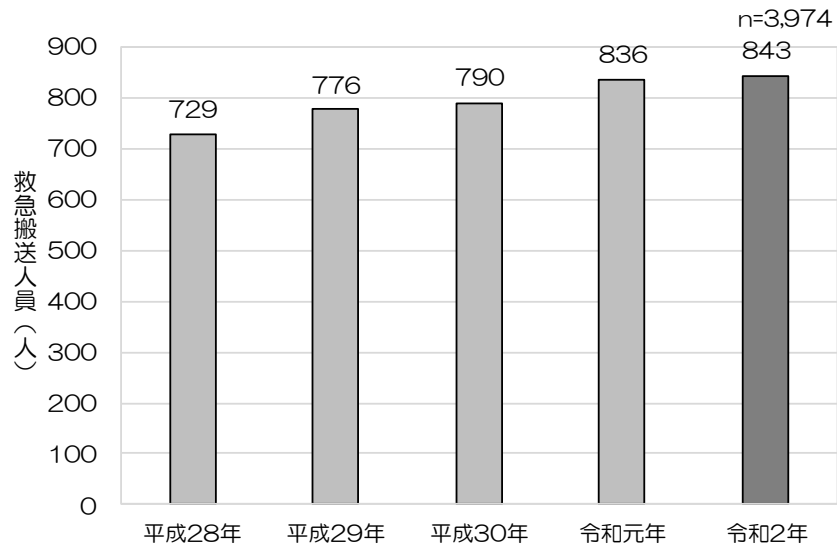


図1-26 年別の救急搬送人員

清掃業等、勤務中の掃除による事故（労働災害事故）は約9%減少している一方、家庭等の勤務外で発生した事故（一般負傷）は約5%増加しています（図1-27）。

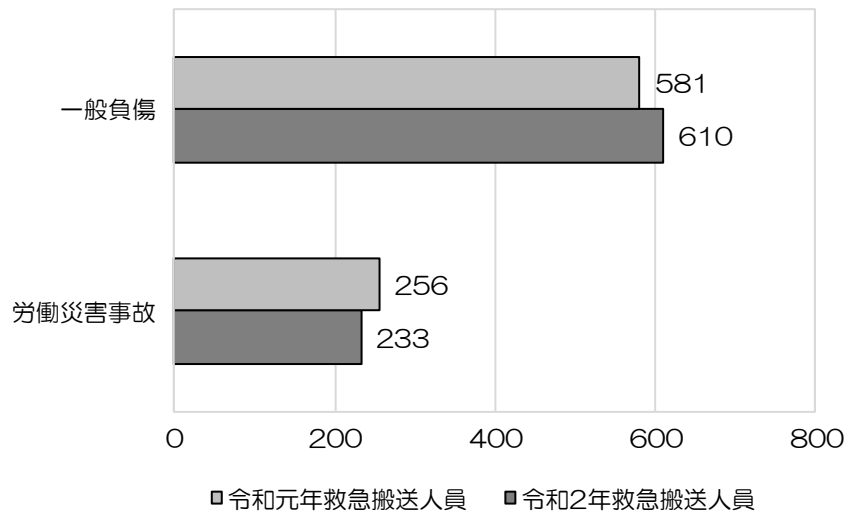


図1-27 一般負傷と労働災害事故の比較

発生場所別では、住宅等居住場所が約 1 割増加しています（図 1 - 28）。

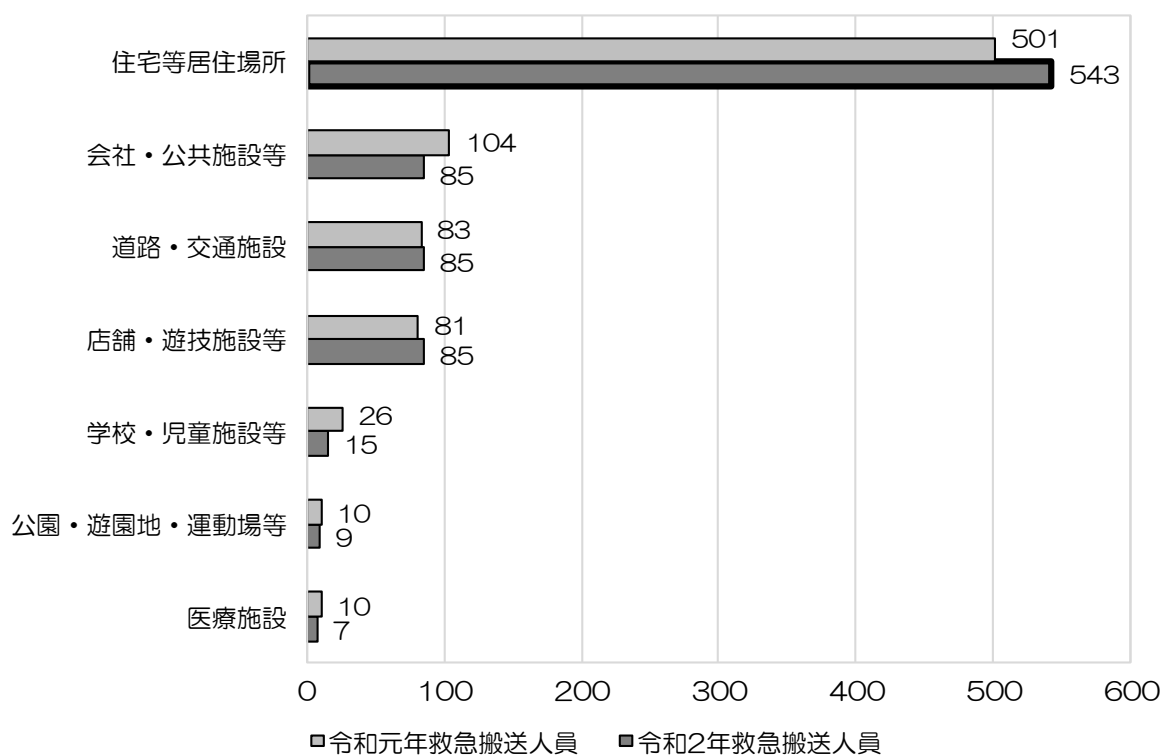


図 1 - 28 発生場所別の救急搬送人員（その他、不明を除く）

ウ アルコール消毒等の事故

令和2年は24人が救急搬送されおり、令和元年の3倍以上になっています(図1-29)。

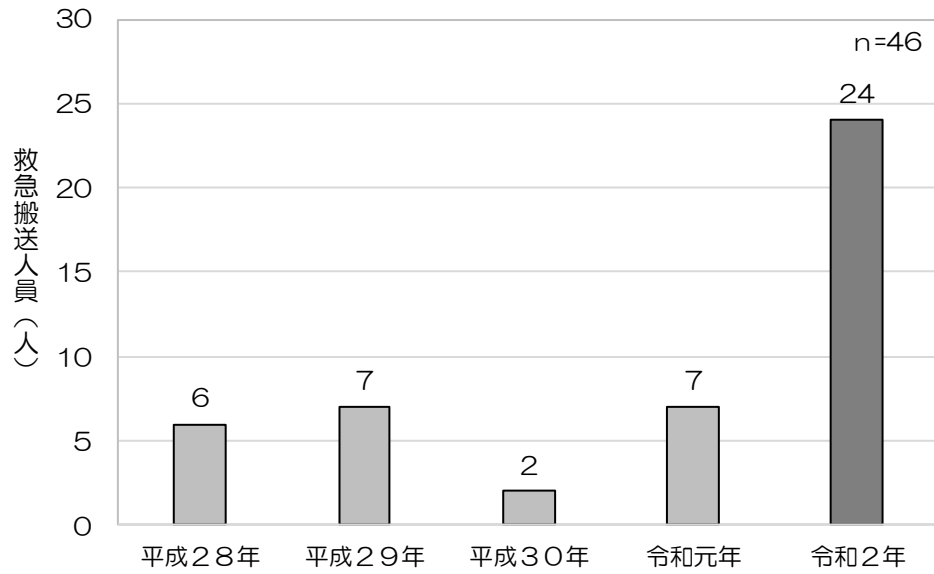


図1-29 年別の救急搬送人員

令和2年中の年代別データを見ると、0~4歳の乳幼児で多く発生しています。また、誤飲によるものが多くなっています(図1-30)。

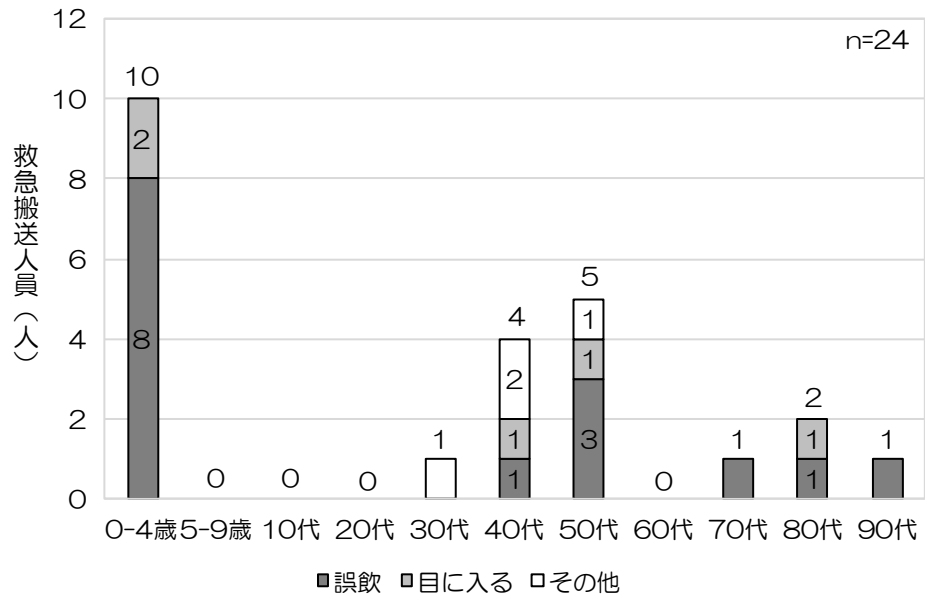


図1-30 年代別の救急搬送人員(令和2年中)

エ 遊具での事故（12歳以下）

過去数年は減少傾向にありましたが、令和2年は令和元年よりも86件増加しています（図1-31）。すべり台、ぶらんこ、ジャングルジム等で多く発生しています。

また、年代別では1歳、2歳、12歳で大幅に増加しています（図1-32）。

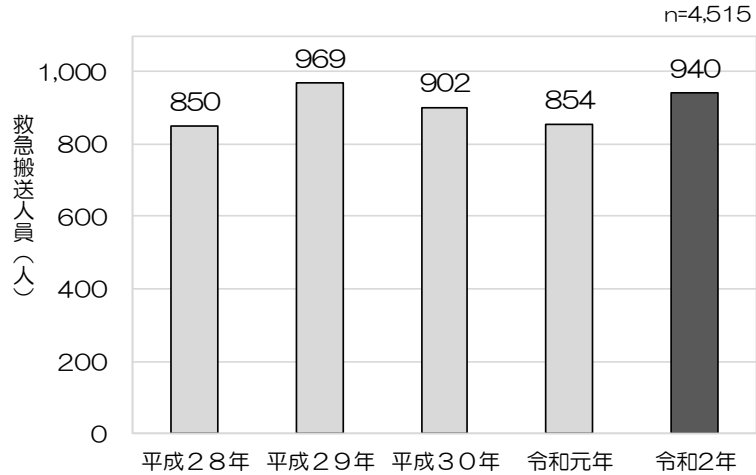


図1-31 年別の救急搬送人員

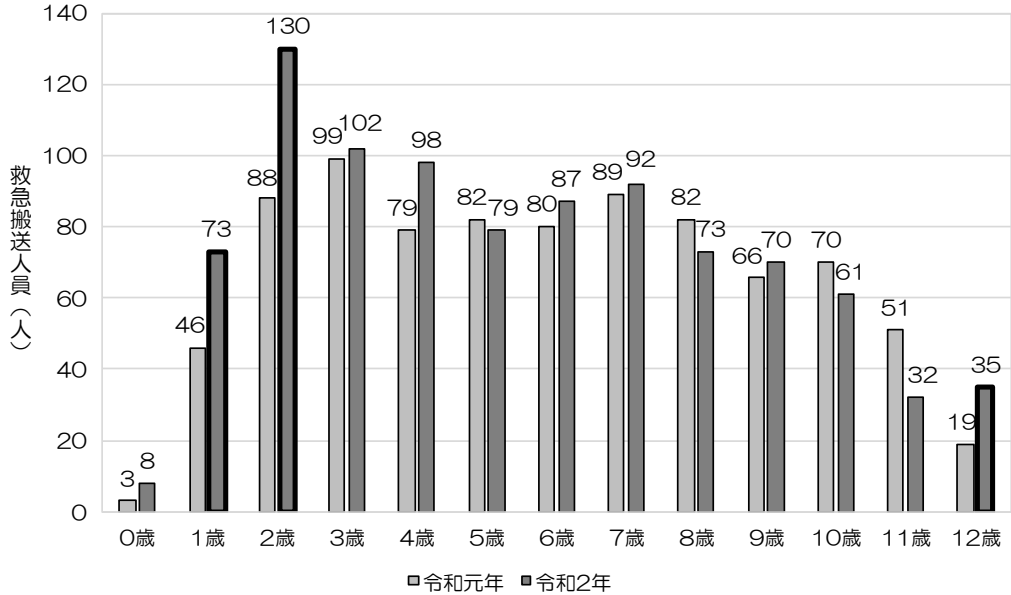


図1-32 年齢別の救急搬送人員

月別では、緊急事態宣言が発令されていた4月から5月まで及び6月に大幅に減少した一方、8月、11月、12月は大幅に増加しています(図1-33)。

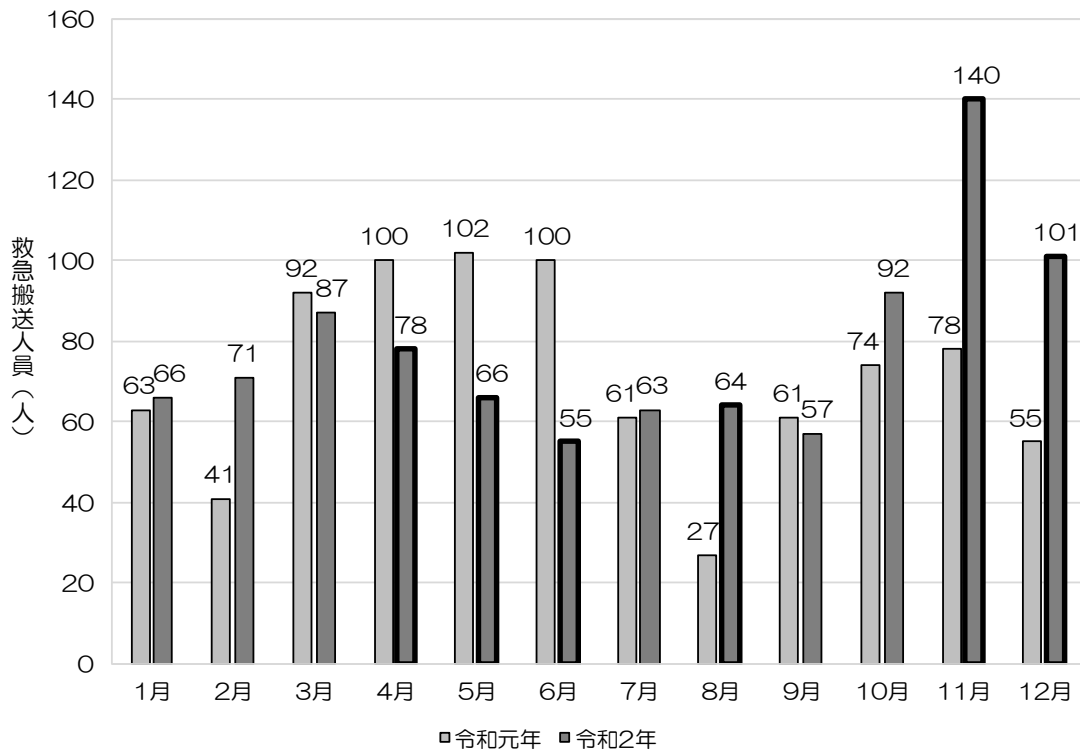


図1-33 月別の救急搬送人員

オ ビニールプールでの事故

令和2年は9人が搬送されており、令和元年の2倍以上になっています。23人のうち中等症が2人、重症が1人発生しています(図1-34)。

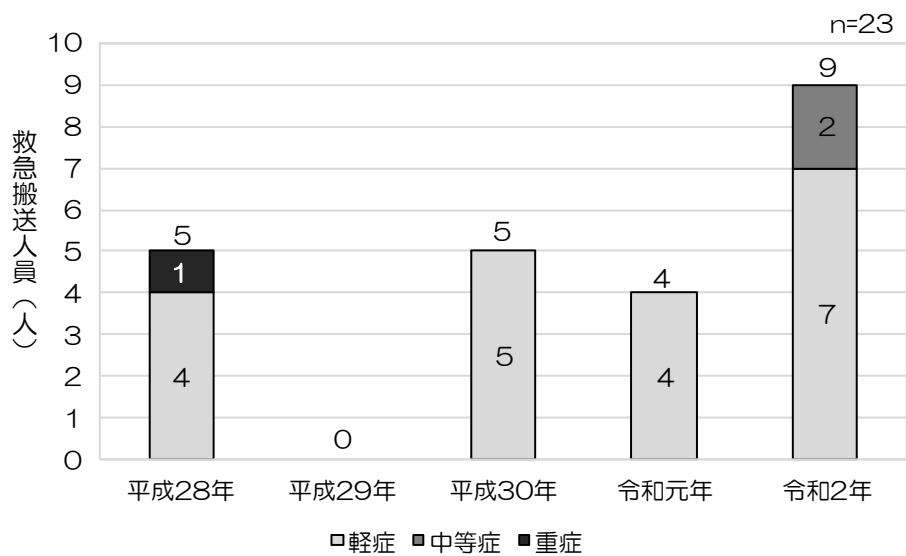


図1-34 年別・初診時程度別の搬送人員

カ トランポリンでの事故

平成23年から令和2年までの10年間で、294人が救急搬送されています。平成30年が多く事故が発生していますが、住宅等居住場所では、令和2年が最も多く発生しています（図1-35）。

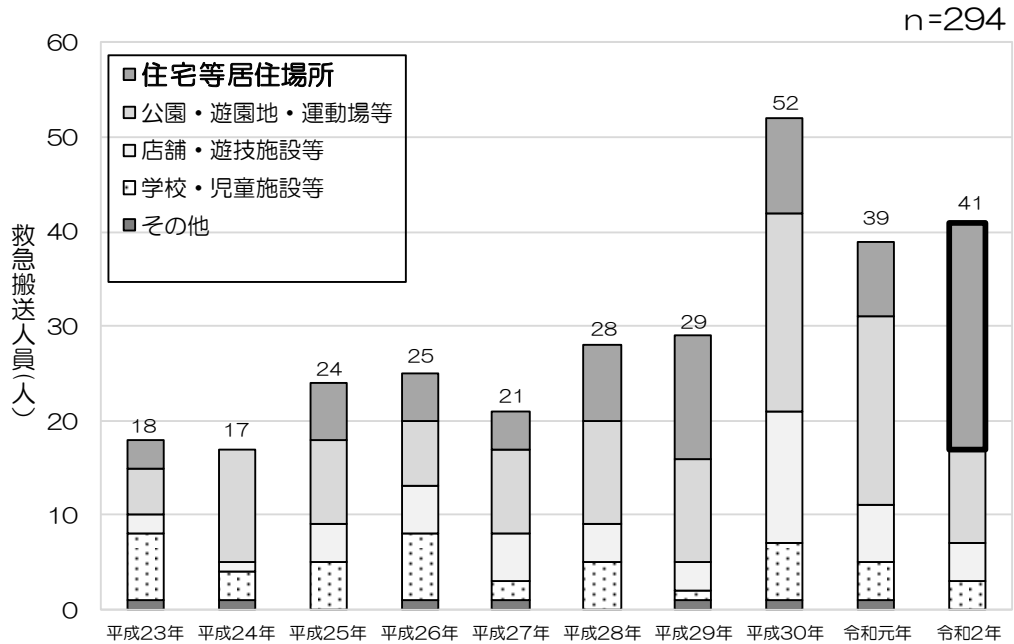


図1-35 年別・発生場所別の搬送人員

年代別では、10代で最も多く発生しています（図1-36）。

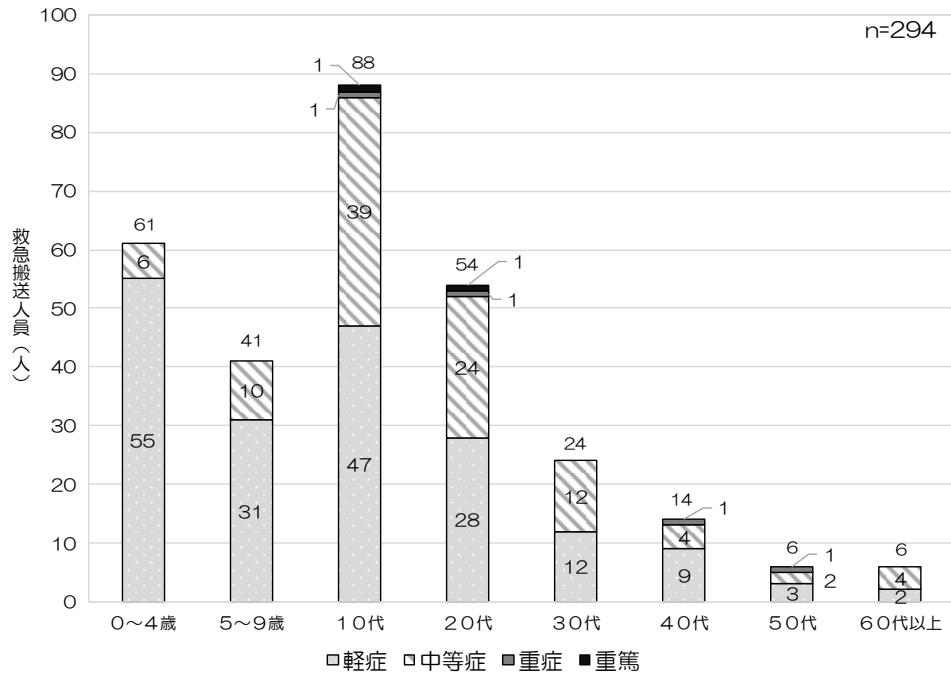


図1-36 年代別の救急搬送人員

「落ちる」、「ぶつかる」、「ころぶ」事故が全体の7割以上を占めています（図1-37）。

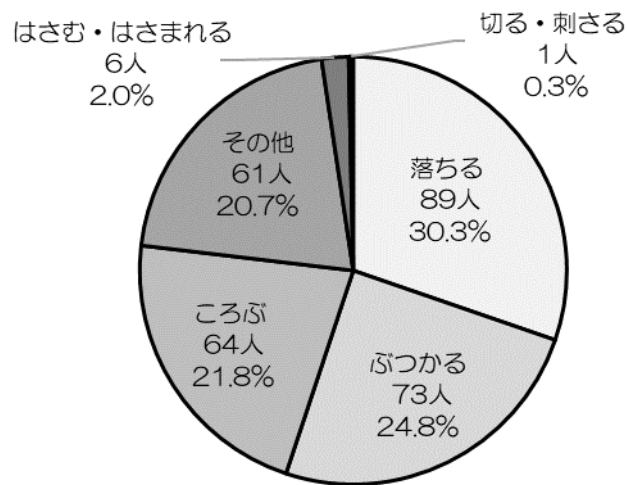


図1-37 事故種別ごとの救急搬送人員

キ 熱中症

平成28年から令和2年までの過去5年間（各年6月から9月まで）に25,376人が熱中症（疑い含む。）により救急搬送されています。コロナ禍でのマスクの着用により熱中症の増加が危惧されましたが、令和2年の救急搬送人員は5,796人で、令和元年と比較して大きな増加は見られませんでした（図1-38）。

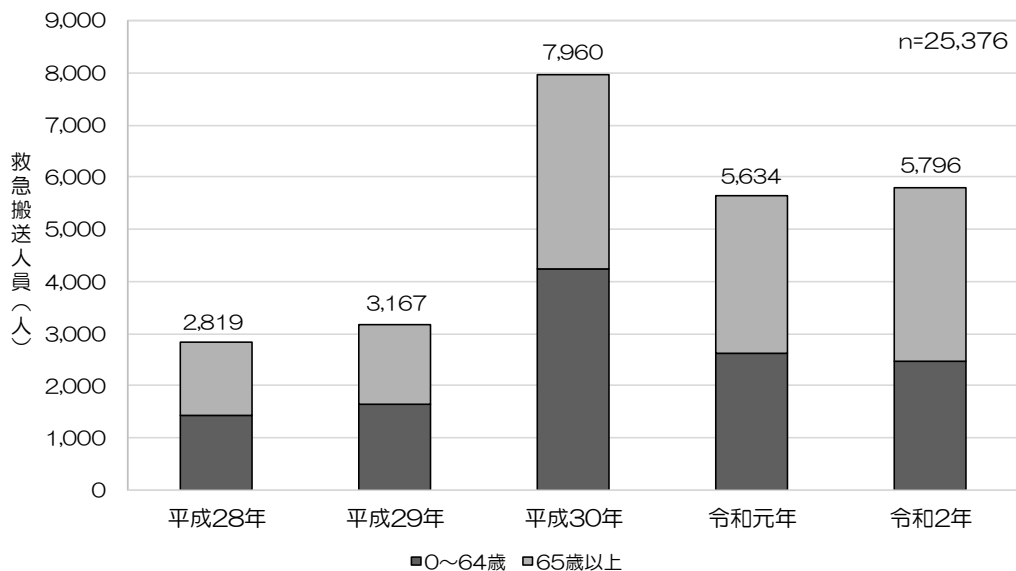


図1-38 年別の救急搬送人員

また、月別では、各年とも7月、8月に多く発生していますが、梅雨時期の6月や残暑の9月にも発生しています（図1-39）。

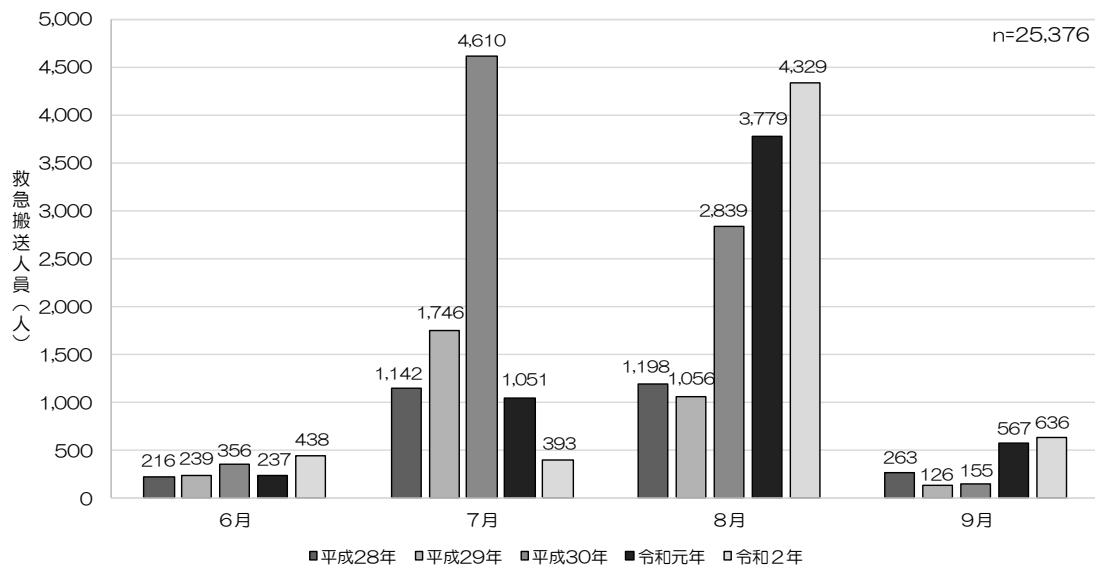


図1-39 過去5年間（各年6月から9月まで）の月別の救急搬送人員

第2部 種別ごとに見る事故

ここでは、日常生活における事故を「ころぶ」「落ちる」「ぶつかる」「ものがつまる・ものが入る・誤って飲み込む（ものがつまる等）」「切る・刺さる」「はさむ・はさまれる」「やけど」「かまれる・刺される」「おぼれる」の種別ごとに取り上げています。最も多いのは「ころぶ」事故で、全体（※その他、不明を除く）の7割以上となっています（図2-1）。

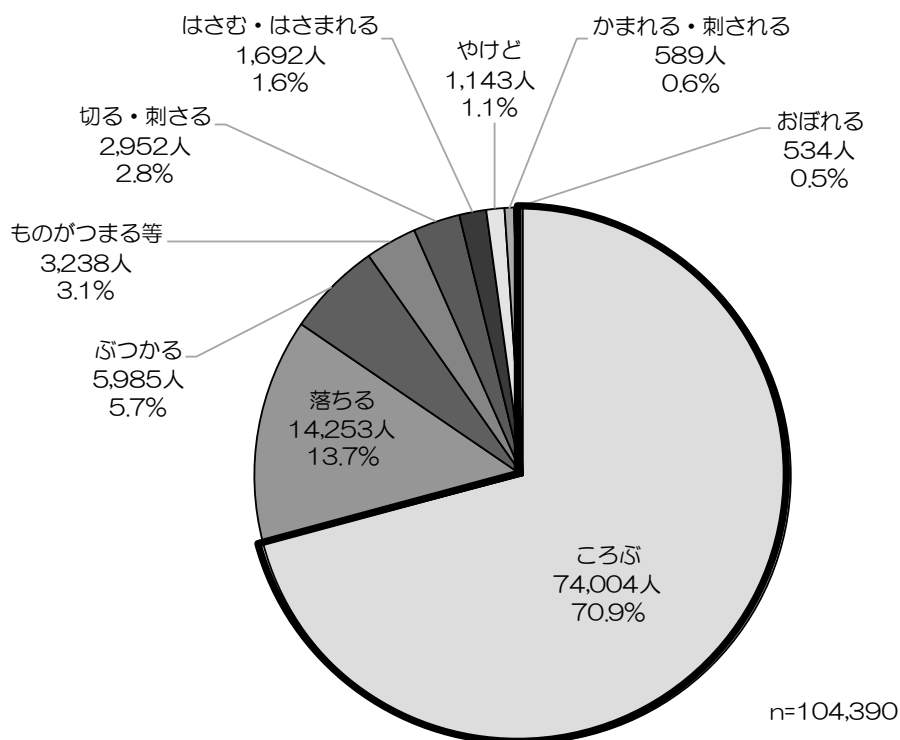


図2-1 事故の種類別構成割合（その他、不明を除く）

種別ごとに見ると、事故は年代によって特徴があります。乳幼児は他の年代に比べ、ものが詰まったり、ものを誤って飲み込む事故の割合が多く、また、やけどの割合も多くなっています。10代ではぶつかる事故の割合が多くなっています。また、高齢になるにつれて「ころび」事故の割合が増えています（図2-2、図2-3）。

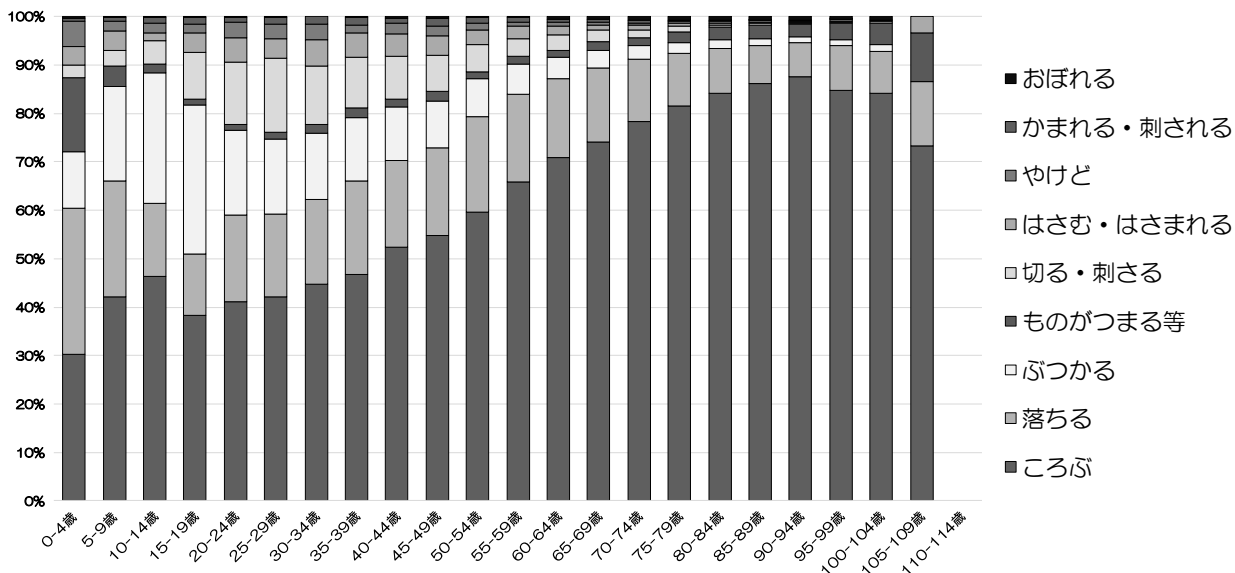


図2-2 年齢別の事故の種類別構成割合（その他、不明を除く）

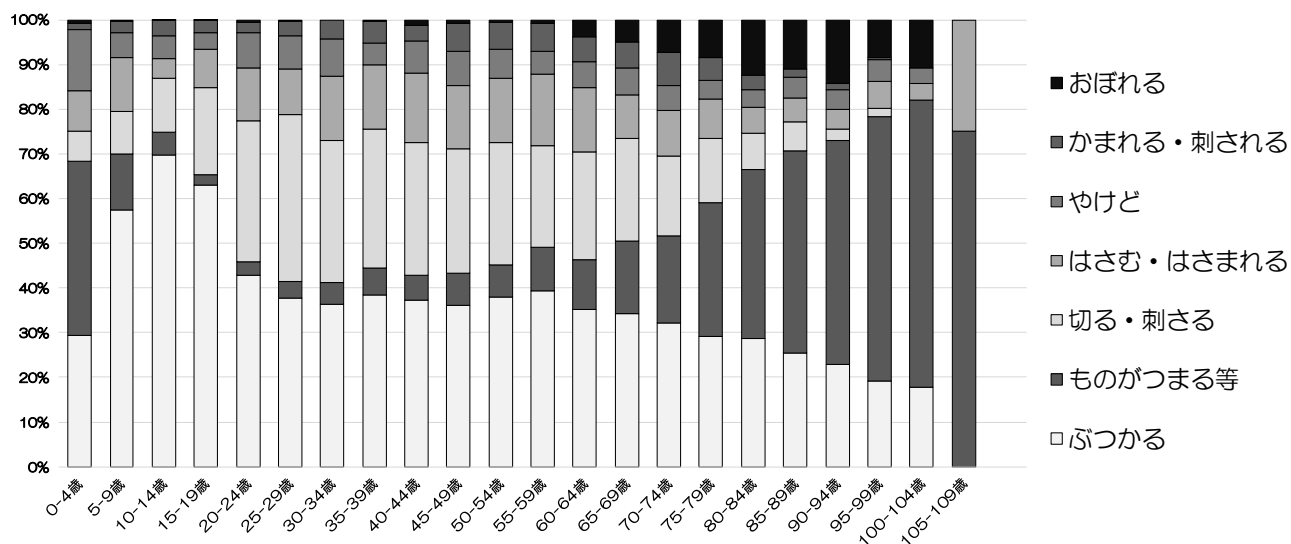


図2-3 年齢別の事故の種類別構成割合（ころび、落ちる、その他、不明を除く）

1. ころぶ

(1) 年別搬送人員

「ころぶ」事故は日常生活における事故の中で最も多く、令和2年中は74,004人が救急搬送されています（図2-4）。

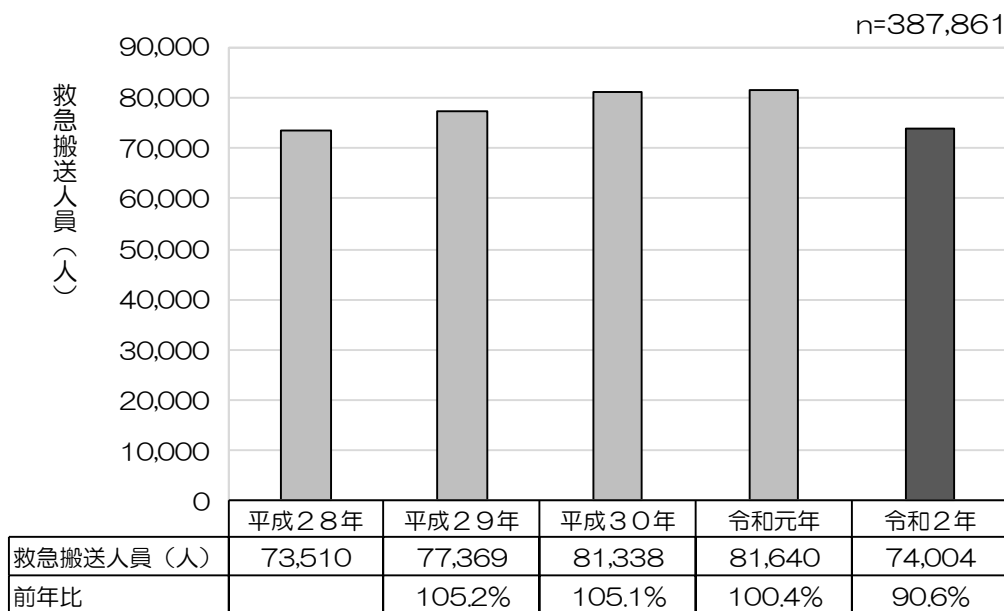


図2-4 年別の救急搬送人員

(2) 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別では、65歳以上の高齢者が多く救急搬送されています（図2-5）。

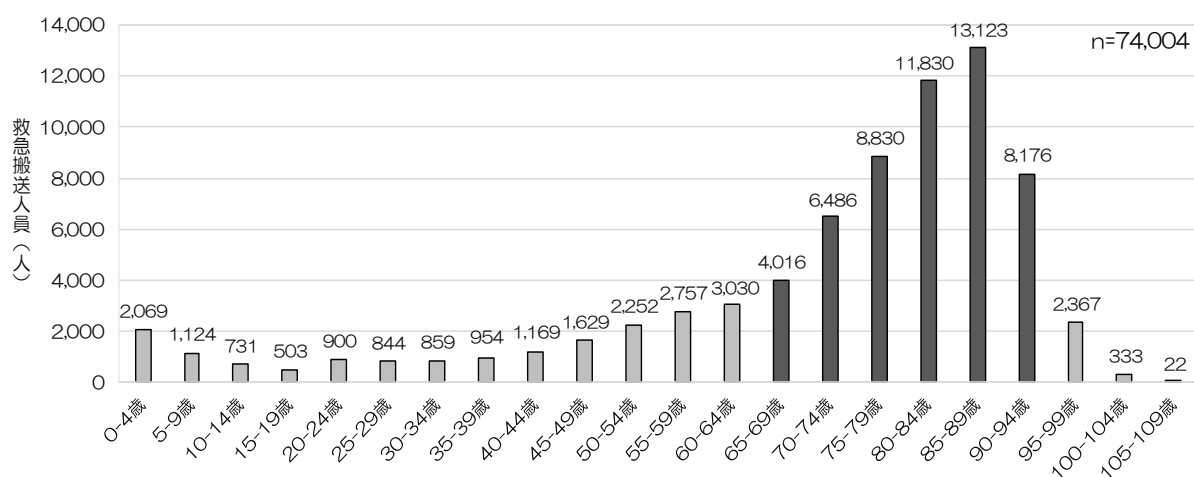


図2-5 年齢層別の救急搬送人員

(3) 発生場所別搬送人員

発生場所別では、住宅等居住場所が最も多く、次いで道路・交通施設となっています（図2-6）。

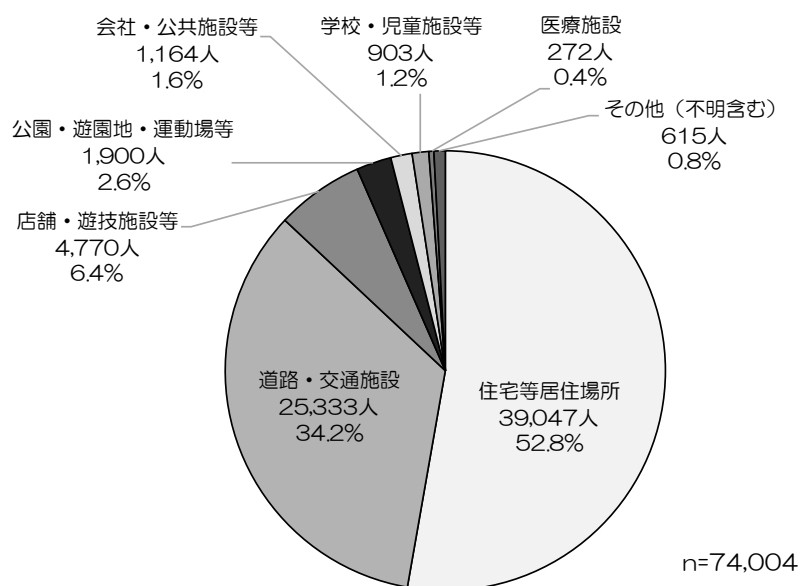


図2-6 発生場所別の救急搬送人員

(4) 初診時程度別搬送人員

初診時程度別では、3割以上が中等症以上と診断されています（図2-7）。

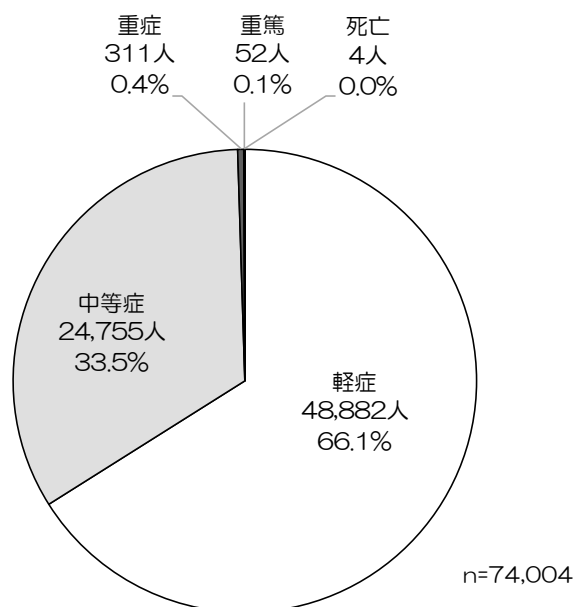


図2-7 初診時程度別の救急搬送人員

【事例 ころぶ】

浴室の床で足を滑らせて転倒し、立ち上がることができなくなった（90代 中等症）。

2. 落ちる

(1) 年別搬送人員

階段や脚立などから「落ちる」事故で、令和2年中に14,253人が救急搬送されています（図2-8）。

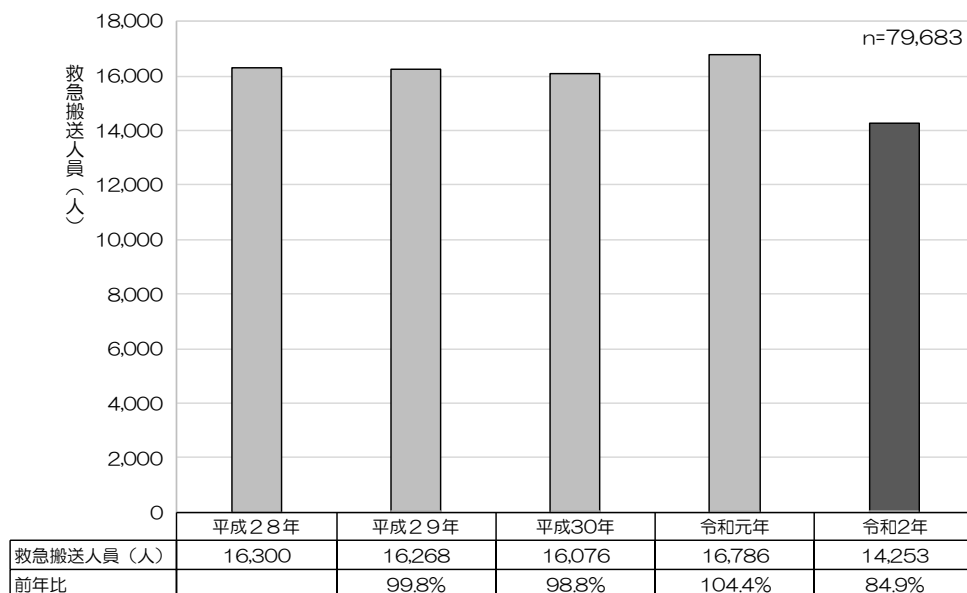


図2-8 年別の救急搬送人員

(2) 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別では、0歳から4歳までが最も多く、2,067人が救急搬送されています（図2-9）。

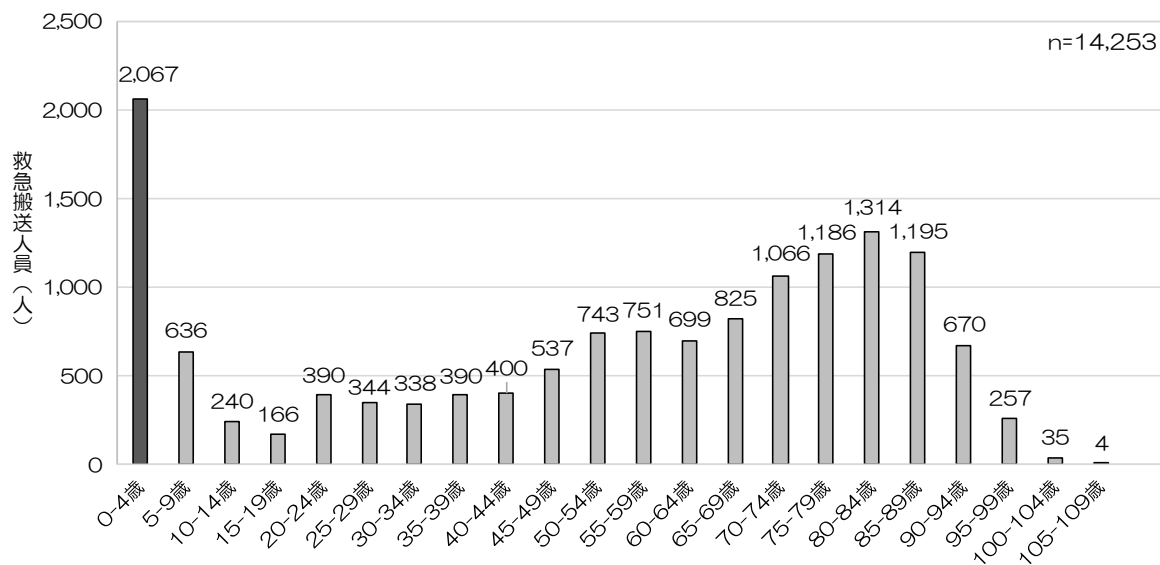


図2-9 年齢層別の救急搬送人員

(3) 発生場所別搬送人員

発生場所別では、住宅等居住場所が最も多く半数以上となっています。次いで、道路・交通施設、店舗・遊技施設等で多く発生しています（図2-10）。

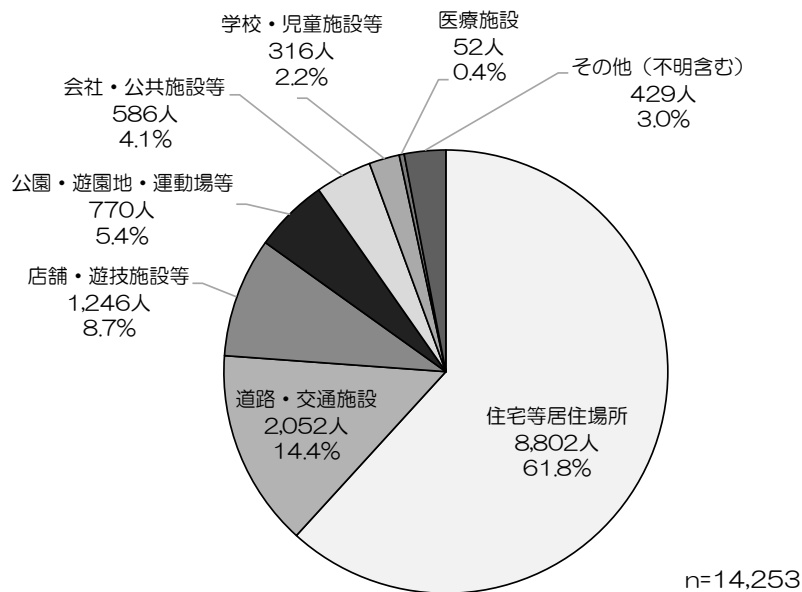


図2-10 発生場所別の救急搬送人員

(4) 初診時程度別搬送人員

初診時程度別では、3割以上が中等症以上と診断されています（図2-11）。

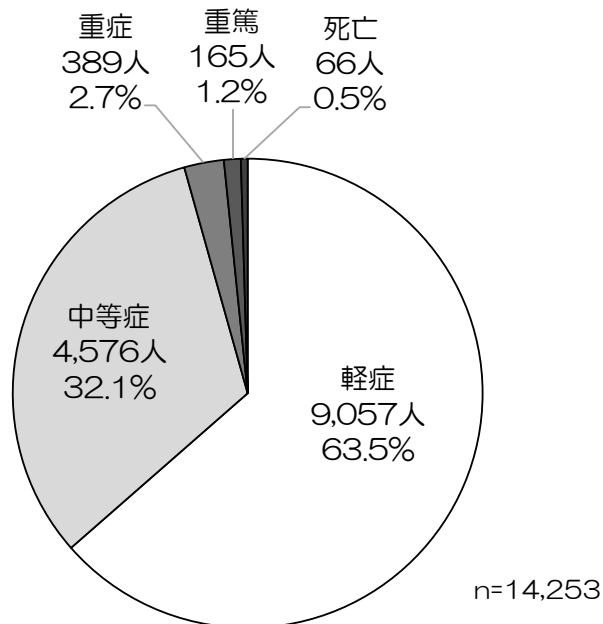


図2-11 初診時程度別の救急搬送人員

【事例 落ちる】

2段ベッドの上の段に親と一緒に寝ていたところ、ベッド脇の柵を乗り越えて床に転落した（3歳 中等症）。

3. ぶつかる

(1) 年別搬送人員

飛んできたボールに「ぶつかる」事故や、走っていて人やものに「ぶつかる」事故で、令和2年中に5,985人が救急搬送されています（図2-12）。

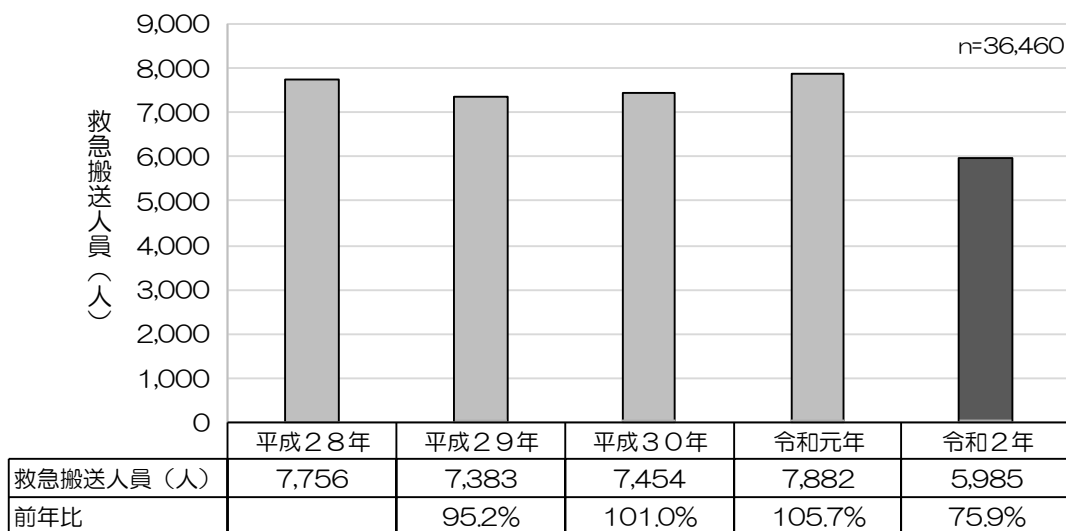


図2-12 年別の救急搬送人員

(2) 年齢層別搬送人員

年齢層別（5歳単位）では、最も多いのは0歳から4歳までとなっており、加齢とともに減少しています（図2-13）。

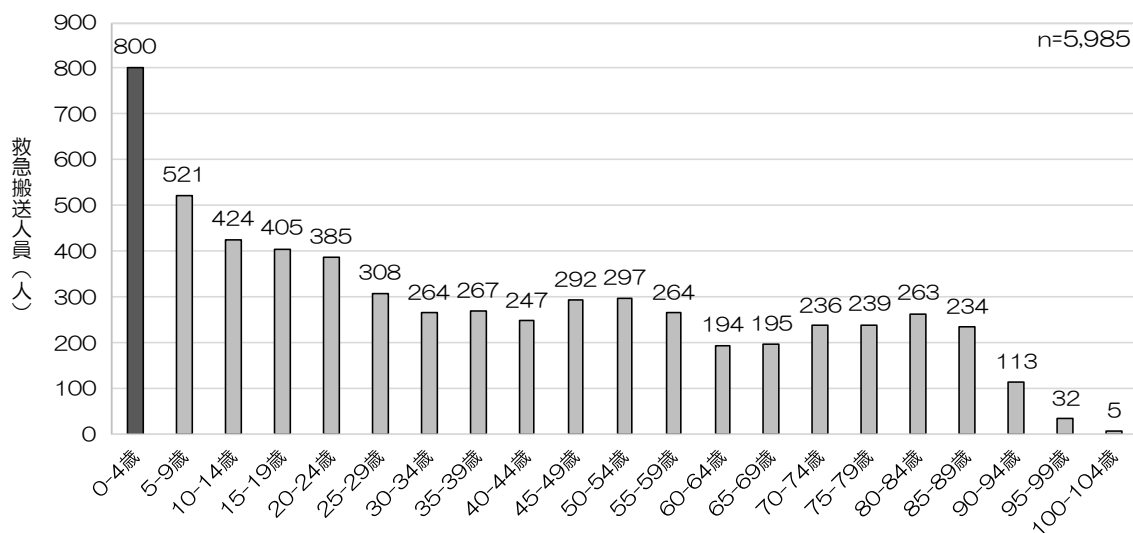


図2-13 年齢層別の救急搬送人員

(3) 発生場所別搬送人員

発生場所別では、住宅等居住場所が最も多く、次いで道路・交通施設や公園・遊園地・運動場等での事故が多く発生しています（図 2-14）。

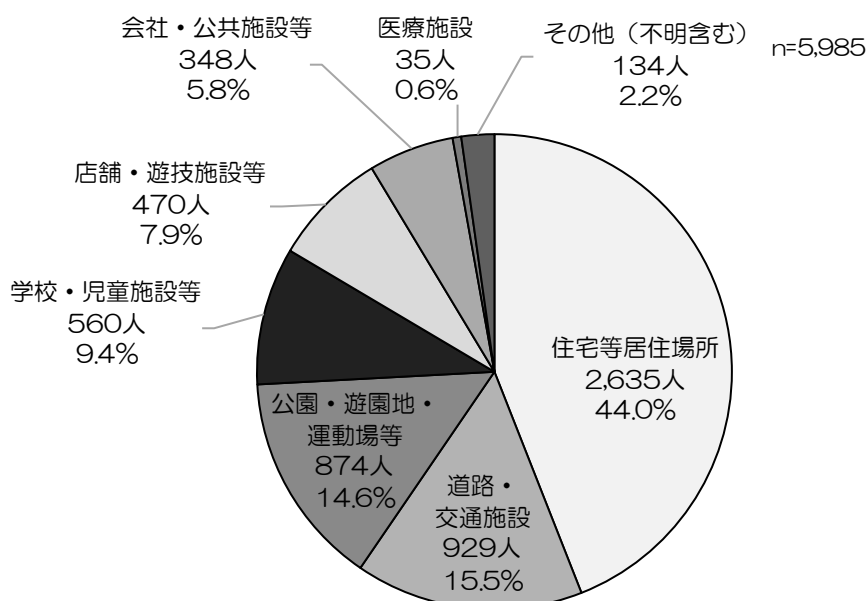


図 2-14 発生場所別の救急搬送人員

(4) 初診時程度別搬送人員

初診時程度別では、全体の8割以上が軽症ですが、重症や重篤、死亡と診断される事故も発生しています（図 2-15）。

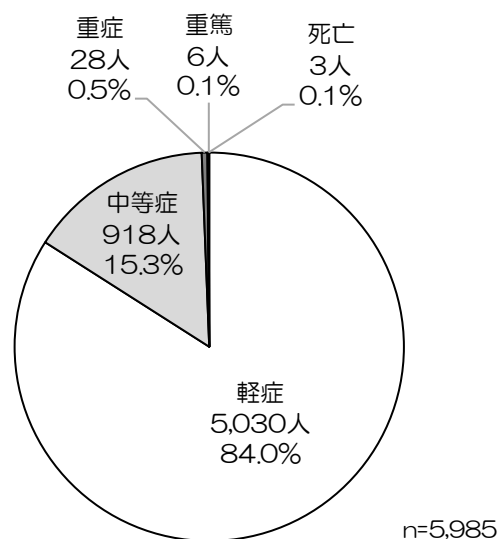


図 2-15 初診時程度別の救急搬送人員

【事例 ぶつかる】

体育の授業中に、ソフトボールが顔面に当たり鼻を受傷した（10代 中等症）。

4. ものがつまる・ものが入る・誤って飲み込む

(1) 年別搬送人員

食べ物を喉につまらせたり、たばこや玩具などを飲み込んでしまう事故により、令和2年中は3,238人が救急搬送されています（図2-16）。

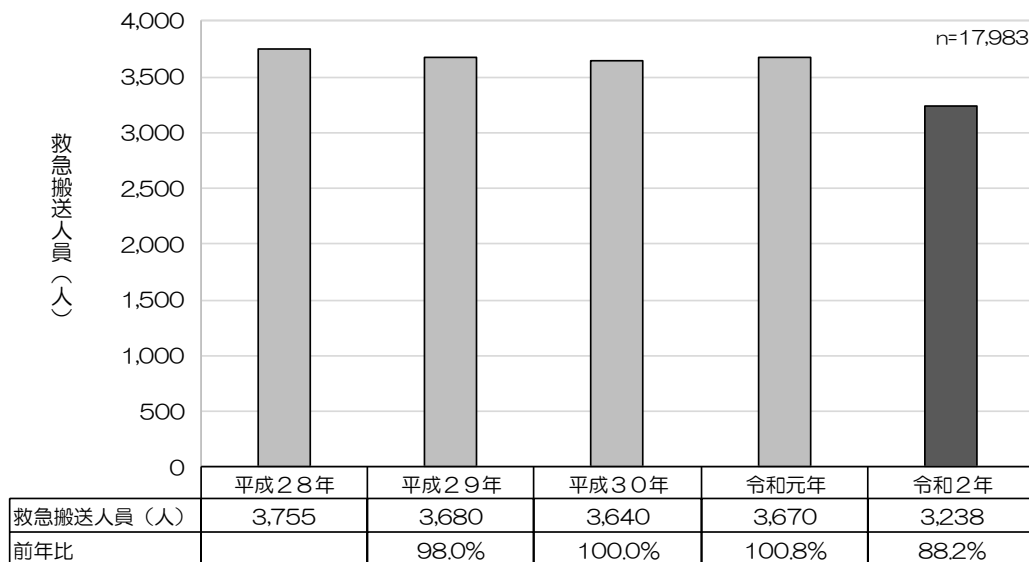


図2-16 年別の救急搬送人員

(2) 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別では、0歳から4歳までが最も多く、1,058人が救急搬送されています（図2-17）。

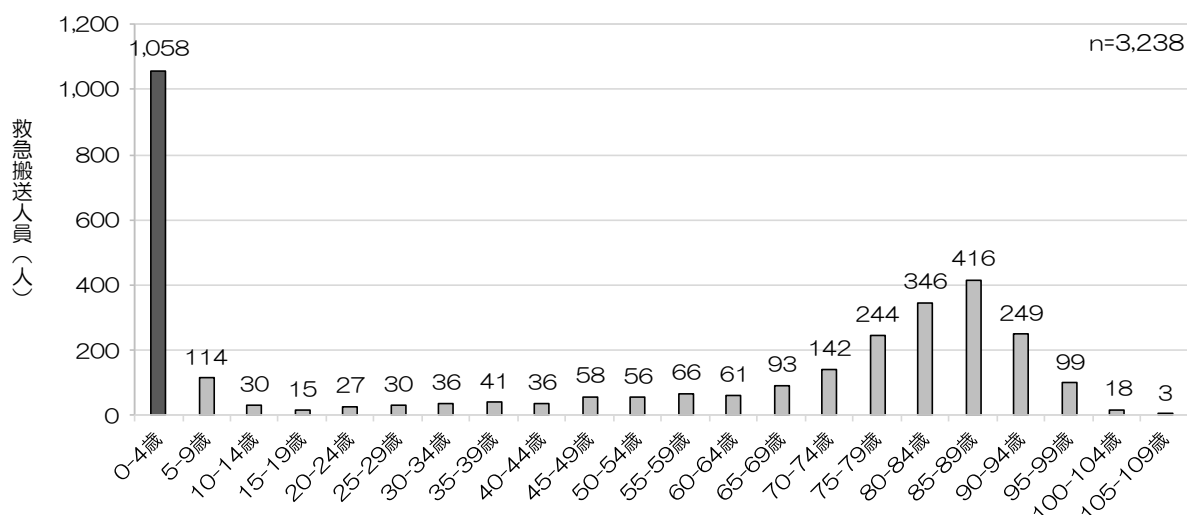


図2-17 年齢層別の救急搬送人員

(3) 発生場所別搬送人員

発生場所別では、住宅等居住場所が9割以上と最も多く、次いで、店舗・遊技施設等が多くなっています（図2-18）。

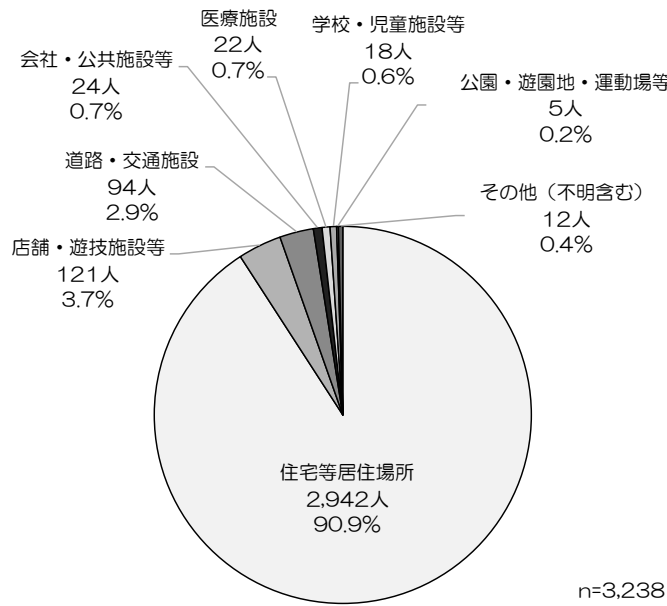


図2-18 発生場所別の救急搬送人員

(4) 初診時程度別搬送人員

初診時程度別では、3割以上が中等症以上と診断されています（図2-19）。

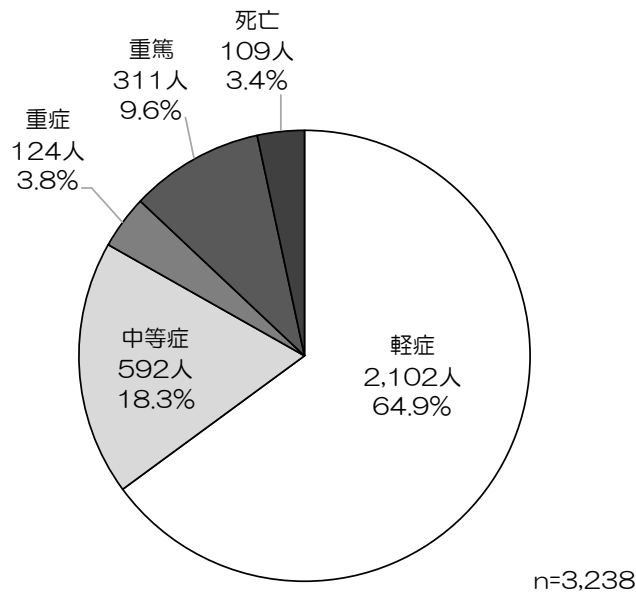


図2-19 初診時程度別の救急搬送人員

【事例 ものがつまる】

食事中に、餅を喉に詰まらせて倒れ、意識を失った（80代 重篤）。

5. 切る・刺さる

(1) 年別搬送人員

刃物で切ったり、何かが刺さったりする事故で、令和2年中に2,952人が救急搬送されています（図2-20）。

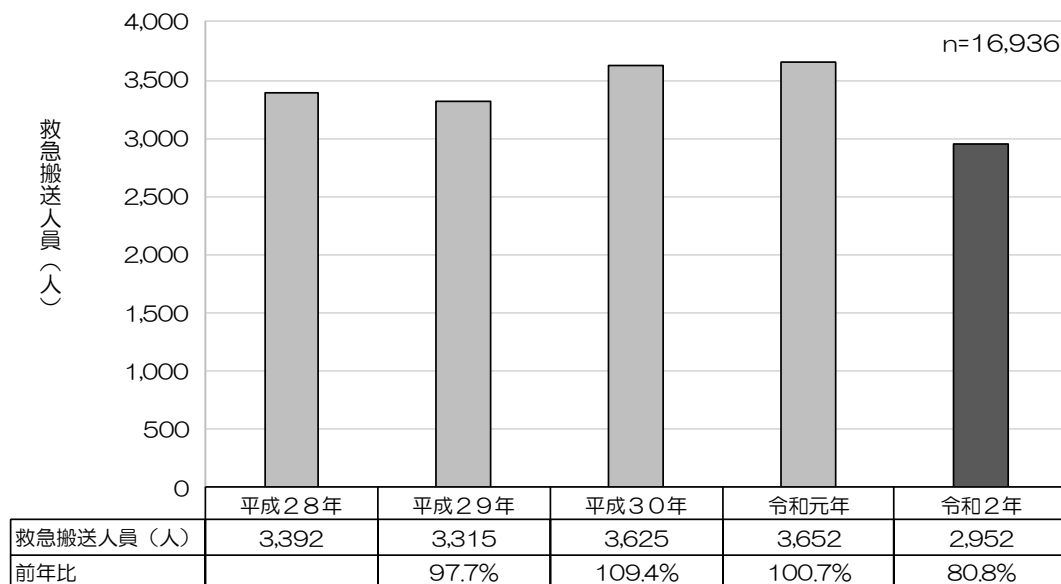


図2-20 年別の救急搬送人員

(2) 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別では、20歳代での救急搬送人員が多くなっています（図2-21）。

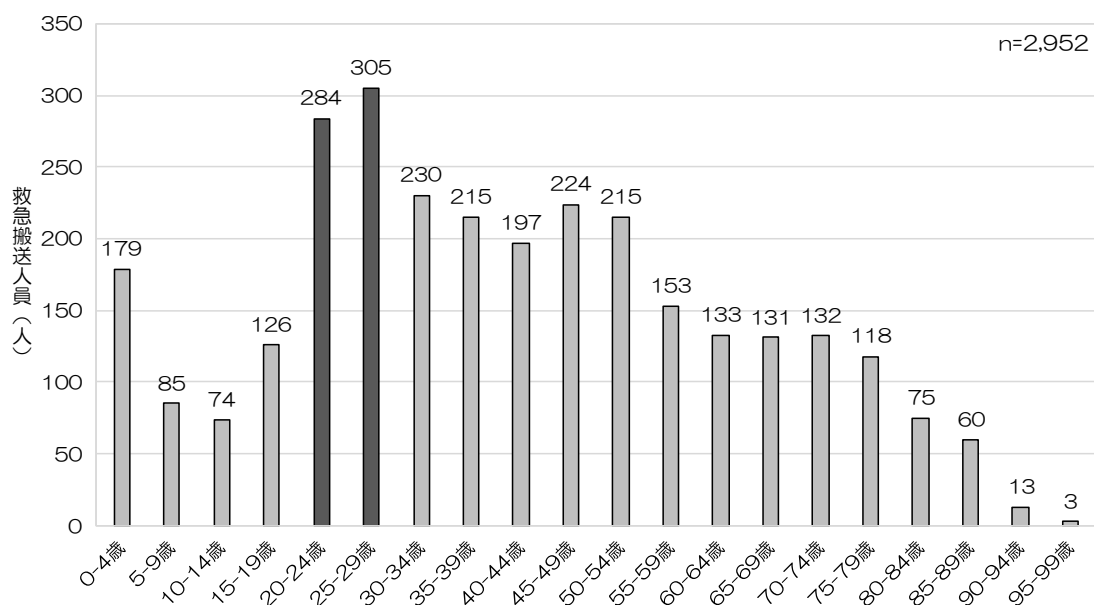


図2-21 年齢層別の救急搬送人員

(3) 発生場所別搬送人員

発生場所別では、住宅等居住場所が最も多く約7割を占めており、次いで店舗・遊技施設等、会社・公共施設等が多くなっています（図2-22）。

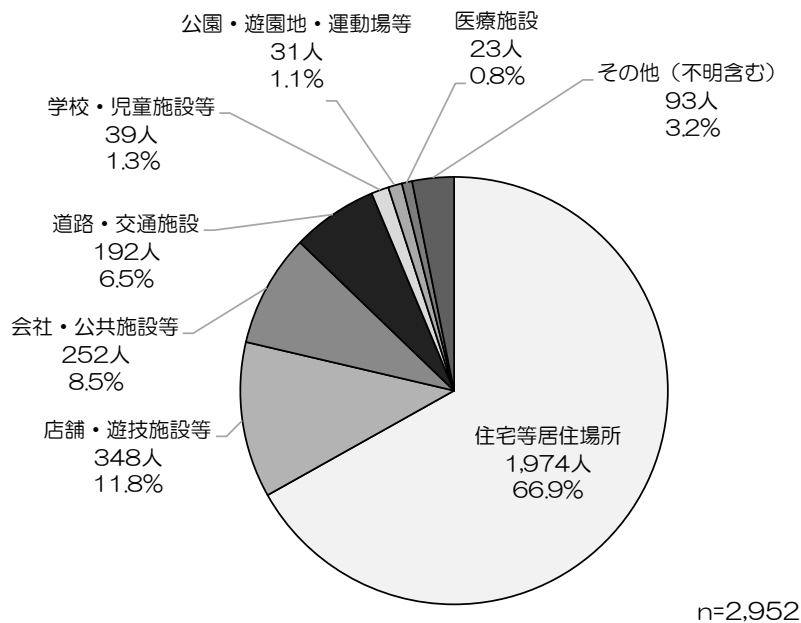


図2-22 発生場所別の救急搬送人員

(4) 初診時程度別搬送人員

初診時程度別では、全体の1割以上が中等症以上と診断されています（図2-23）。

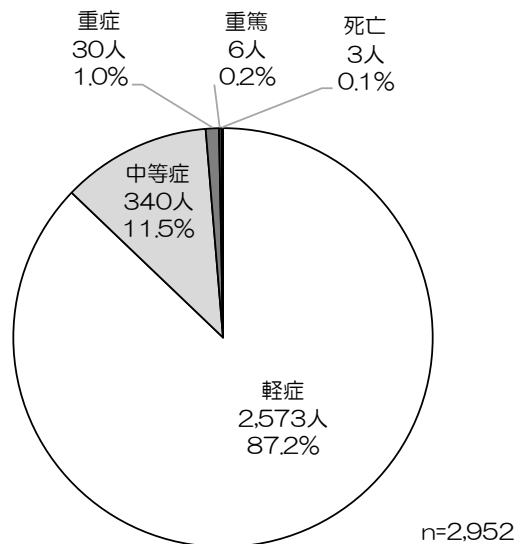


図2-23 初診時程度別の救急搬送人員

【事例 切る】

建物の内装工事中に、電動のこぎりで誤って指を切創した（50代 中等症）。

6. はさむ・はさまれる

(1) 年別搬送人員

ドアや機械、鉄道車両の戸袋などにはさまれたり巻き込まれたりする事故で、令和2年中に1,692人が救急搬送されています（図2-24）。

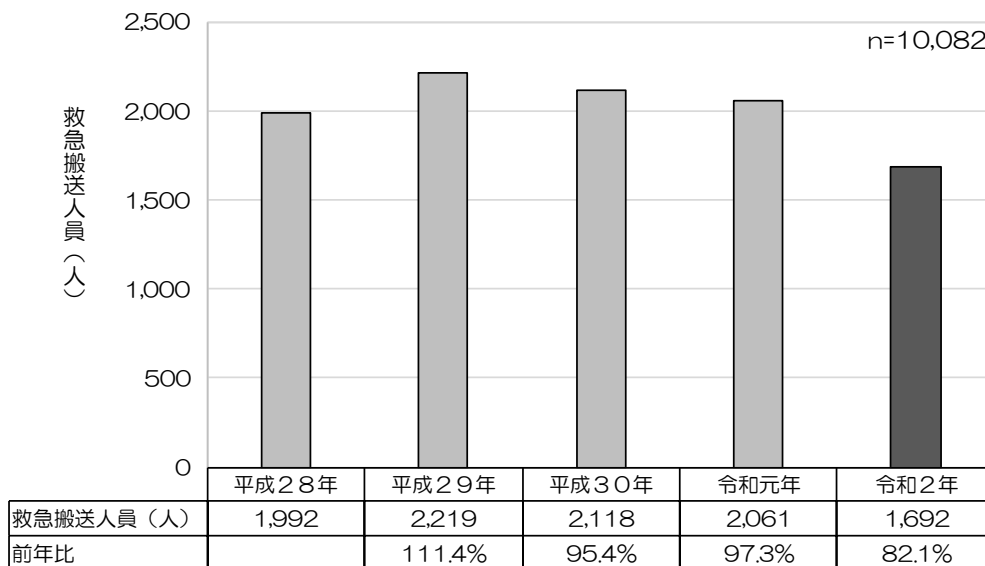


図2-24 年別の救急搬送人員

(2) 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別では、0歳から4歳までが最も多く251人が救急搬送されています（図2-25）。

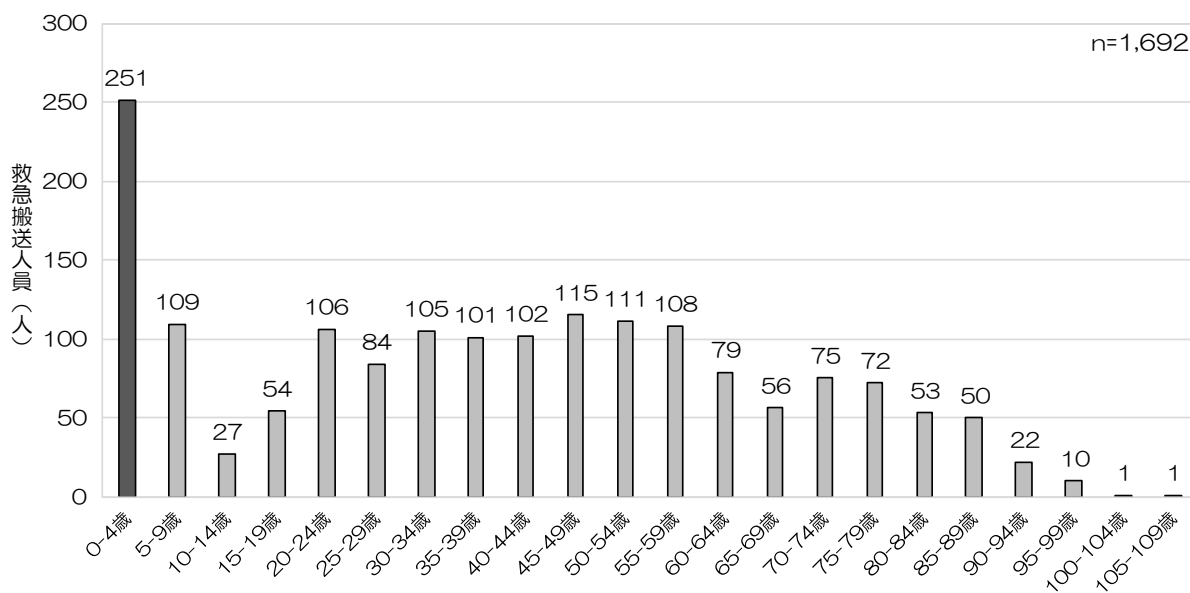


図2-25 年齢層別の救急搬送人員

(3) 発生場所別搬送人員

発生場所別では、住宅等居住場所が約4割と最も多く、次いで会社・公共施設等や道路・交通施設でも多く発生しています（図2-26）。

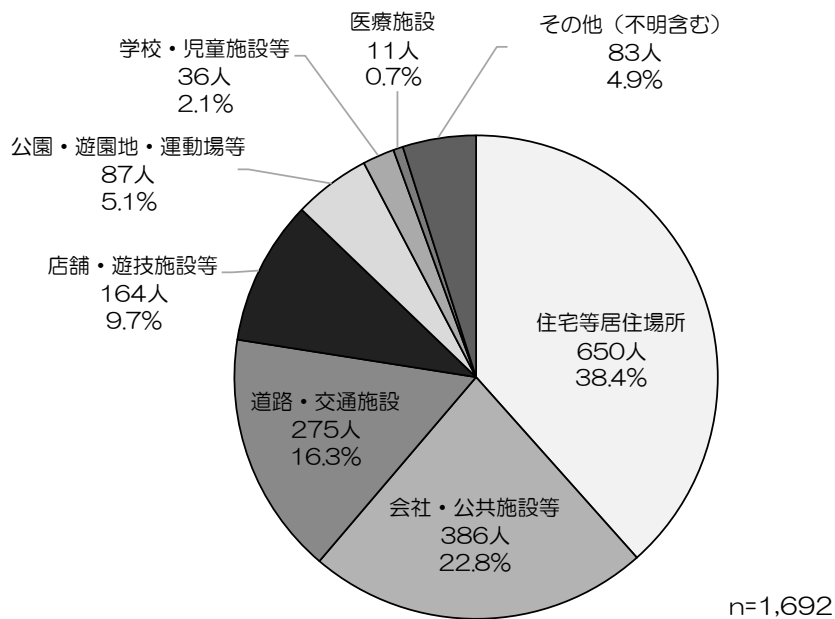


図2-26 発生場所別の救急搬送人員

(4) 初診時程度別搬送人員

初診時程度別では、3割以上が中等症以上と診断されています（図2-27）。

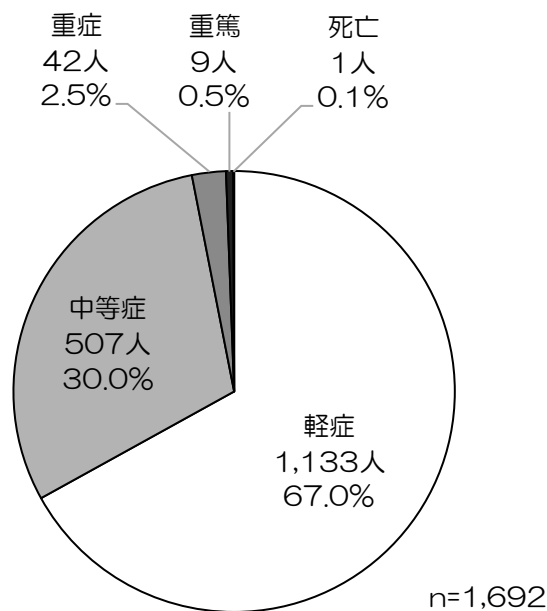


図2-27 初診時程度別の救急搬送人員

【事例 はさまれる】

居室において、ドア枠に手を置いていたことに気づかず親が扉を閉めてしまい、手をはさまれた（5歳 中等症）。

7. やけど

(1) 年別搬送人員

熱湯や天ぷら油等によるやけどで、令和2年中に1,143人が救急搬送されます（図2-28）。

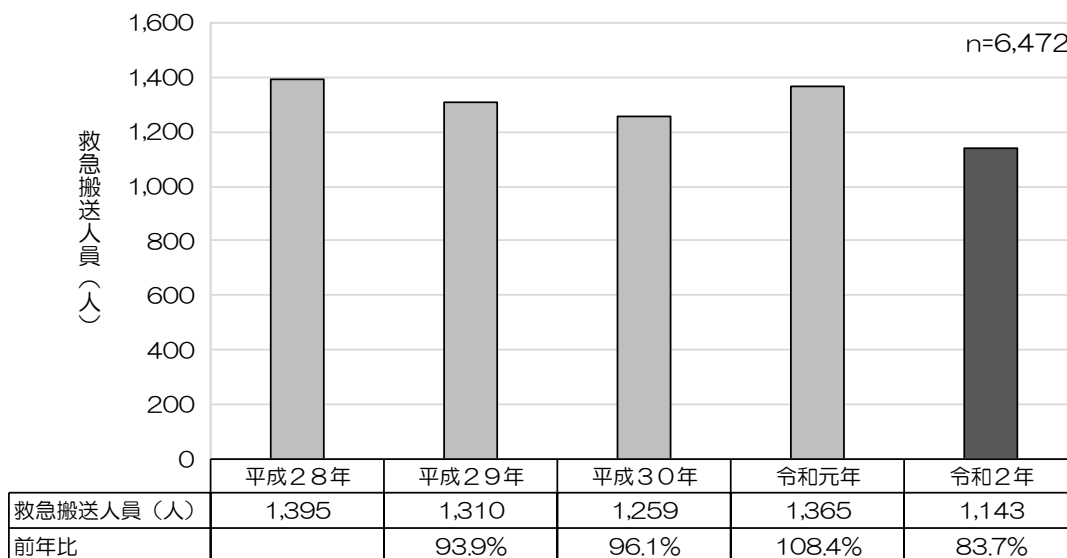


図2-28 年別の救急搬送人員

(2) 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別では、0歳から4歳までが最も多く、370人が救急搬送され、全体の3割以上を占めています（図2-29）。

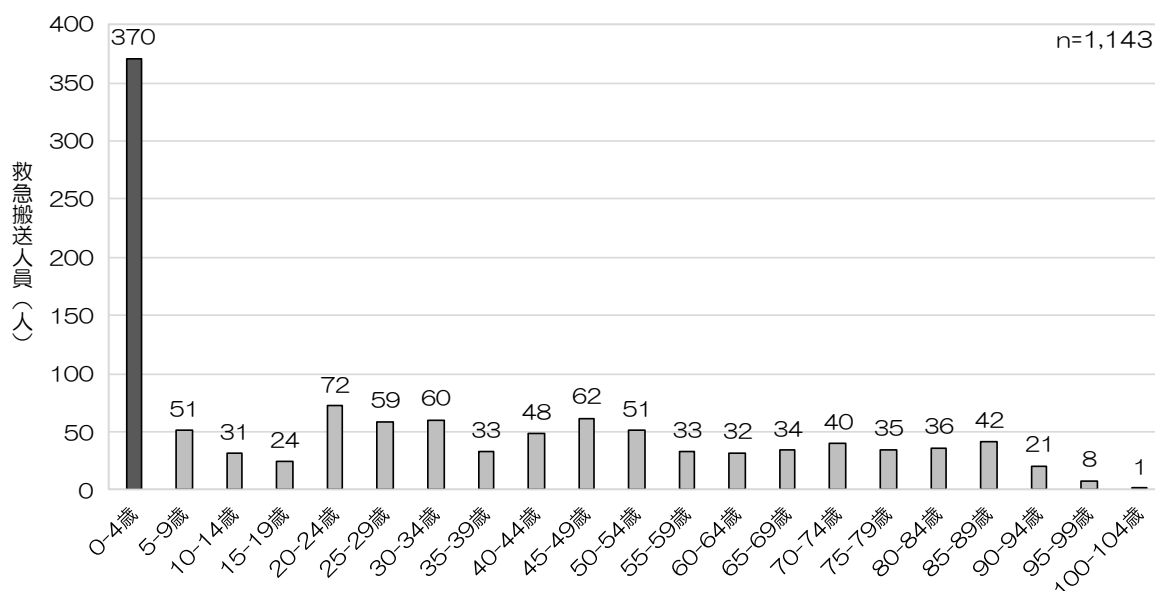


図2-29 年齢層別の救急搬送人員

(3) 発生場所別搬送人員

発生場所別では、住宅等居住場所の割合が最も多く、8割以上となっています（図2-30）。

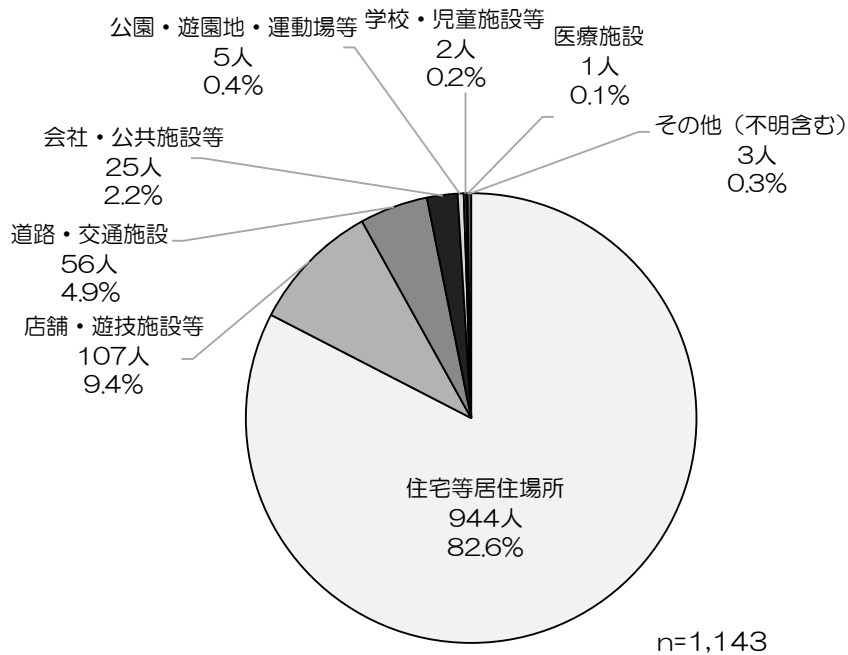


図2-30 発生場所別の救急搬送人員

(4) 初診時程度別搬送人員

初診時程度別では、2割以上が中等症以上と診断されています（図2-31）。

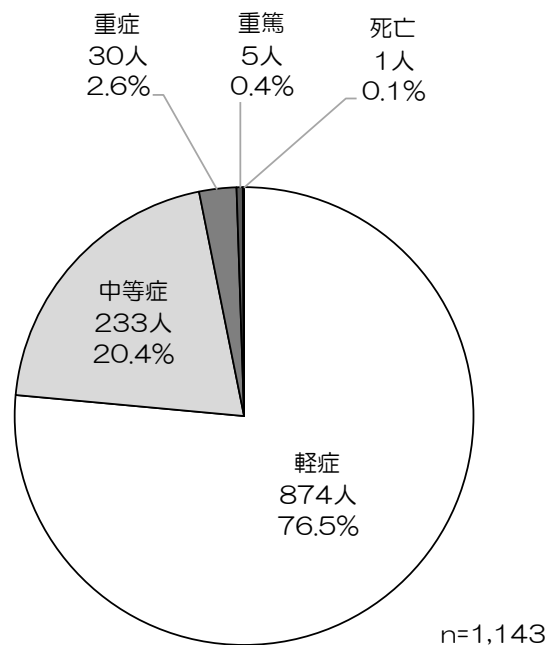


図2-31 初診時程度別の救急搬送人員

【事例 やけど】

テーブル上に置いてあった熱いお茶の入ったカップに触り、カップがテーブルから落ちた際にお茶が体にかかってやけどした（5歳 重症）。

8. かまれる・刺される

(1) 年別搬送人員

犬にかまれる、蜂に刺される等で、令和2年中に589人が救急搬送されています（図2-32）。

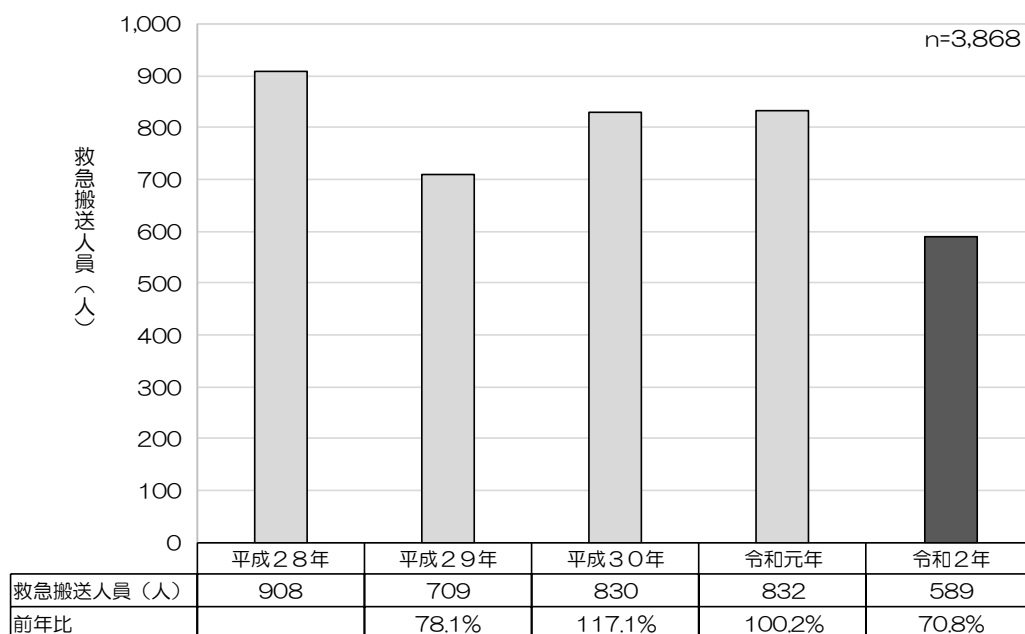


図2-32 年別の救急搬送人員

(2) 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別では、45歳から49歳までと70歳から74歳までが50人以上と多くなっています（図2-33）。

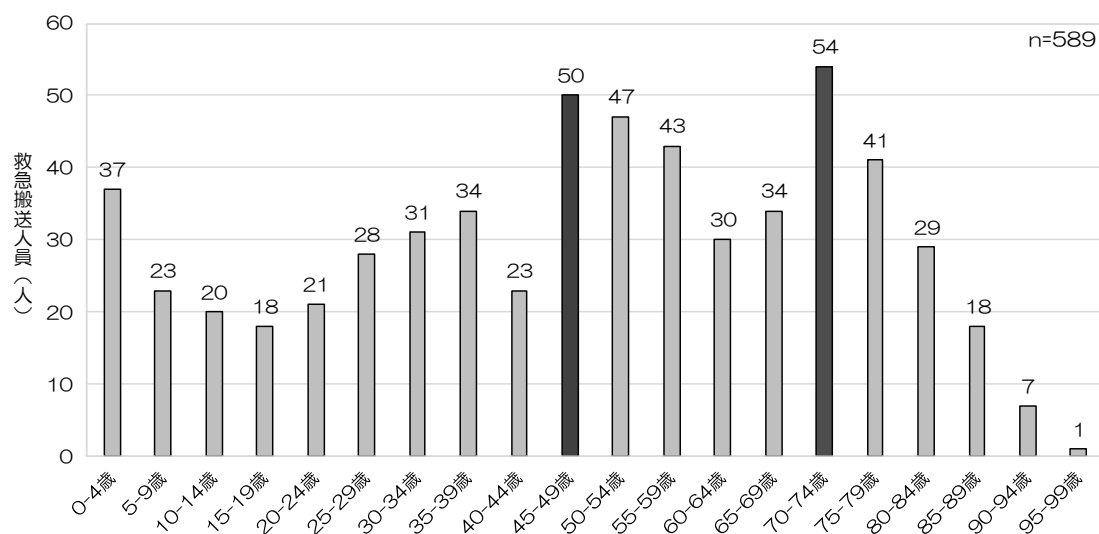


図2-33 年齢層別の救急搬送人員

(3) 発生場所別搬送人員

発生場所別では、住宅等居住場所が多く、次いで道路・交通施設が多くなっています（図2-34）。

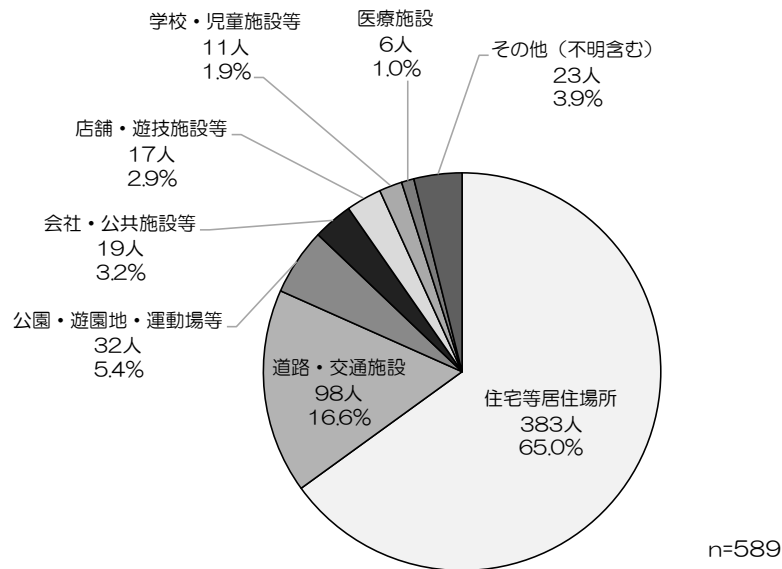


図2-34 発生場所別の救急搬送人員

(4) 初診時程度別搬送人員

初診時程度別では、軽症が約9割を占めていますが、中等症と診断される事故も発生しています（図2-35）。

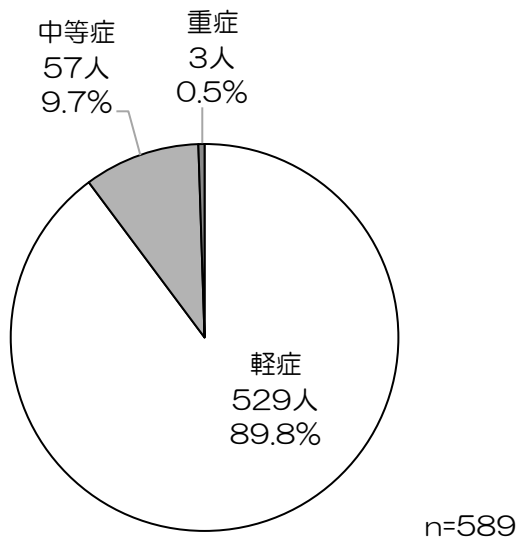


図2-35 初診時程度別の救急搬送人員

【事例 刺される】

害虫駆除作業中に、頭を蜂に刺された（70代 重症）。

9. おぼれる

(1) 年別搬送人員

浴槽や海、河川等での事故で、令和2年中は534人が救急搬送されています（図2-36）。

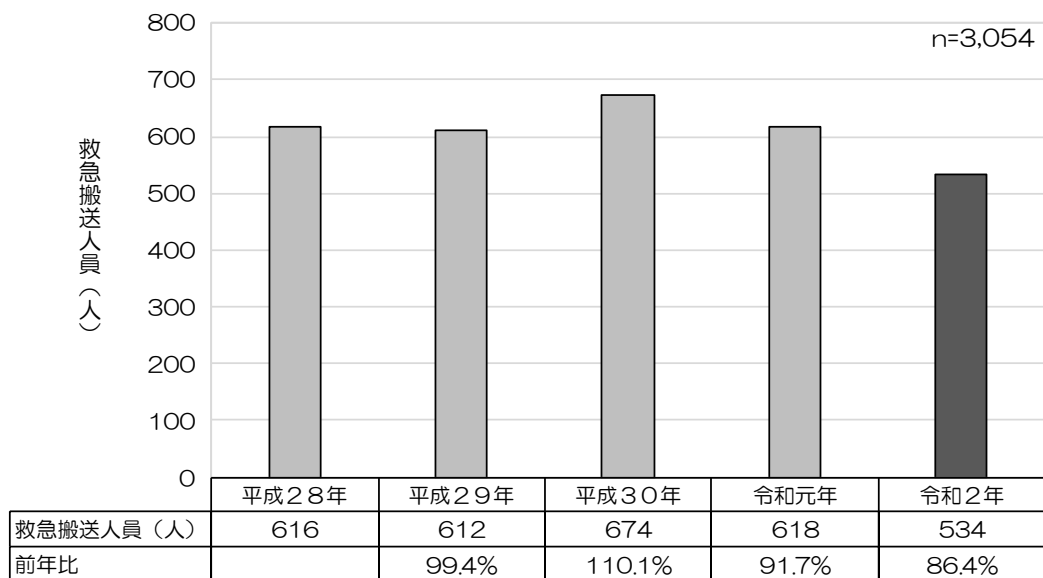


図2-36 年別の救急搬送人員

(2) 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別では、乳幼児、高齢者に多く発生しています（図2-37）。

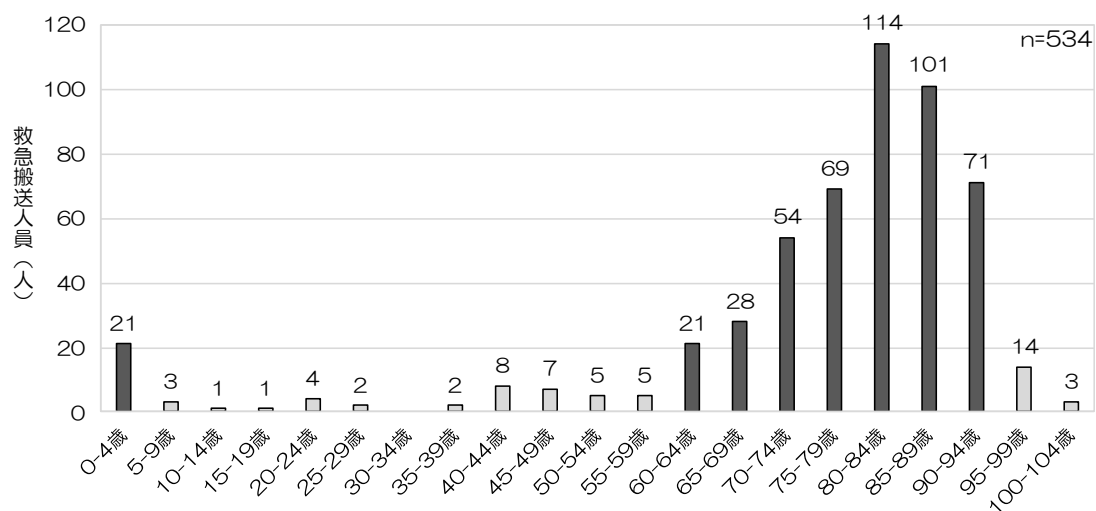


図2-37 年齢層別の救急搬送人員

(3) 発生場所別搬送人員

発生場所別では、住宅等居住場所が8割以上で最も多くなっています(図2-38)。

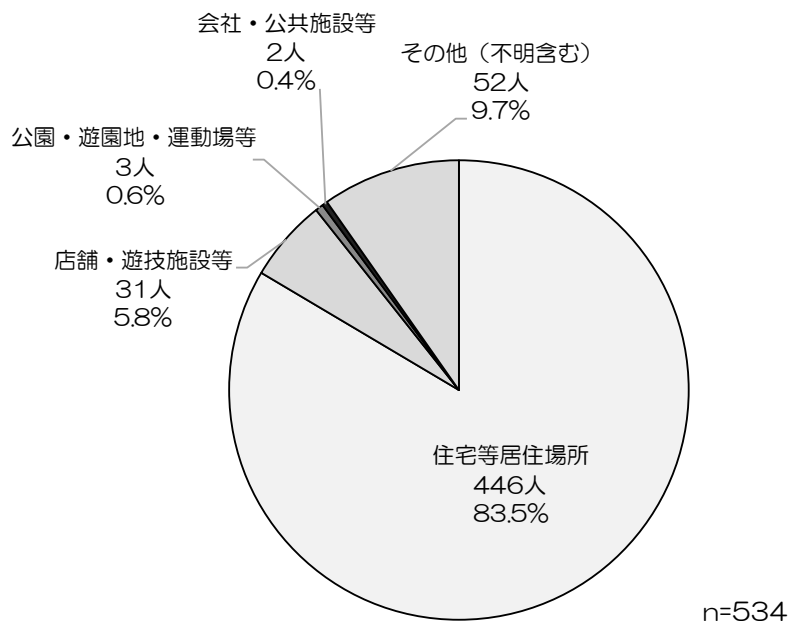


図2-38 発生場所別の救急搬送人員

(4) 初診時程度別搬送人員

初診時程度別では、9割以上が中等症以上と診断されており、さらに8割以上が重篤又は死亡と診断されています(図2-39)。

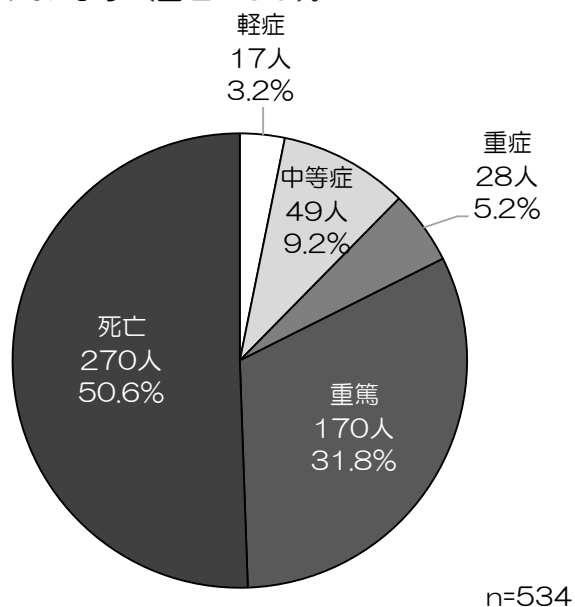


図2-39 初診時程度別の救急搬送人

【事例 おぼれる】

入浴中、家族の呼びかけに反応がないため様子を見に行くと、浴槽内で顔を水没させ意識がない状態だった(80代 死亡)。

第3部 年齢から見た事故

ここでは、年齢層別での比較や乳幼児、就学区分、成人、高齢者などの年齢区分ごとに事故の傾向や事故の要因等を取り上げています。

令和2年中の救急搬送人員を年齢層別に見ると、70代が22,000人、80代が33,000人を超え、多く救急搬送されています。

また、若い年代を見ると9歳以下が11,077人と多く救急搬送されています（図3-1）。

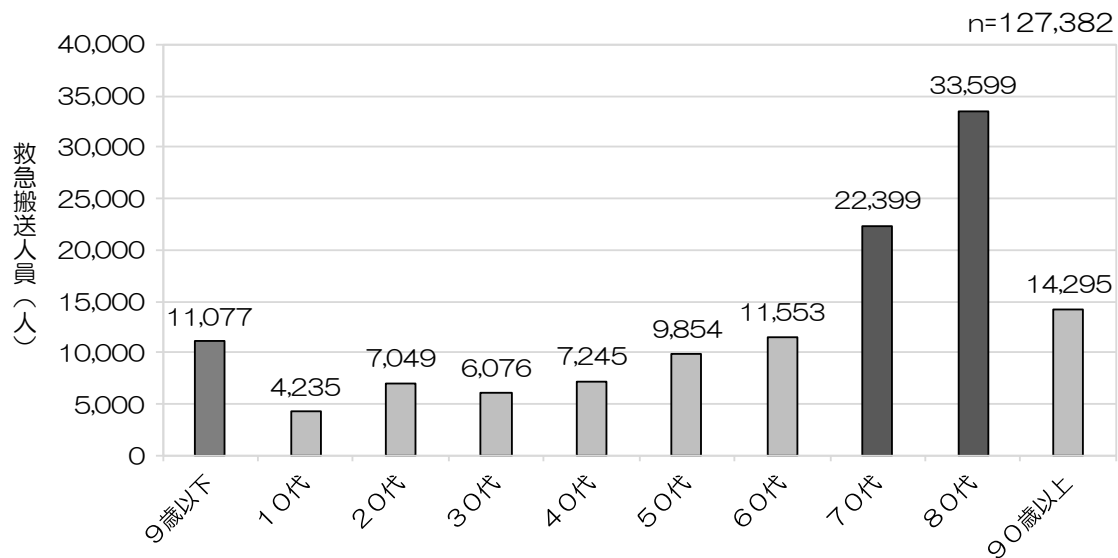


図3-1 年齢層別の救急搬送人員

1. 年齢区分から見た事故

(1) 0歳～5歳（乳幼児）の事故

① 0歳～5歳

ア 年別搬送人員

0歳から5歳までの乳幼児の事故で、平成28年から令和2年までの5年間に47,178人が救急搬送されています。令和2年は、昨年より減少し8,781人が救急搬送されています（図3-2）。

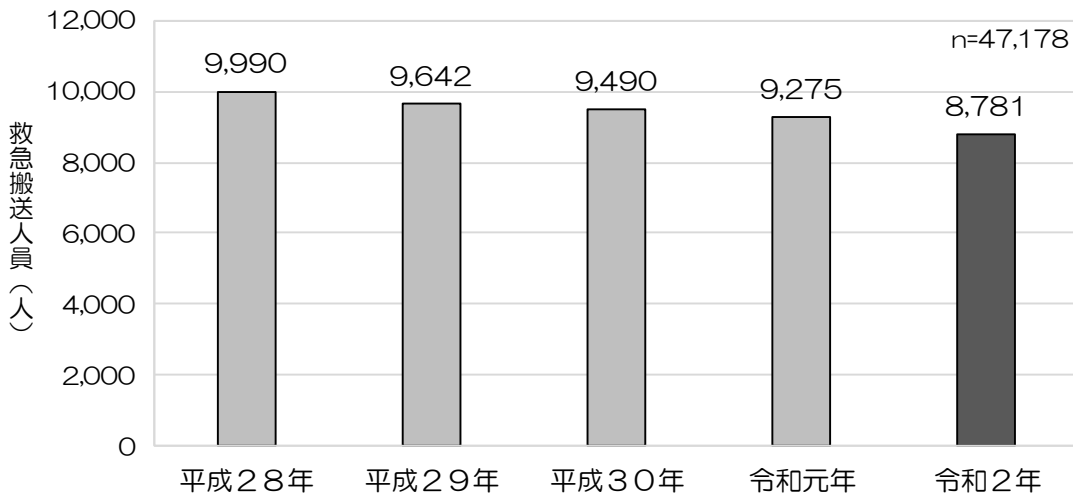


図3-2 年別の救急搬送人員

イ 年齢別搬送人員

年齢別では、1歳児の救急搬送人員が2,070人と最も多く、次いで2歳児が1,815人となっています（図3-3）。

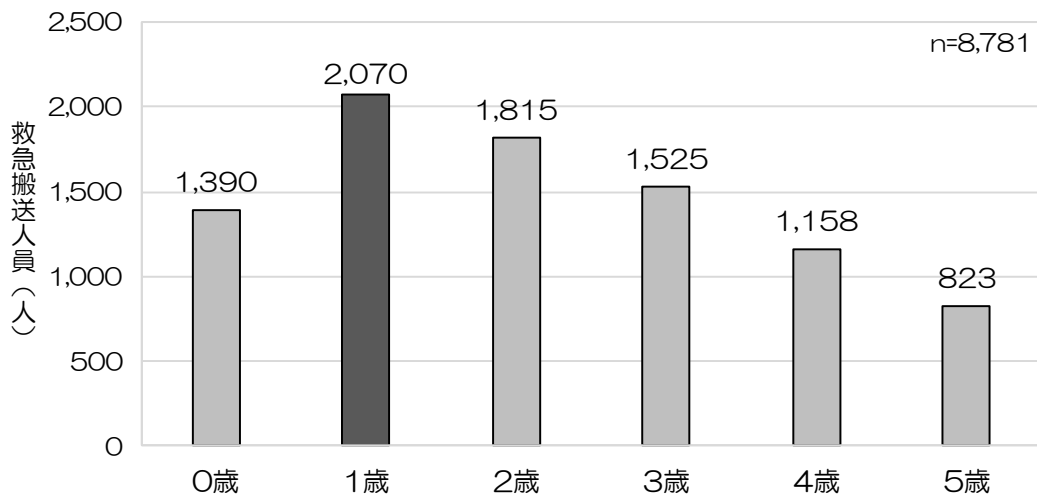


図3-3 年齢別の救急搬送人員

ウ 時間帯別搬送人員

時間帯別では、17時台から20時台までに多く救急搬送されています（図3-4）。

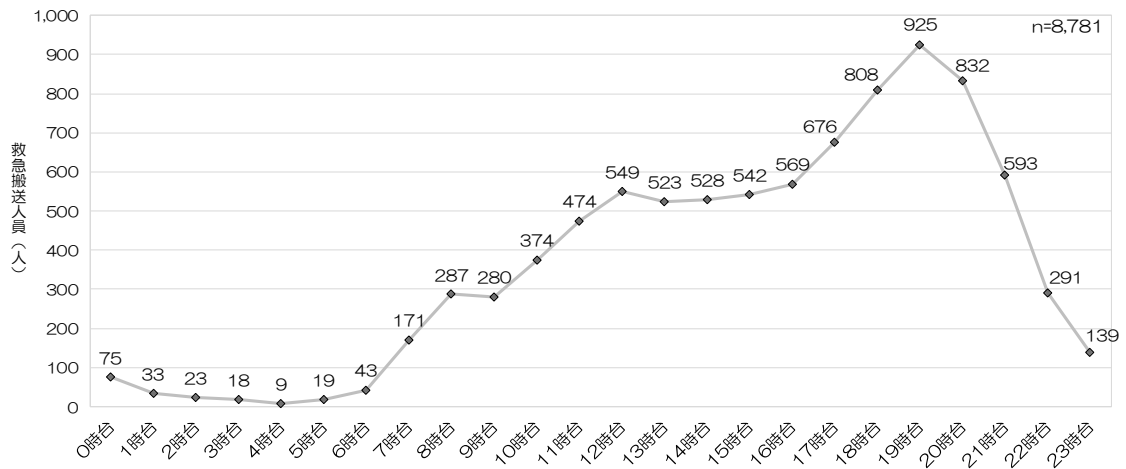


図3-4 時間帯別の救急搬送人員

エ 発生場所別搬送人員

発生場所別では、7割以上が住宅等居住場所となっています（図3-5）。

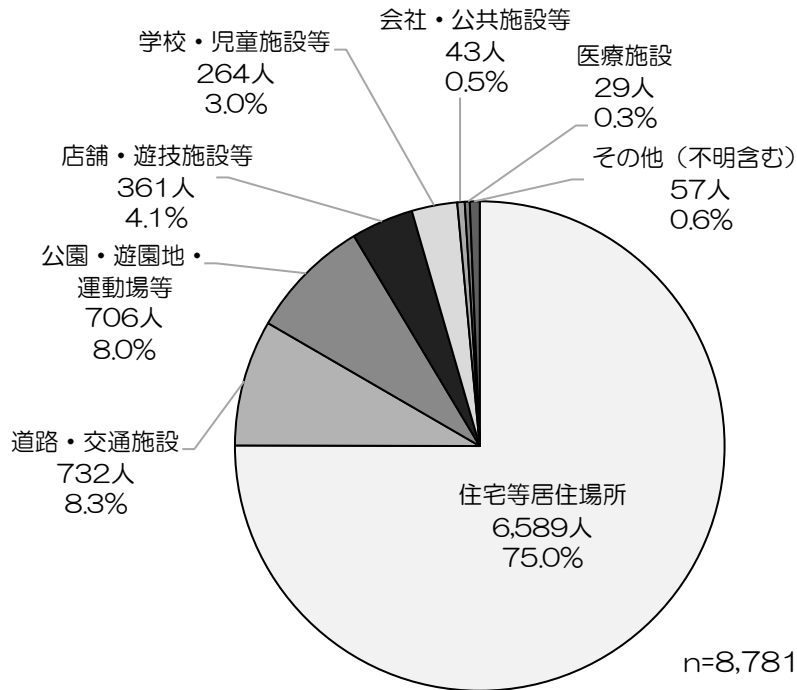
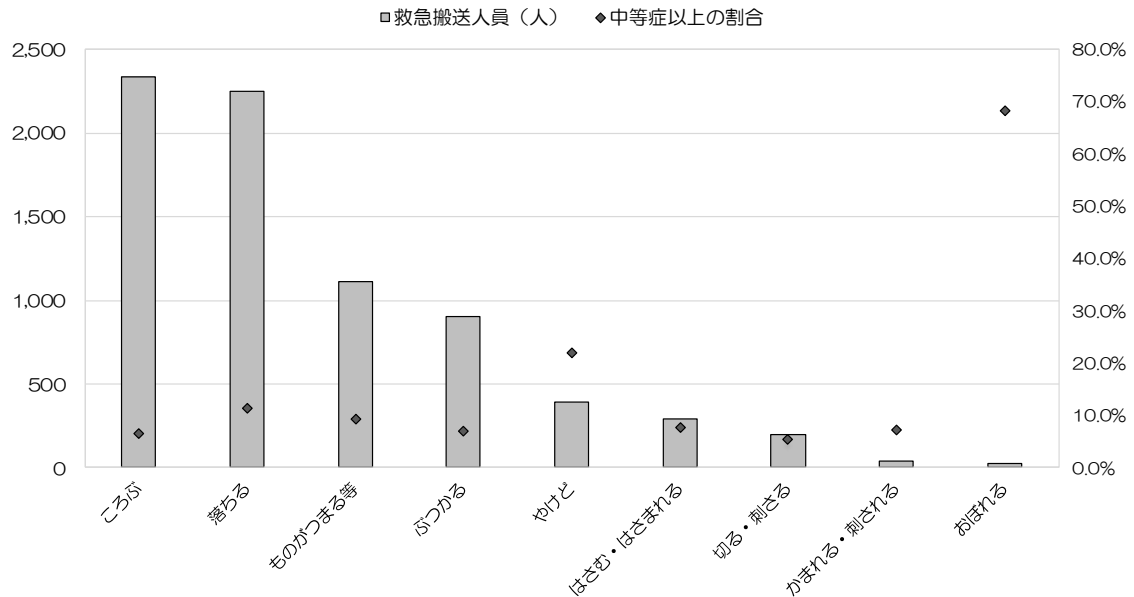


図3-5 発生場所別の救急搬送人員

オ 事故種別ごとの搬送人員

事故種別ごとに見ると、乳幼児の事故でもっとも多いのは「ころぶ」事故で、2,338人が救急搬送されています。初診時程度で中等症以上の割合が最も高いのは「おぼれる」事故で、約7割と突出して高くなっています。また、「やけど」でも2割以上が中等症以上と診断されています（図3-6）。



事故種別	ころぶ	落ちる	ものがつまる等	ぶつかる	やけど	はさむ・はさまれる	切る・刺さる	かまれる・刺される	おぼれる
救急搬送人員	2,338人	2,248人	1,113人	904人	394人	289人	201人	42人	22人
中等症以上の割合	6.5%	11.5%	9.3%	7.1%	22.1%	7.6%	5.5%	7.1%	68.2%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-6 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

カ 年齢ごとに見る特徴的な事故の変化

乳幼児は日々成長し、昨日できなかったことが、今日できるようになっているかもしれません。子どもの発達を知り、その時期に起こりやすい事故を知り対策をとることで、重大な事故を防ぐことが出来ます。

0歳

ベッド（123人）や、人（84人）が抱えている状態から「落ちる」事故が多く発生しています。また、包み・袋（81人）、たばこ（61人）、その他の玩具（59人）を「誤って飲み込む」事故も多く発生しており、なんでも口に入れてしまう特徴が見てとれます。また、ポット・魔法瓶（28人）で「やけど」をする事故も発生しています。

1歳

一人歩きを始める頃で、階段（142人）や椅子（93人）などの家具から「落ちる」事故や、その他の家具（38人）や机・テーブル（37人）に起因する「ころぶ」事故が多く発生しています。

そのほかにも、その他の玩具（31人）やたばこ（28人）を「誤って飲み込む」事故や、手動ドア（47人）に「はさむ・はさまれる」事故、お茶・コーヒー類（39人）などによる「やけど」の事故など、様々な事故が発生しています。

2歳

階段（135人）や椅子（47人）などに起因する「落ちる」事故が多く発生しており、自転車の補助イス（31人）でも発生しています。「ころぶ」事故では、机・テーブル（41人）などの家具類で多く発生しています。また、「ぶつかる」事故、手動ドア（31人）に「はさむ・はさまれる」事故も多く発生しています。カップ麺（8人）や味噌汁・スープ（7人）に起因する「やけど」の事故も発生しており、注意が必要です。

3歳

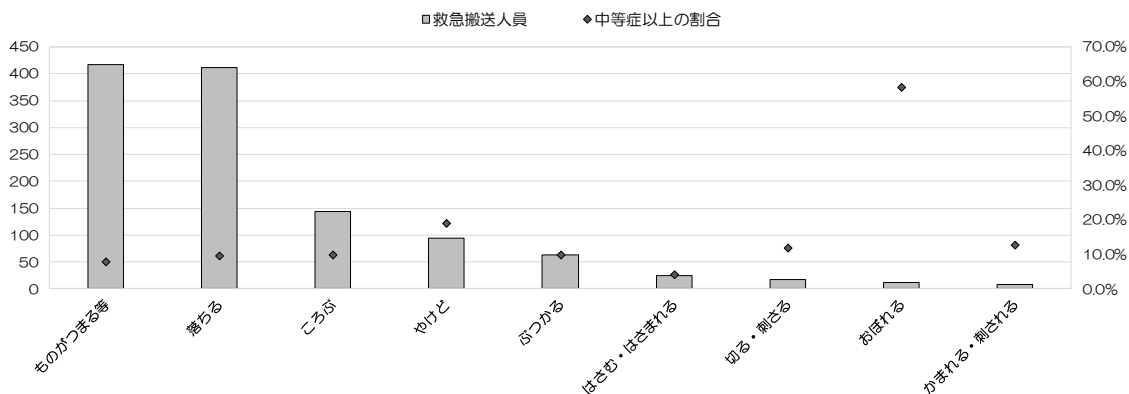
5歳

階段（76人）や机・テーブル（66人）で「ころぶ」事故が多く発生しています。また、2歳児と同じく、階段（140人）や椅子（90人）から「落ちる」事故も多く発生しています。その他の玩具（40人）などを「誤って飲み込む」事故や、ナイフ（23人）による「切る・刺さる」事故が発生しており、注意が必要です。

② 0歳

ア 事故種別ごとの搬送人員

0歳では、「ものがつまる」事故で418人が救急搬送されています。「おぼれる」事故は、中等症以上となる割合が約6割と最も高くなっています(図3-7)。



事故種別	ものがつまる等	落ちる	ころぶ	やけど	ぶつかる	はさむ・はさまれる	切る・刺さる	おぼれる	かまれる・刺される
救急搬送人員	418人	412人	143人	95人	62人	25人	17人	12人	8人
中等症以上の割合	7.7%	9.5%	9.8%	18.9%	9.7%	4.0%	11.8%	58.3%	12.5%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-7 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

イ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因(上位5つ)

0歳では、ベッドから落ちる事故が最も多く、123人が救急搬送されています。「ものがつまる」等の事故ではお菓子の袋やペットボトルのラベルなどの「包み・袋」の誤飲による事故が多く発生しています(表1)。

表1 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

順位	事故種別	要因	人数
1位	ものがつまる等	包み・袋	81人
		落ちる	ベッド
2位	落ちる	人	84人
		椅子	9人
3位	ころぶ	階段	43人
		段差	8人
4位	やけど	お茶・コーヒー類	14人
		熱湯	7人
5位	ぶつかる	洗剤等	11人
		椅子	28人

※その他の玩具とは、プラスチック製の玩具やフィギュア、シール等

※その他の家具とは、棚、引き出し

※その他とは、ベビーカー、カバン、冷蔵庫等

ウ 0歳の事故事例

【事例1 ソファから転落】

ソファの上で遊んでいたところ、目を離したすきに床に転落した（11か月 重症）。

【事故防止ポイント】

ベッドやソファ、階段などから「落ちる」事故は、0歳児に多く発生しています。昨日までできなかった寝返りが、今日できるかもしれません。目を離すときはベビーベッドの柵を上げましょう。また、高い所に寝かせないようにしましょう。

階段の上下には、転落防止用の柵等をつけましょう。

【事例2 ラベルを誤って飲み込む】

ペットボトルのラベルをかじっており、その後嘔吐したがラベルが出てこなかった（9か月 中等症）。

【事故防止ポイント】

子どもが飲み込めそうなものが子どもの届くところないように、日頃から整理整頓をこころがけましょう。早い子では、5か月頃から「物をつかむ」、つかんだら「口に入れる」行動が見られます。乳幼児は、トイレットペーパーの芯（39mm）を通る大きさのものなら、口に入れてしまい飲み込む危険性があります。

【事例3 ビニールプールでおぼれる】

自宅でビニールプールで遊んでいたところ、座った姿勢から四つん這いになり、顔面が水没してしまった（9か月 中等症）。

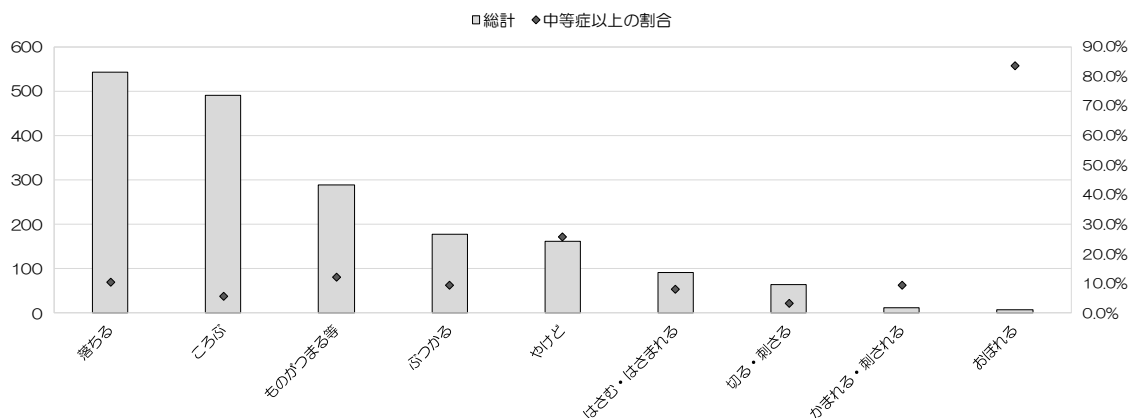
【事故防止ポイント】

おぼれの事故は重症化しやすいため、十分気を付けましょう。また、幼児は水深が浅くてもおぼれる可能性があるため、わずかな時間でも目を離さないようにしましょう。

③ 1歳

ア 事故種別ごとの搬送人員

1歳では、歩く、走る、といった行動ができるようになる時期なので、0歳に比べ、「落ちる」や「ころぶ」事故が多くなります。「おぼれる」事故は、中等症以上となる割合が最も高く、「やけど」事故でも2割以上が中等症以上と診断されています（図3-8）。



事故種別	落ちる	ころぶ	ものがつまる等	ぶつかる	やけど	はさむ・はさまれる	切る・刺さる	かまれる・刺される	おぼれる
救急搬送人員	543人	490人	289人	176人	160人	90人	64人	11人	6人
中等症以上の割合	10.1%	5.3%	11.8%	9.1%	25.6%	7.8%	3.1%	9.1%	83.3%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-8 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

イ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

1歳では、階段から「落ちる」事故が多く発生しています。また、手動ドアに「はさむ・はさまれる」事故も多く発生しています（表2）。

表2 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	落ちる	ころぶ	ものがつまる等	ぶつかる	やけど	はさむ・はさまれる	切る・刺さる	かまれる・刺される	おぼれる
1位	階段 142人	その他の家具 38人	その他の玩具 31人	机・テーブル 41人	お茶・コーヒー類 39人	手動ドア 47人	歯ブラシ 16人	動物等 10人	浴槽 5人
2位	椅子 93人	机・テーブル 37人	たばこ 28人	ベッド 20人	味噌汁・スープ 29人	エレベーター 8人	ナイフ 11人	虫 1人	ビニールプール 1人
3位	ベッド 51人	椅子 26人	野菜・果物 20人	その他の家具 13人	ポット・魔法瓶 25人	椅子 5人	ハサミ・爪切り 8人		
4位	ソファ 38人	階段 16人	電池 薬剤等 各18人	人 11人	食器類 13人	自転車 その他の家具 各4人	筆記具 4人		
5位	自転車の補助イス 37人	ベビーカー 15人		手動ドア 10人	熱湯 12人		箸・ハンガー 各3人		

※「ころぶ」におけるその他の家具とは、テレビ台、棚、ラック等

「ぶつかる」におけるその他の家具とは、流し台、タンス、鏡等

「はさむ・はさまれる」におけるその他の家具とは、タンス、ドレッサー等

※その他の玩具とは、プラスチック製の玩具、シール、マグネット等

ウ 1歳の事故事例

【事例1 椅子から落ちる】

自宅で椅子の上に立ち上がっていたところ、バランスを崩して落下し、顔面を受傷した（1歳 中等症）。

【事故防止ポイント】

1歳児は0歳児と比べ、活発に動くようになります。普段から目を離さないよう注意しましょう。また、椅子などに座らせる時は、チェアベルト等を活用し、大きな事故にならないように工夫しましょう。

【事例2 薬の誤飲】

目を離している間に、置いてあった親の処方薬を子どもが誤飲した（1歳 中等症）。

【事故防止ポイント】

医薬品は、子供の手の届くところに置かないようにしましょう。

医薬品は、薬理作用があるため、保管や管理には細心の注意を払いましょう。

シロップ等、子供が飲みやすいように味付けしてあるものは、冷蔵庫に入れておいても、自ら取り出して飲んでしまうことがあるため、保管・管理には十分注意しましょう。

【事例3 歯ブラシが刺さった事故】

歯ブラシをくわえて台の上に上がろうとしたところ、前のめりに転倒し喉に歯ブラシが刺さった（1歳 中等症）。

【事故防止ポイント】

歯ブラシを口に入れたまま、歩いたり走ったりさせないようにしましょう。過去には口腔内に刺さる事例も発生しています。

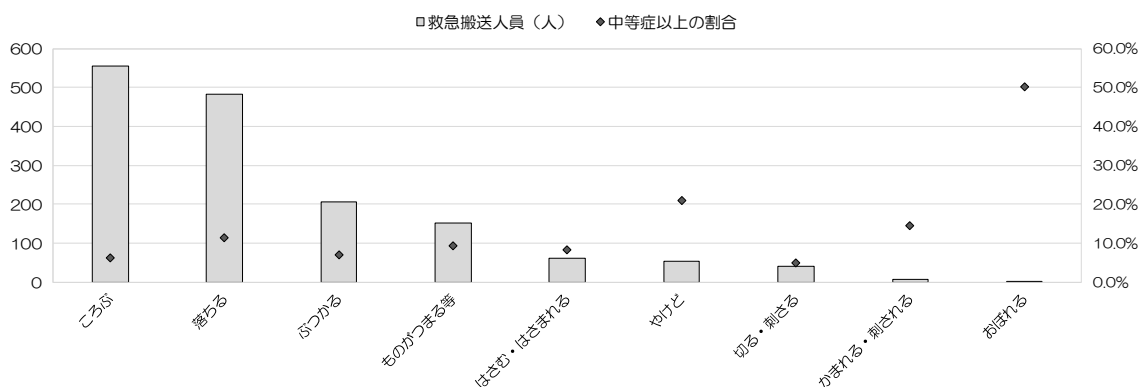
不安定な場所で歯みがきをしていて、転落した事例もあることから、椅子や踏み台等に乗った状態で歯みがきをさせないようにしましょう。

歯みがき中に人や物と接触し、受傷するケースも多いため、歯みがき中は保護者が付き添い、周囲にも注意を払いましょう。

④ 2歳

ア 事故種別ごとの搬送人員

2歳では、「ころぶ」事故、「落ちる」事故に次いで、「ぶつかる」事故が多く発生しています。「おぼれる」事故では5割が中等症以上と診断されています(図3-9)。



事故種別	ころぶ	落ちる	ぶつかる	ものがつまる等	はさむ・はさまれる	やけど	切る・刺さる	かまれる・刺される	おぼれる
救急搬送人員	555人	482人	205人	151人	61人	53人	41人	7人	2人
中等症以上の割合	6.1%	11.4%	6.8%	9.3%	8.2%	20.8%	4.9%	14.3%	50.0%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-9 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

イ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因(上位5つ)

2歳では、階段から「落ちる」事故が多く発生しています。また、運動機能が発達し、自由に動き回ることができるようになってくるため、家の中を走り回って家具等に「ぶつかる」事故も発生しています(表3)。

表3 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	ころぶ	落ちる	ぶつかる	ものがつまる等	はさむ・はさまれる	やけど	切る・刺さる	かまれる・刺される	おぼれる
1位	机・テーブル 41人	階段 135人	机・テーブル 37人	その他の玩具 21人	手動ドア 31人	カップ種 8人	歯ブラシ 13人	虫動物等	浴槽 2人
2位	その他の家具 39人	椅子 47人	その他の家具 22人	薬剤等 17人	エレベーター 鉄道車両の戸袋 自転車 各5人	味噌汁・スープ 7人	ナイフ 10人	各3人	
3位	階段 31人	自転車の補助イス 31人	人 15人	魚等の骨 11人		ポット・魔法瓶 食器類 お茶・コーヒー類 各6人	ハサミ・爪切り 7人	不明 1人	
4位	椅子 26人	ベッド 30人	ぶらんこ 壁・天井 各12人	ビー玉類 9人			その他の家具 3人		
5位	自転車 23人	滑り台 29人		アメ玉類 8人	窓・柵 4人		筆記具 2人		

※「ころぶ」におけるその他の家具とは、テレビ台、棚、キッチンカウンター等

「ぶつかる」におけるその他の家具とは、テレビ台、棚、引き出し等

「切る・刺さる」におけるその他の家具とは、割れた鏡、アクセサリーボックスのガラス部分等

※その他の玩具とは、ブロック型の玩具、シール、サイコロ等

ウ 2歳の事事故事例

【事例1 椅子から落ちる事故】

子ども用の椅子の背もたれに座って遊んでいたところ、バランスを崩して転落した（2歳 中等症）。

【事故防止ポイント】

ベランダや窓の他に、椅子などの家具からの墜落・転落事故も発生しています。高所からの墜落は重症化しやすいため十分注意しましょう。

【事例2 ボタン電池の誤飲】

子どものそばにあった未開封のボタン電池が開封され、中身がなくなっていることに親が気付いた（2歳 軽症）。

【事故防止ポイント】

子どもが飲み込めそうなものは、子どもの手の届くところに置かないようにしましょう。

ボタン電池は放電能力が高いため、非常に短時間で消化管壁に潰瘍を作ります。

【事例3 手動ドアにはさまれる事故】

自分でベランダの扉を閉めようとしたところ、指を挟みこんでしまい受傷した（2歳 中等症）。

【事故防止ポイント】

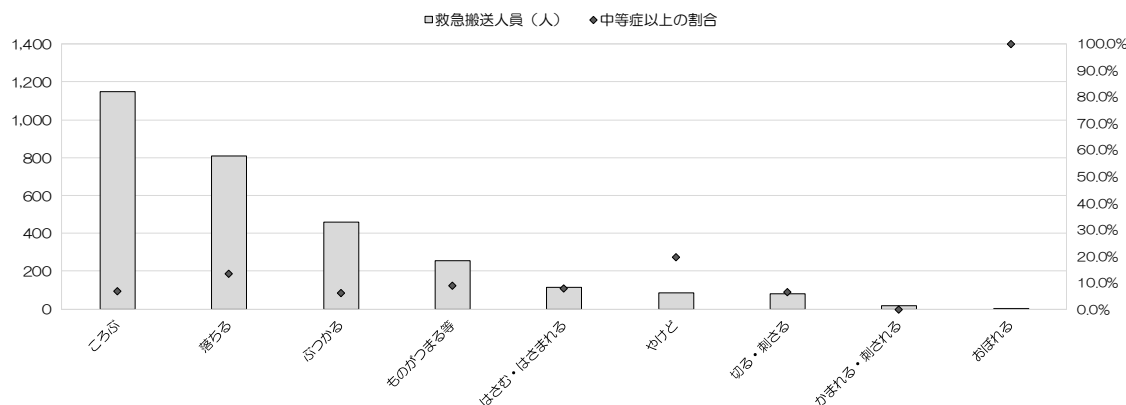
子供の「はさまれ」の原因で一番多いのは「手動ドア」です。子供の手や足は大人より小さく、狭い隙間でも入ってしまいます。指の切断に至ることもあるのでドアの開閉時は、注意しましょう。

ドアの蝶番側は、指はさみを防止するグッズなどでカバーすることも事故防止に効果的です。

⑤ 3歳～5歳

ア 事故種別ごとの搬送人員

3歳から5歳まででは、「ころぶ」事故が最も多くなっています。「おぼれる」事故は全てが中等症以上となっており、「落ちる」事故と「やけど」の事故は、1割以上が中等症以上と診断されています（図3-10）。



事故種別	ころぶ	落ちる	ぶつかる	ものがつままる等	はさむ・はさまれる	やけど	切る・刺さる	かまれる・刺さる	おぼれる
救急搬送人員	1,150人	811人	461人	255人	113人	86人	79人	16人	2人
中等症以上の割合	6.8%	13.4%	6.1%	9.0%	8.0%	19.8%	6.3%	0.0%	100.0%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-10 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

イ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

3歳から5歳まででは、階段から「落ちる」事故が多く発生しています。また、机・テーブルで「ぶつかる」事故も多く発生しています（表4）。

表4 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	ころぶ	落ちる	ぶつかる	ものがつままる等	はさむ・はさまれる	やけど	切る・刺さる	かまれる・刺さる	おぼれる
1位	階段	階段	机・テーブル	その他の玩具	手動ドア	カップ類	ナイフ	動物等	浴槽
	76人	140人	72人	40人	37人	19人	23人	9人	1人
2位	机・テーブル	椅子	その他の家具	ビー玉類	自転車	味噌汁・スープ	ハサミ・爪切り 歯ブラシ	虫	海
	66人	90人	41人	28人	25人	13人		7人	1人
3位	その他の家具	ソファ	人	魚等の骨	自動車のドア その他の玩具	メン類	各10人		
	63人	57人	31人	25人		10人			
4位	椅子	ベッド	手動ドア	アメ玉類	各5人	お茶・コーヒー類	針・ヘアピン・釘等		
	52人	55人	30人	23人		9人	6人		
5位	自転車	自転車の補助イス	壁・天井	食物	椅子	鍋	筆記具		
	48人	50人	25人	11人	3人	8人	3人		

※ 「ころぶ」におけるその他の家具とは、テレビ台、棚、タンス等

「ぶつかる」におけるその他の家具とは、テレビ台、洗面台、キッチンカウンター等

※ 「ものがつままる等」におけるその他の玩具とは、ブロック型の玩具、マグネット、遊戯用コイン等

「はさむ・はさまれる」におけるその他の玩具とは、万華鏡、モデルガン、電車のレール等

ウ 3歳～5歳の事故事例

【事例1 ころぶ事故】

幼稚園の園庭で遊戯中に転倒し、石段に頭部をぶつけ受傷した(4歳 中等症)。

【事故防止ポイント】

3歳になると運動能力も高くなり行動範囲が広がっています。危険や安全の判断がまだ十分にできていませんので、危険な行動は繰り返し教えてあげましょう。

【事例2 遊具からの墜落・転落】

公園のジャングルジムで遊んでいて、約2m下の地面に落ちて受傷した(3歳 中等症)。

【事故防止ポイント】

墜落事故は重大事故につながる可能性が高い事故の一つです。

遊具からの転落事故の他、窓やベランダに置いてあったイスや室外機にのぼり、誤って墜落する事故も発生しています。

ベランダや窓の近くには子供がのぼれるものを置かないようにしましょう。

【事例3 カップ麺によるやけど】

机の上に置いてあったカップ麺を引き寄せようとして倒してしまい、大腿部にスープがかかり受傷した(4歳 中等症)。

【事故防止ポイント】

やけどの恐れのあるものは、子供の手の届くところに置かないようにしましょう。

テーブル上に置かれた熱いものが入った容器を乳幼児が引き寄せ、やけどを負う事故が多く発生しています。テーブルの隅など、乳幼児の手の届きやすいところに熱いものは絶対に置かないようにしましょう。

(2) 6歳～12歳（小学生）の事故

ア 年別搬送人員

小学生の年代では、令和2年中に3,567人が救急搬送されています（図3-11）。

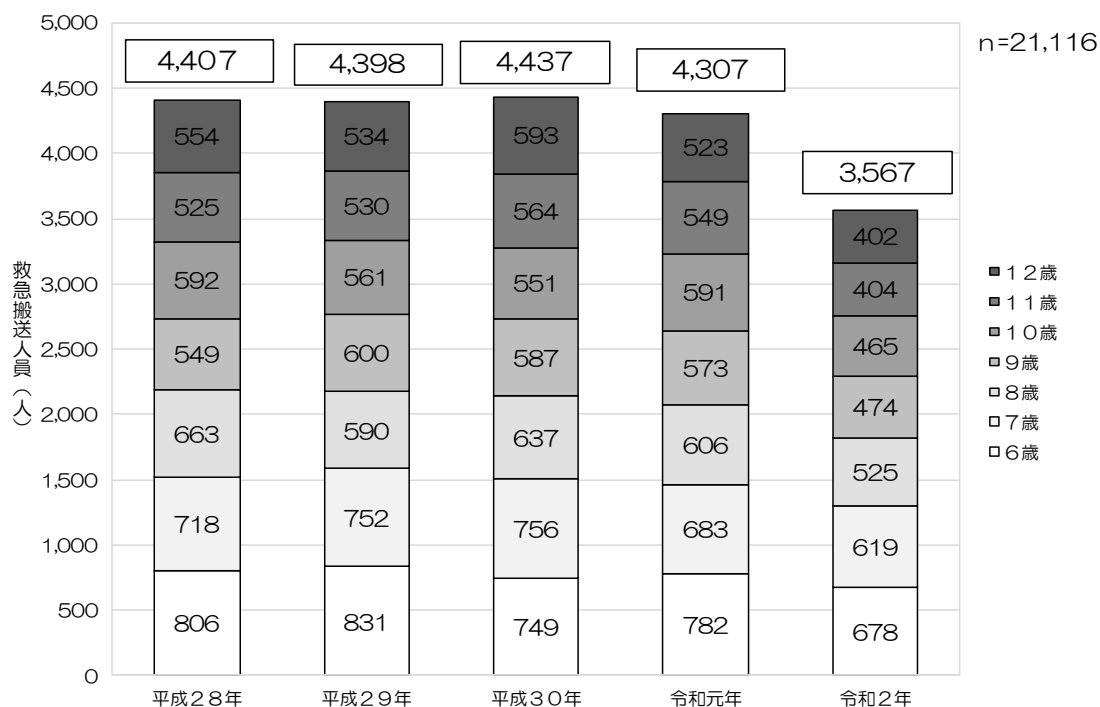


図3-11 年別の救急搬送人員（6歳～12歳）

イ 月別搬送人員

月別では、8月から11月までに多く搬送されています（図3-12）。

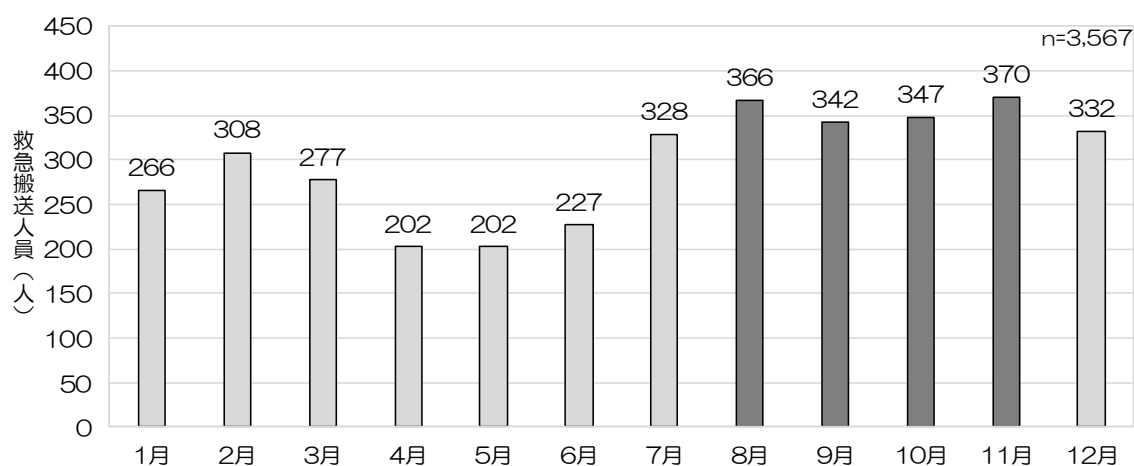


図3-12 月別の救急搬送人員

ウ 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所のほかに公園・遊園地・運動場等が多くなっています。また、学校・児童施設等での事故も多く発生しています（図3-13）。

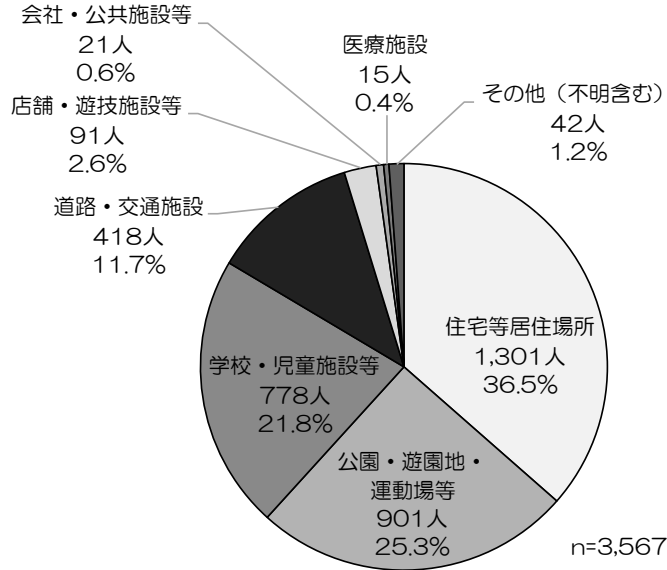
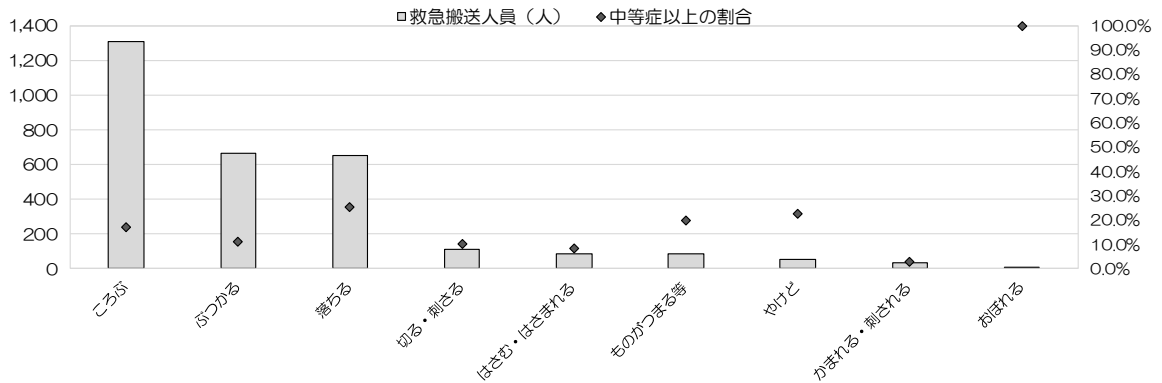


図3-13 発生場所別の救急搬送人員

エ 事故種別ごとの搬送人員

6歳から12歳まででは、「ころぶ」事故が多く発生しています。「おぼれる」事故ではすべてが中等症以上となっています。また、「落ちる」や「やけど」事故は2割以上が中等症以上となっています（図3-14）。



事故種別	ころぶ	ぶつかる	落ちる	切る・刺さる	はさむ・はさまれる	ものがつまる等	やけど	かまれる・刺される	おぼれる
救急搬送人員	1307人	662人	648人	111人	84人	81人	53人	34人	3人
中等症以上の割合	17.1%	11.0%	25.5%	9.9%	8.3%	19.8%	22.6%	2.9%	100.0%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-14 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

オ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

6歳から12歳まででは、スケートボードで「ころぶ」事故が多く発生しています。子ども同士で「ぶつかる」事故も多く発生しています（表5）。

表5 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	ころぶ	ぶつかる	落ちる	切る・刺さる	はさむ・はさまれる	ものがつまる等	やけど	かまれる・刺される	おぼれる
1位	スケートボード	人	階段 滑り台	ナイフ	手動ドア	魚等の骨	カップ種	動物等	浴槽
	91人	134人		23人	18人	13人	19人	20人	2人
2位	階段	ボール	各65人	手動ドア	自転車	その他の玩具	鍋	虫	プール
	74人	54人		17人	15人	10人	5人	14人	1人
3位	自転車	手動ドア 柱	雲梯	針・釘等	人	アメ玉類	ポット・魔法瓶 お茶 熱湯		
	36人		54人	10人	8人	7人			
4位	机・テーブル	各30人	植物	ミシン（ミシン針含む）	その他の家具 植物	洗剤等 菓子	各4人		
	33人		47人	8人					
5位	その他の家具	壁・天井	ぶらんこ	はさみ	各5人	各4人			
	31人	29人	38人	7人					

※「ころぶ」におけるその他の家具とは、テレビ台、棚、タンス等

「はさむ・はさまれる」におけるその他の家具とは、棚、タンス、ロッカー等

※その他の玩具とは、ブロック型の玩具、マグネット、メダル等

カ 6歳～12歳の事故事例

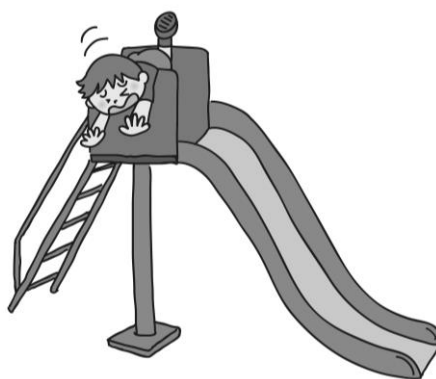
【事例1 高所から落ちる】

友達と野球グラウンドの防護ネットによじ登って遊んでいたところ墜落し、受傷した（12歳 中等症）。

【事故防止ポイント】

高所からの墜落は、生命に危険を及ぼす重大な事故となることから、保護者等は、危険性を子どもに教え、理解させましょう。

小学生の年代は、運動能力の発達に加え、身長、体重、運動量、俊敏性、冒険心の増大が事故につながっていると考えられます。危険が予測される行動も多く見られることから、安全教育による事故防止も不可欠です。



(3) 13歳～18歳（中学生・高校生）の事故

ア 年別搬送人員

令和2年中は、2,391人が救急搬送されています（図3-15）。

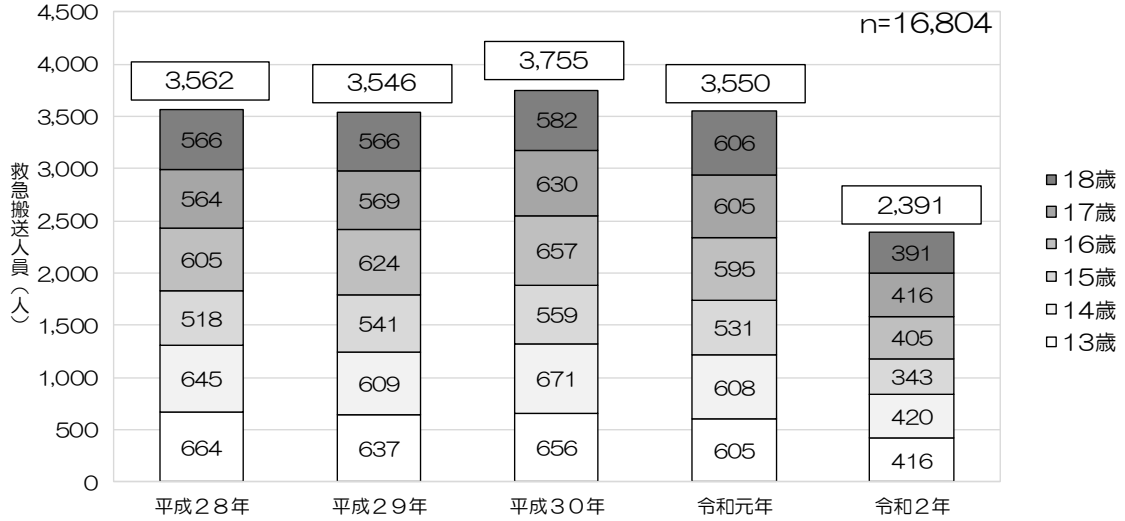


図3-15 年別の救急搬送人員（13歳～18歳）

イ 月別搬送人員

月別に見ると、8月が最も多く、次いで9月に多く搬送されています（図3-16）。

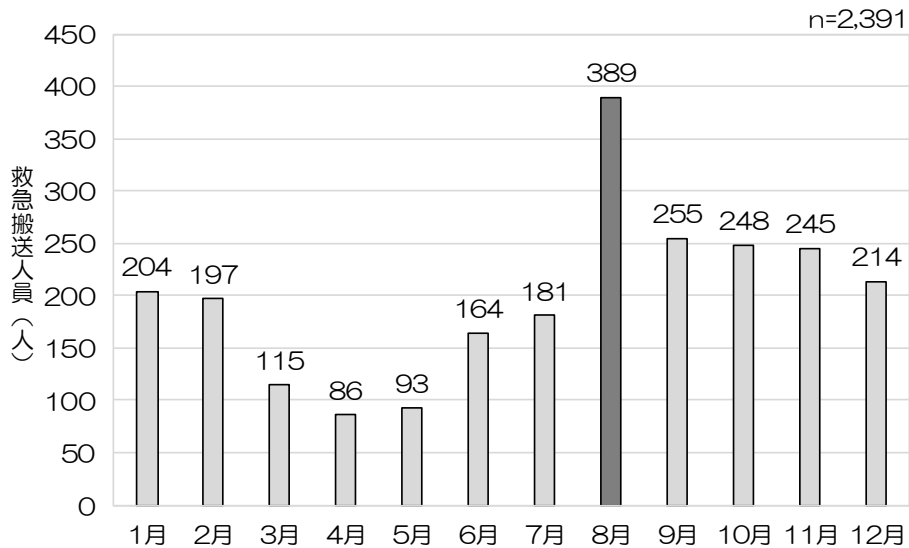


図3-16 月別の救急搬送人員

ウ 発生場所別搬送人員

学校・児童施設等が最も多く、次いで住宅等居住場所が多くなっています（図3-17）。

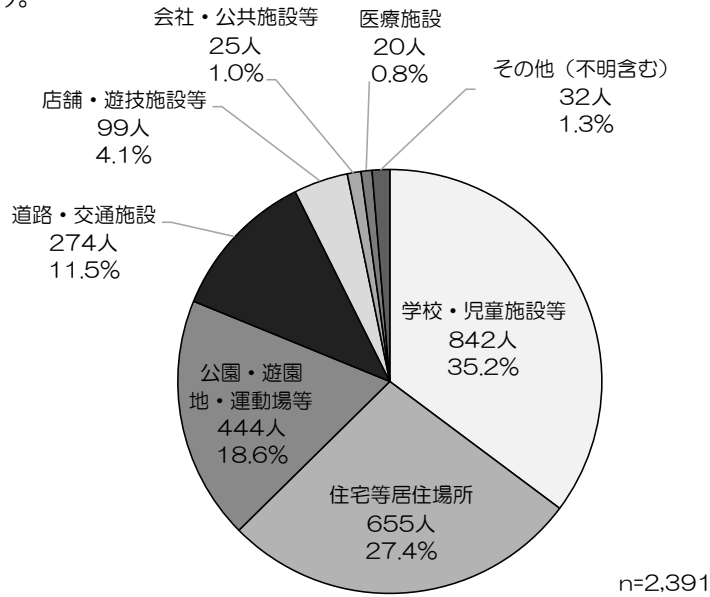
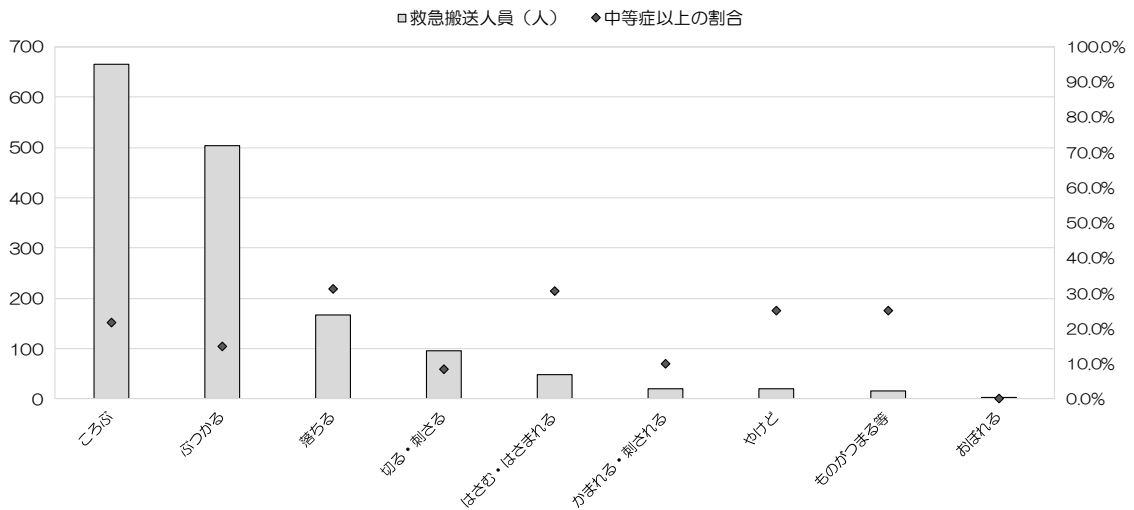


図3-17 発生場所別の救急搬送人員

エ 事故種別ごとの搬送人員

13歳から18歳まででは、事故種別ごとに見ると、「ころぶ」事故が最も多くなっています（図3-18）。



事故種別	ころぶ	ぶつかる	落ちる	切る・刺さる	はさむ・はさまれる	かまれる・刺される	やけど	ものがつまる等	おぼれる
救急搬送人員	665人	503人	166人	96人	49人	20人	20人	16人	1人
中等症以上の割合	21.8%	14.9%	31.3%	8.3%	30.6%	100%	25.0%	25.0%	0.0%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-18 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

オ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

13歳から18歳まででは、人と「ぶつかる」事故が多く発生しています。また、スポーツでボールにぶつかる等の事故が多くなっています（表6）。

表6 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	ころぶ	ぶつかる	落ちる	切る・刺さる	はさむ・はさまれる	かまれる・刺される	やけど	ものがつまる等	おぼれる
1位	スケートボード 45人	人 155人	階段 73人	ナイフ 36人	自転車 4人	動物等 11人	熱湯 3人	野菜・果物 食物	河川 1人
2位	階段 44人	ボール 126人	ベランダ 7人	食器類 12人	手動ドア 人	虫 9人	鍋 お茶・コーヒー類 カップ麺 味噌汁・スープ	各3人	
3位	自転車 12人	手動ドア 20人	窓・サッシ 5人	手動ドア 11人	各3人			その他の玩具 2人	
4位	段差 10人	壁・天井 16人	フェンス・柵・塀 4人	窓・サッシ 5人	パワーショベル・ トラレーニング マシン		各2人	アメ玉 タバコ 硬貨等	
5位	壁・天井 7人	その他の家具 12人	エスカレーター 脚立・踏み台 各3人	針・はさみ ・ガラス瓶 各3人	各2人			各1人	

※その他の家具とは、ロッカー、吊り戸棚、カーテンレール等

※その他の玩具とは、ブロック型の玩具、スライム

カ 13歳～18歳の事故事例

【事例1 人とぶつかる】

バスケットボールの試合中に、対戦相手と接触して転倒し受傷した（15歳 中等症）。

【事例2 跳び箱から落ちる】

体育の授業中に跳び箱を飛んだところ、バランスを崩して手から着地してしまい受傷した（14歳 中等症）。

【事故防止ポイント】

中学生、高校生の年代では、運動中の事故が多く発生しています。

ウォーミングアップやストレッチは入念に行い、けがの予防に努めましょう。

指導者や保護者等は、普段の練習や競技の前には事故防止の注意喚起を行うとともに、不測の事態に備え、応急手当、AED（自動体外式除細動器）の使用方法等を身につけましょう。

(4) 19歳～64歳の事故

ア 年別搬送人員

19歳から64歳まででは、令和2年中に35,936人が救急搬送されています（図3-19）。

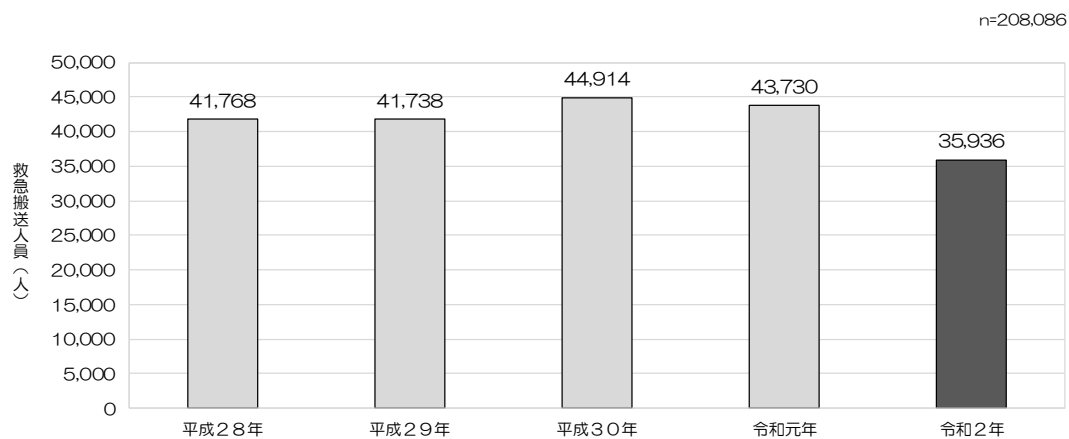


図3-19 年別の救急搬送人員

イ 月別搬送人員

令和2年を月別に見ると、8月に最も多く搬送され、次いで1月が多くなっています（図3-20）。

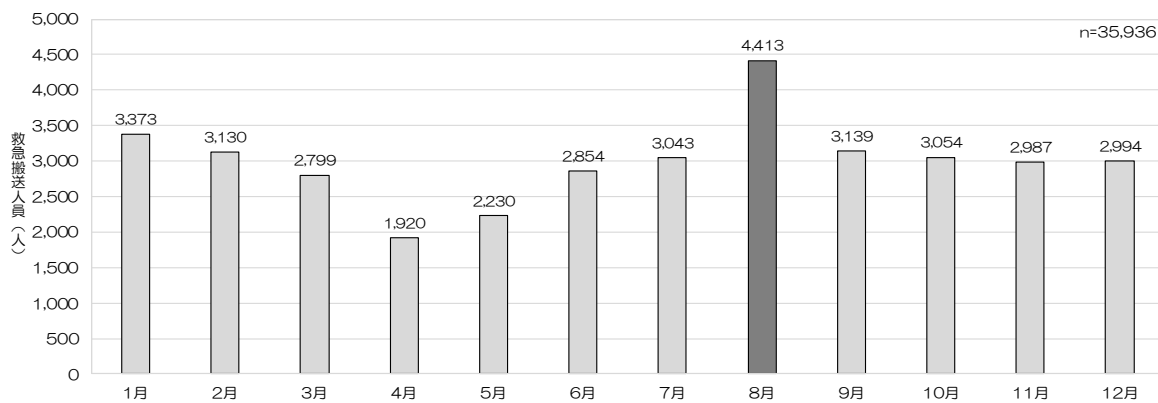


図3-20 月別の救急搬送人員

ウ 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所、道路・交通施設での事故が多く発生しています（図 3-21）。

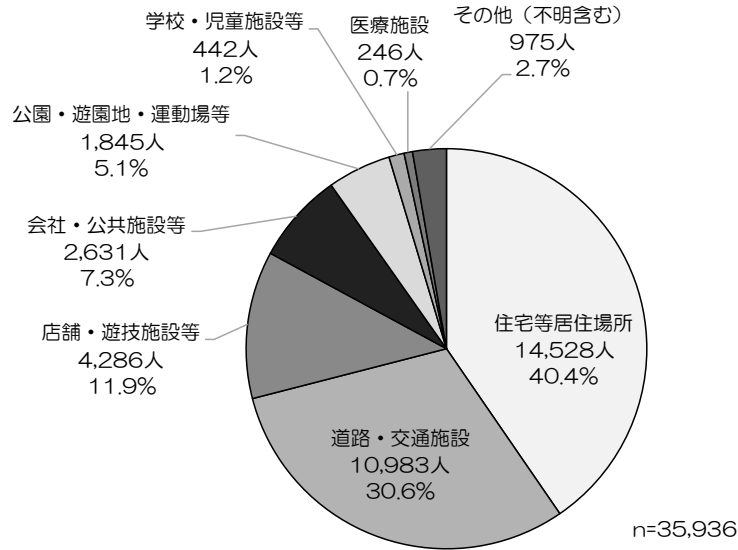
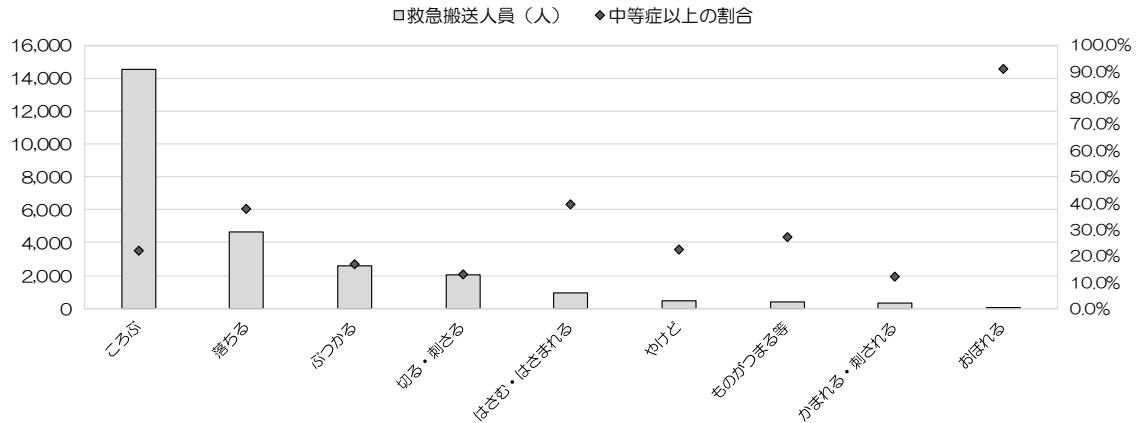


図 3-21 発生場所別の救急搬送人員

エ 事故種別ごとの搬送人員

「ころぶ」事故が最も多く発生しています。また、「おぼれる」事故は中等症以上の割合が最も高く、「落ちる」事故、「はさむ・はさまれる」事故の約4割が中等症以上となっています（図 3-22）。



事故種別	ころぶ	落ちる	ぶつかる	切る・刺さる	はさむ・はさまれる	やけど	ものがつままる等	かまれる・刺される	おぼれる
救急搬送人員	14,511人	4,639人	2,599人	2,012人	930人	459人	418人	309人	54人
中等症以上の割合	21.8%	37.6%	16.6%	12.8%	39.5%	22.0%	26.8%	12.0%	90.7%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図 3-22 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

オ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

19歳から64歳まででは、「ころぶ」事故、「落ちる」事故ともに「階段」での事故が最も多く発生しています（表7）。

表7 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	ころぶ	落ちる	ぶつかる	切る・刺さる	はさむ・はさまれる	やけど	ものがつまる等	かまれる・刺される	おぼれる
1位	階段	階段	人	ナイフ	自動車	天ぷら油	肉	動物等	浴槽
	1,215人	2,357人	313人	818人	71人	75人	45人	207人	27人
2位	段差	脚立・踏み台	壁・天井	食器類	手動ドア	熱湯	食物	虫	河川
	524人	344人	164人	220人	66人	63人	44人	97人	23人
3位	自転車	椅子	ボール	スライサー	その他の機械	鍋	洗剤等	魚貝類	プール池
	452人	166人	137人	118人	50人	55人	40人	1人	
4位	エスカレーター	軌道敷	手動ドア	電気のかぎり	フォークリフト	ポット・魔法瓶	入れ歯によるもの		各1人
	188人	133人	133人	72人	37人	46人	28人		
5位	椅子	自動車	その他の家具	はさみ・爪切り	建材	味噌汁・スープ	包み・袋		
	174人	129人	129人	51人	34人	38人	27人		

※その他の家具とは、テレビ台、棚、タンス等

※その他の機械とは、プレス機、ローラー、ファンベルト等

カ 19歳～64歳の事故事例

【事例1 ホームから落ちる】

飲酒後、駅のホーム上を歩行していた際に、軌道敷に墜落し頭部を受傷した（30代 中等症）。

【事故防止ポイント】

飲酒後や歩きスマホにより、駅のホームから墜落する事故が多く発生しています。ホームの線路側を歩かないようにし墜落防止をしましょう。

【事例2 機械に指をはさむ】

ゴミの分別作業中に、ベルトコンベヤーに手をはさまれ受傷した（60代 中等症）。

【事故防止ポイント】

機械によるはさむ・はさまれる事故は重症化しやすいことを認識しましょう。
機械を稼働させたまま詰まりを除去しようとして受傷する事故も発生しています。
機械の点検、掃除、修理をする場合には、機械の電源を切り、コンセントを抜くなど、誤って電源が入ることがないことを確認してから作業しましょう。

(5) 65歳以上（高齢者）の事故

① 65歳以上（高齢者）

ア 年別搬送人員

高齢者の事故は増加傾向にあります。令和2年中の救急搬送人員は76,707人で平成28年と比較すると4,509人増加しています（図3-23）。

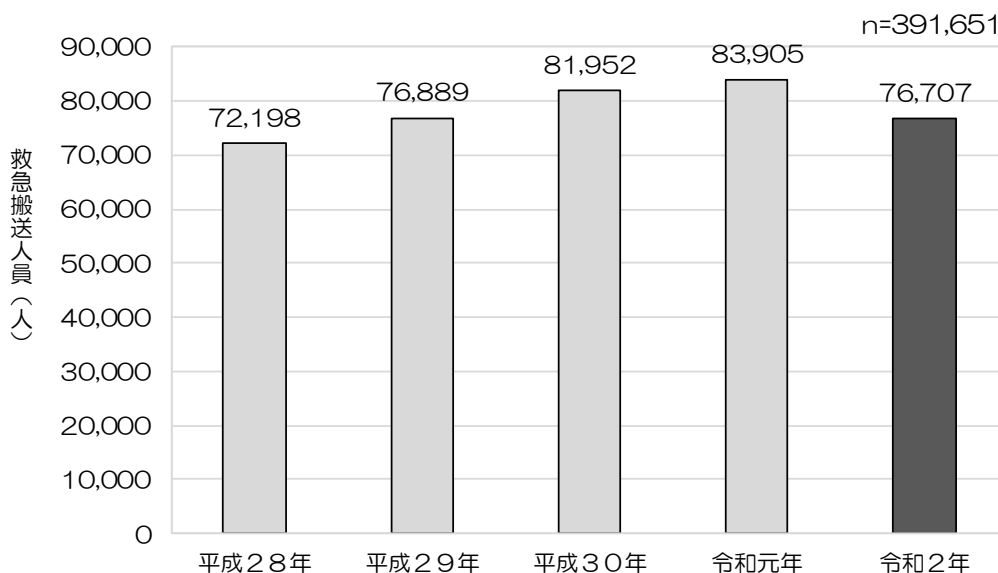


図3-23 年別の救急搬送人員

イ 初診時程度別搬送人員

高齢者は、入院を必要とする中等症以上となる割合が高く、4割以上となっています（図3-24）。

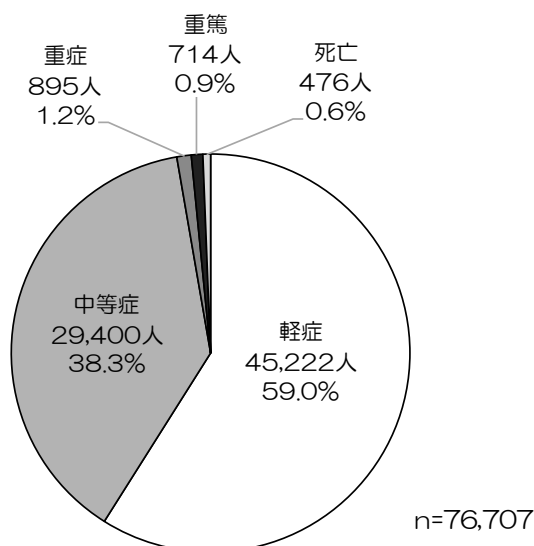


図3-24 初診時程度別の救急搬送人員

ウ 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所での事故が6割を超え、道路・交通施設での事故と合わせると9割以上を占めています（図3-25）。

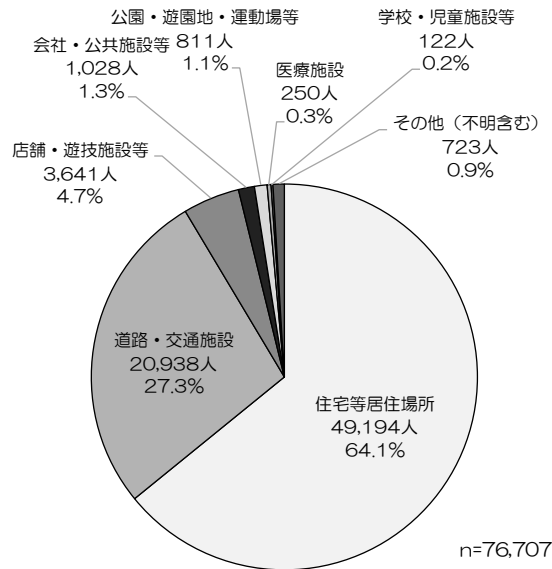
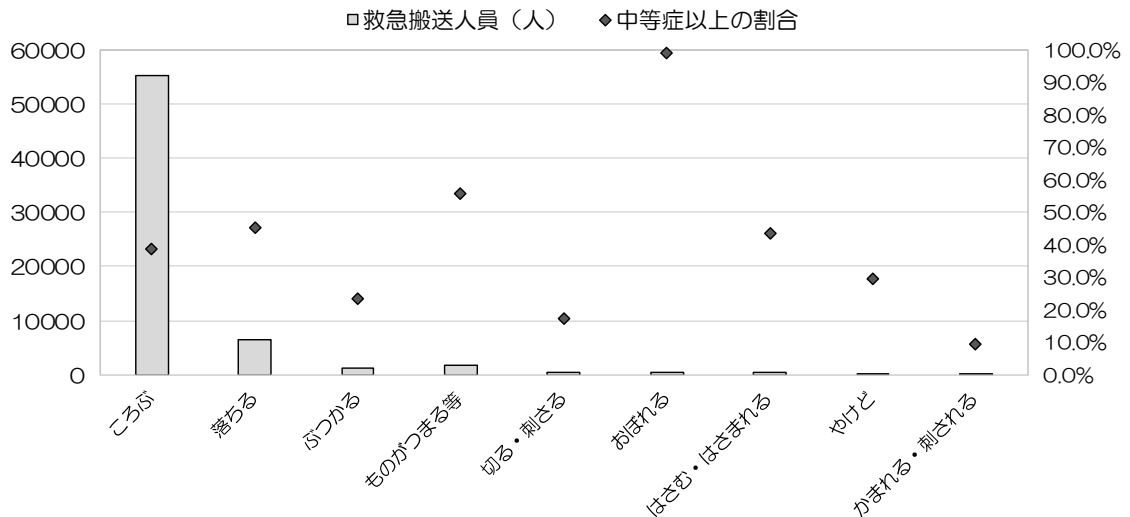


図3-25 発生場所別の救急搬送人員

エ 事故種別ごとの搬送人員

65歳以上では、「おぼれる」事故は、99.1%が中等症以上と最も高く、「ころぶ」事故、「落ちる」事故、「ものがつまる等」の事故、「はさむ・はさまれる」事故は3割以上が中等症以上となっており、高齢者は他の年代と比べ、重症化しやすくなっています（図3-26）。



事故種別	ころぶ	落ちる	ぶつかる	ものがつまる等	切る・刺さる	おぼれる	はさむ・はさまれる	やけど	かまれる・刺される
救急搬送人員	55,183	6,552	1,317	1,610	532	454	340	217	184
中等症以上の割合	38.8%	45.5%	23.6%	56.0%	17.3%	99.1%	43.5%	29.5%	9.2%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-26 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

オ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

65歳以上では、「ころぶ」事故が段差や階段、自転車で多く発生しています。また、「落ちる」事故は、階段、ベッド、椅子が多くなっており、「おぼれる」事故は、そのほとんどが浴槽で発生しています（表8）。

表8 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	ころぶ	落ちる	ぶつかる	ものが つまる等	切る・ 刺さる	おぼれる	はさむ・ はさまれる	やけど	かまれる・ 刺される
1位	段差	階段	その他の家具	食物	ナイフ	浴槽	手動ドア	ヤカン	動物等
	2,625人	2,849人	115人	393人	165人	428人	29人	31人	101人
2位	階段	ベッド	人	おかゆ類	電気のごぎり	河川	ベッド	熱湯	虫
	1,638人	1,111人	106人	109人	75人	22人	27人	29人	78人
3位	自転車	椅子	柱	包み・袋	はさみ・爪切り	プール 海	プレス機	鍋	
	848人	484人	90人	95人	35人		18人	27人	
4位	椅子	脚立・踏み台・足場	壁・天井	ご飯	食器類	各1人	その他の機械	天ぷら油	
	637人	353人	79人	87人	28人		12人	17人	
5位	エスカレーター	エスカレーター	手動ドア	入れ歯によるもの	スライサー		フォークリフト	ポット・魔法瓶	
	544人	200人	77人	83人	21人		10人	16人	

※その他の家具とは、棚、タンス、ロッカー等

※その他の機械とは、かく拌機、ロール機、キャタピラ等

カ 65歳以上（高齢者）の事故事例

【事例1 餅を詰まらせる】

自宅で柏餅を食べていた際に、喉に詰まらせ意識がなくなった（80代 重篤）。

【事故防止ポイント】

高齢者の「ものがつまる等」の事故は5割以上が中等症以上と診断されています。

食べ物は小さく切ってよく噛んで食べましょう。



【事例2 包みの誤飲】

薬を服用する際に、誤って薬のパッケージごと飲んでしまった（70代 中等症）。

【事故防止ポイント】

高齢者が薬を服用する際は、パッケージを飲み込まないように、適時様子を見るなど注意を払いましょう。

【事例3 ころぶ事故】

自宅の廊下で足を滑らせて転倒し、大腿部を受傷した（90代 中等症）。

【事故防止ポイント】

高齢者のころぶ事故の約4割が中等症以上と診断されています。

自宅内では整理整頓を心がけ、家具や敷物による転倒を防止しましょう。

【事例4 脚立から落ちる】

脚立に上り蛍光灯を交換しようとして、足を滑らせて転落し受傷した（70代 中等症）。

【事故防止ポイント】

脚立や踏み台に上がって作業や清掃をしていて転落する事故が多く発生しています。

- 脚立の天板の上、脚立・はしごの上方に乗って作業しないようにしましょう。
- 安定した足場を選び、バランスを崩さないようにしましょう。
- 使用時は補助者に支えてもらいましょう。
- 年齢や個々の体力を勘案し、無理な作業は控えましょう。

事業者の場合、法令では、2m以上の高所作業については、墜落等の危険を防止する措置（墜落制止用器具等の使用）をとることが事業者には義務付けられ、労働者も指示に従う義務があります。



② 65歳～74歳（前期高齢者）と75歳以上（後期高齢者）

ア 年別搬送人員

前期高齢者と後期高齢者の救急搬送人員は増加傾向にありましたが、令和2年はどちらも減少しています（図3-27、図3-28）。

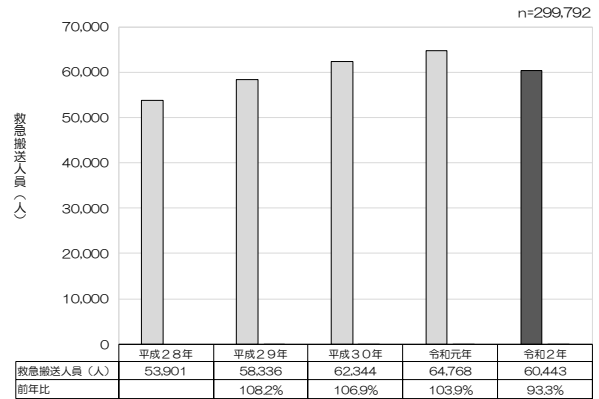
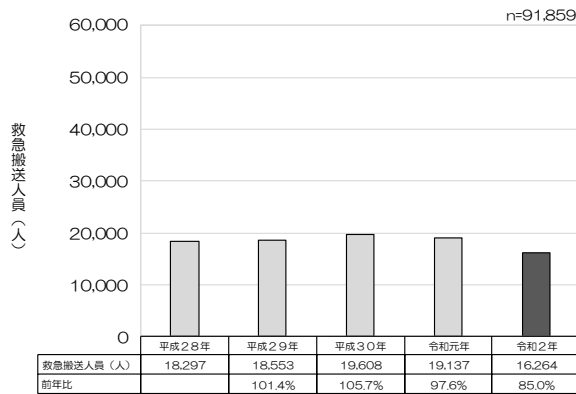


図3-27 年別の救急搬送人員（前期高齢者）

図3-28 年別の救急搬送人員（後期高齢者）

イ 初診時程度別搬送人員

初診時程度別に見ると、前期高齢者では中等症以上の割合が約3割ですが、後期高齢者になると、さらに増加して4割以上を占めています（図3-29、図3-30）。

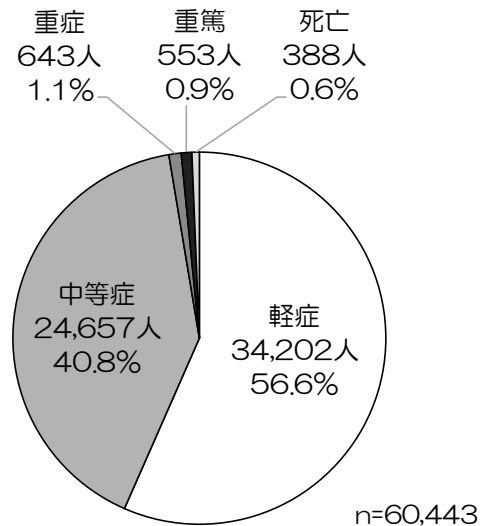
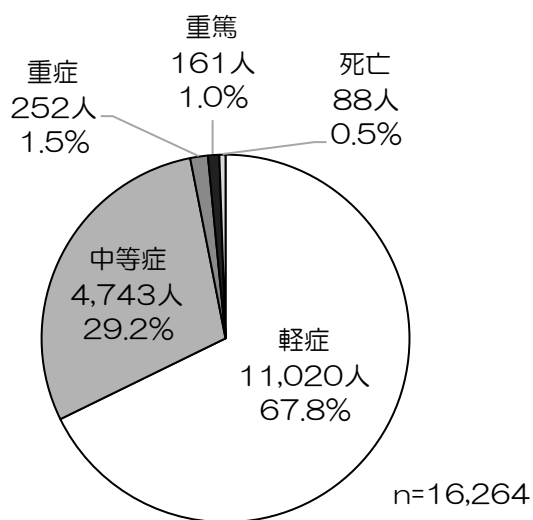


図3-29 初診時程度別（前期高齢者）

図3-30 初診時程度別（後期高齢者）

ウ 発生場所別搬送人員

前期高齢者では住宅等居住場所での事故が最も多く約5割を占めています。次いで多いのが道路・交通施設で約4割を占めています。一方で、後期高齢者になると住宅等居住場所での割合が増加し、約7割を占めています（図3-31、図3-32）。

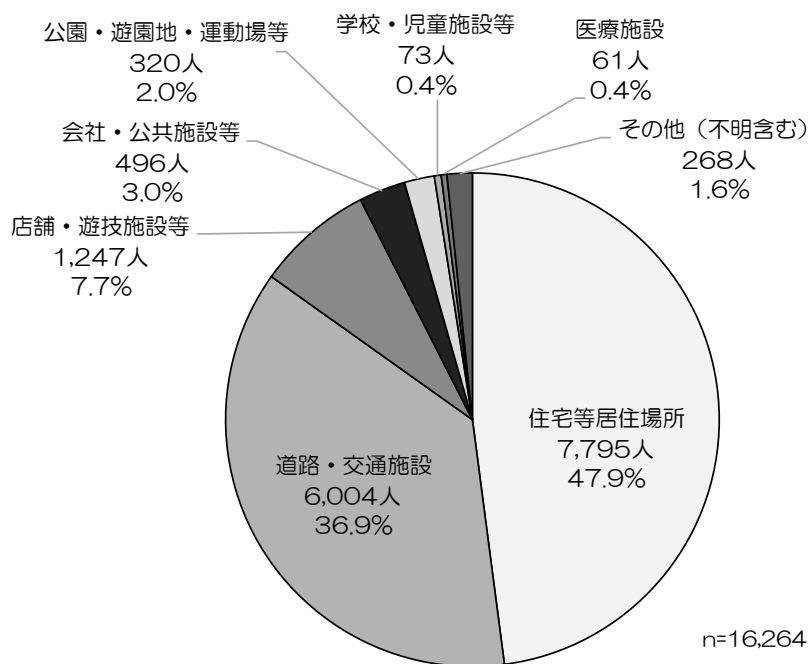


図3-31 発生場所別の救急搬送人員（前期高齢者）

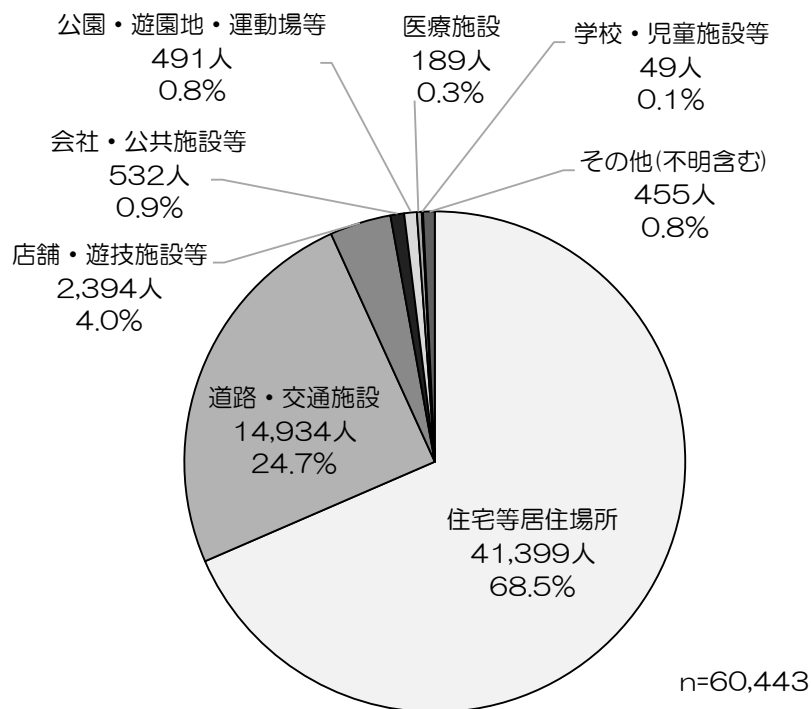
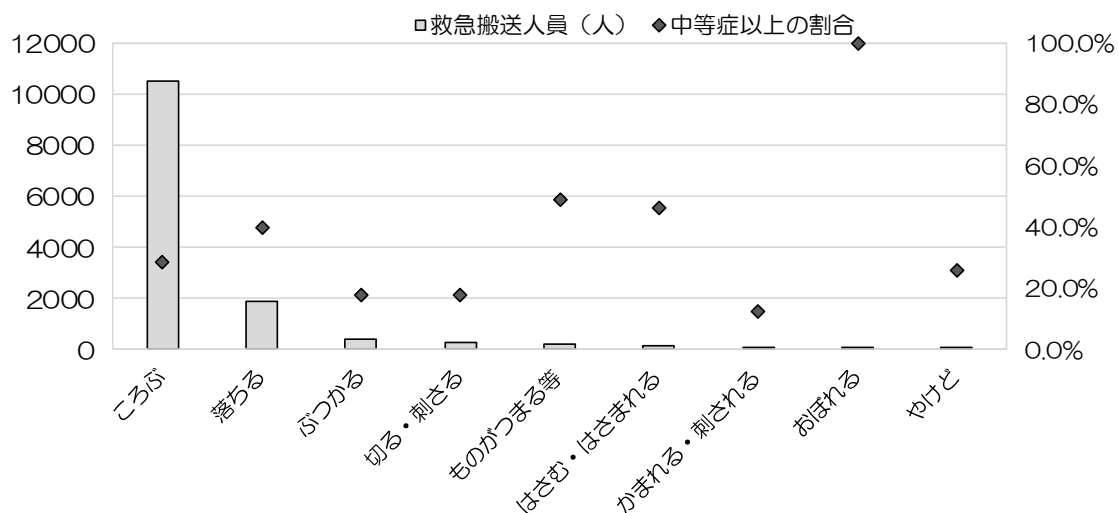


図3-32 発生場所別の救急搬送人員（後期高齢者）

エ 事故種別ごとの搬送人員

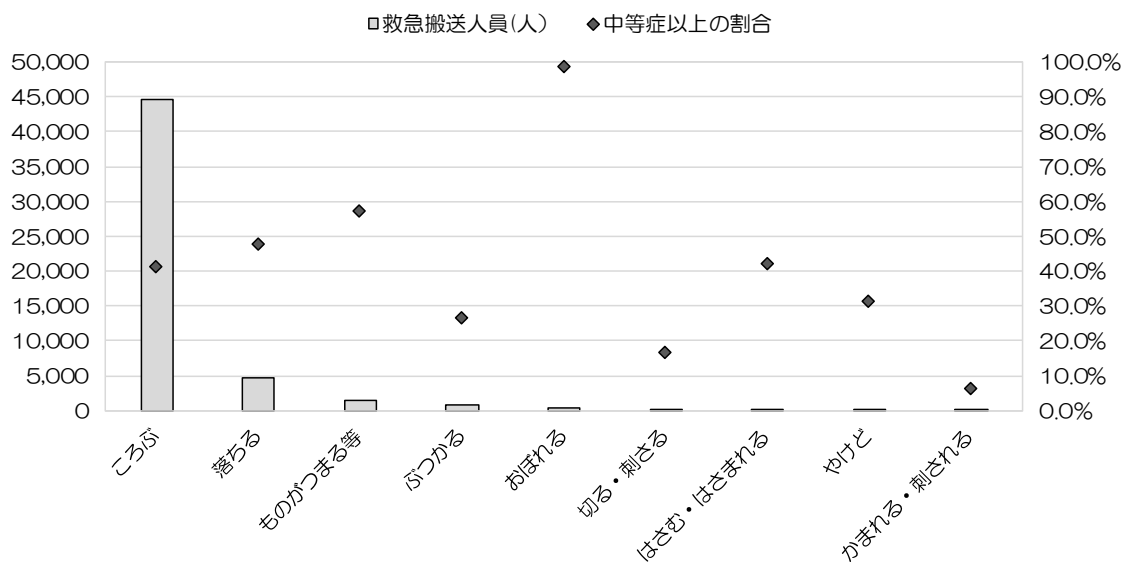
「ころぶ」、「落ちる」、「ものがつまる等」、「ぶつかる」、「やけど」の事故では前期高齢者に比べて後期高齢者の方が中等症以上の割合が多く、重症化しやすくなっています（図3-33、図3-34）。



事故種別	ころぶ	落ちる	ぶつかる	切る・刺さる	ものがつまる等	はさむ・はさまれる	かまれる・刺される	おぼれる	やけど
救急搬送人員	10,503人	1,891人	431人	263人	235人	132人	88人	82人	74人
中等症以上の割合	28.8%	40.0%	17.6%	17.9%	48.9%	46.2%	12.5%	100.0%	25.7%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-33 事故種別ごとの救急搬送人員（前期高齢者）



事故種別	ころぶ	落ちる	ものがつまる等	ぶつかる	おぼれる	切る・刺さる	はさむ・はさまれる	やけど	かまれる・刺される
救急搬送人員	44,680人	4,661人	1,375人	886人	372人	269人	208人	143人	96人
中等症以上の割合	41.2%	47.7%	57.2%	26.5%	98.9%	16.7%	42.3%	31.5%	6.3%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-34 事故種別ごとの救急搬送人員（後期高齢者）

2. 年齢層別での比較

(1) 年別搬送人員での比較

過去5年間の救急搬送人員を比較すると、令和2年は令和元年と比較してどの年代でも減少しています（図3-35から図3-44まで）。

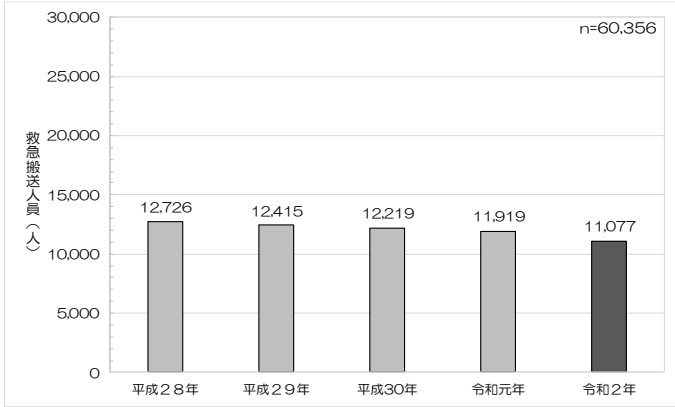


図3-35 9歳以下

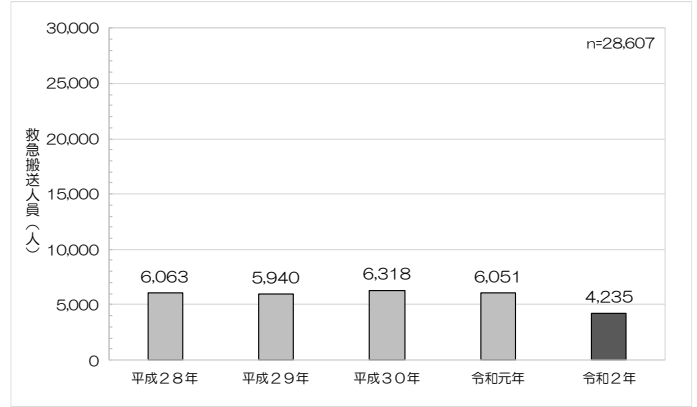


図3-36 10代

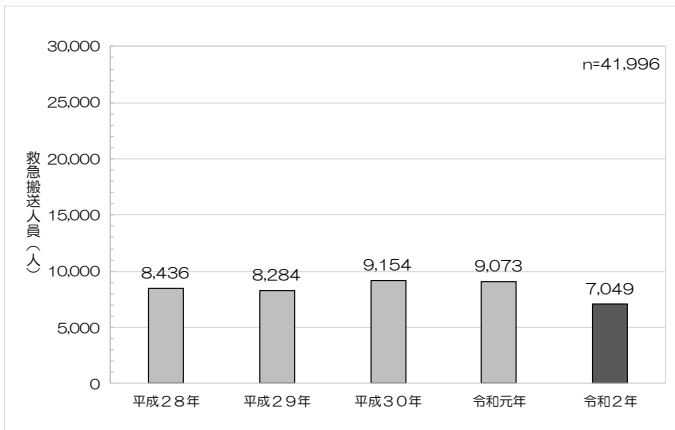


図3-37 20代

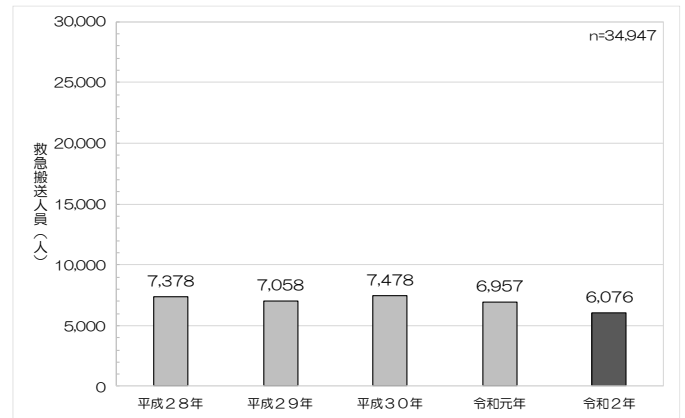


図3-38 30代

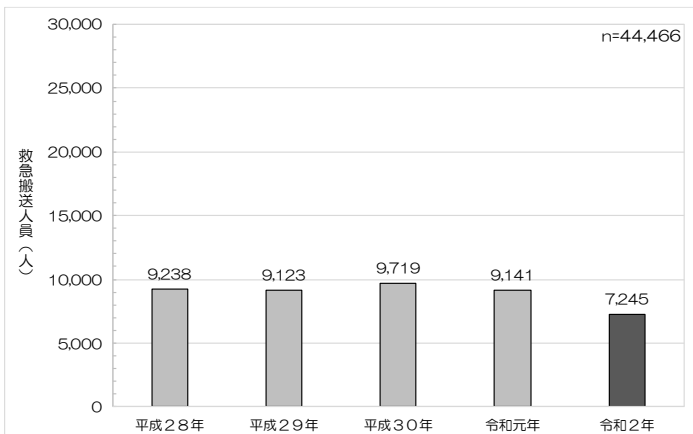


図3-39 40代

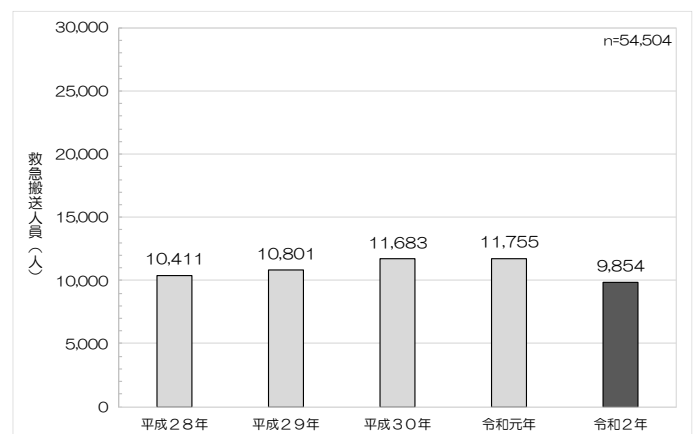


図3-40 50代

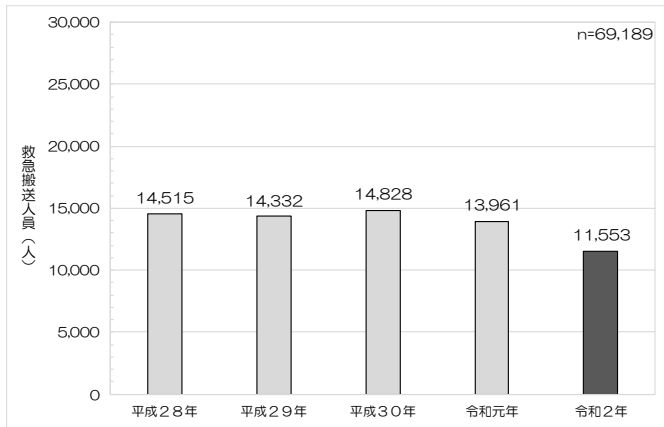


図3-41 60代

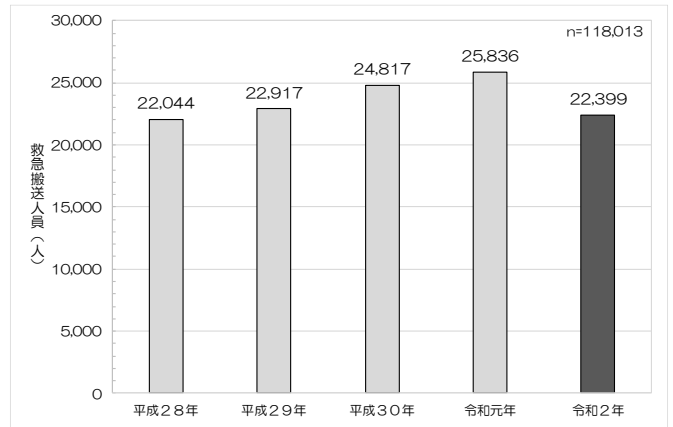


図3-42 70代

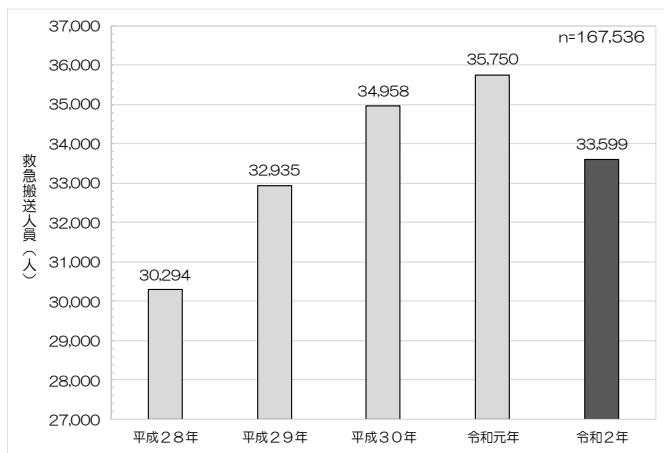


図3-43 80代

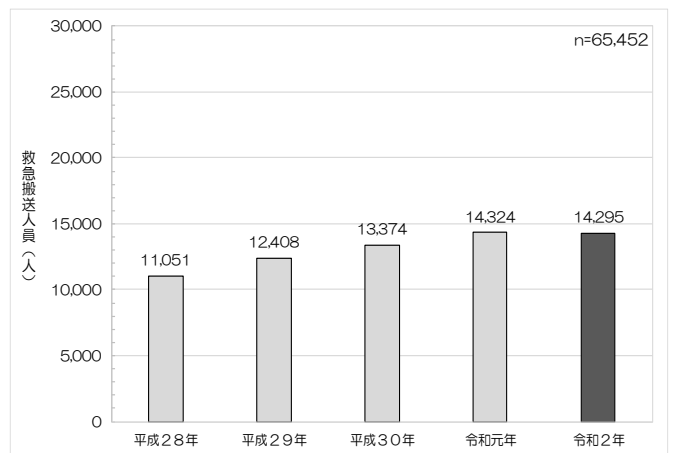


図3-44 90歳以上

(2) 事故種別（その他、不明を除く）ごとの比較

事故種別（その他、不明を除く）ごとに比較すると、「ころぶ」事故の割合は、50代から全体の6割以上を占めています。「落ちる」事故では9歳以下で約3割を占めています。「切る・刺さる」事故では20代と30代で1割以上を占めています。「ものがつまる等」の事故については、9歳以下では1割以上を占めています（図3-45から図3-54まで）。

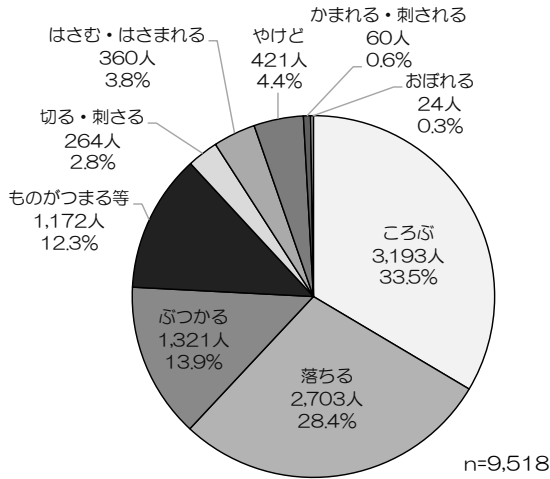


図3-45 9歳以下

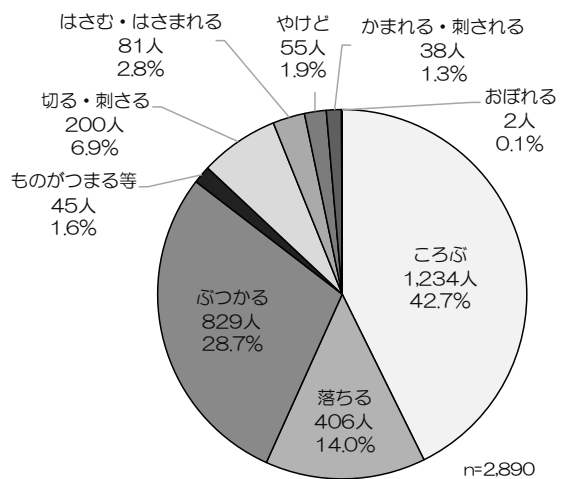


図3-46 10代

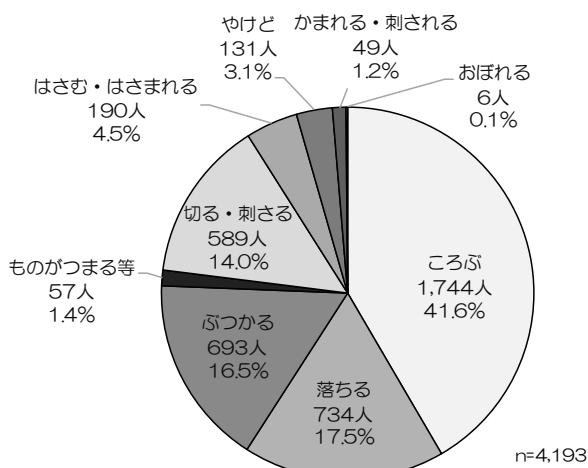


図3-47 20代

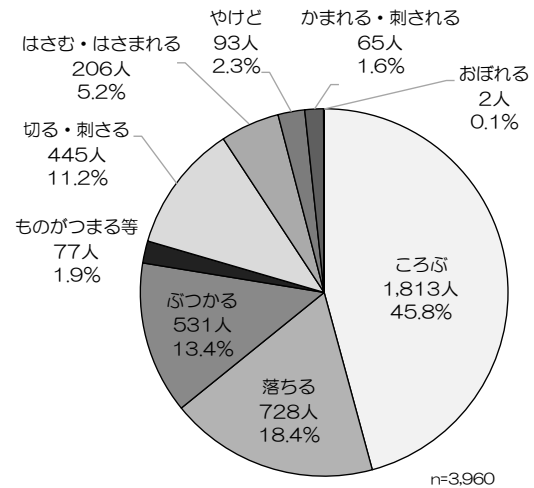


図3-48 30代

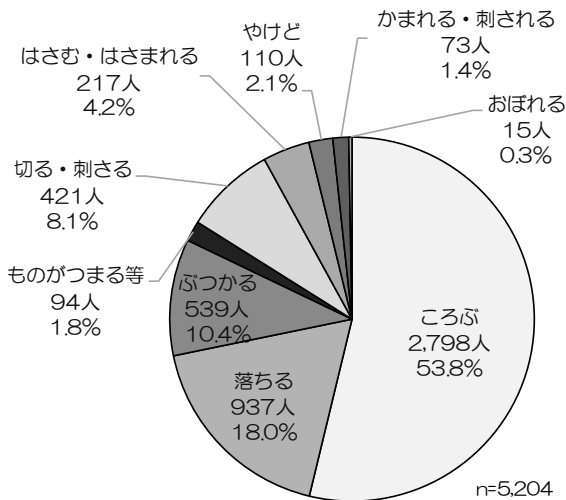


図3-49 40代

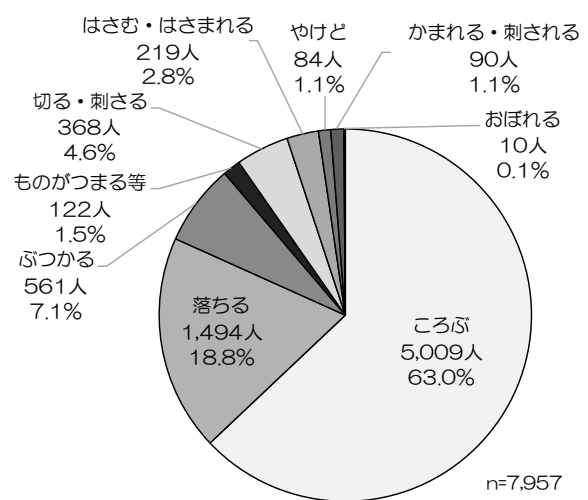


図3-50 50代

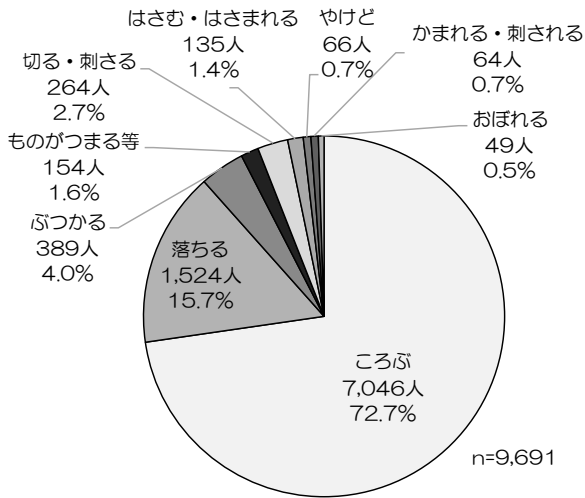


図3-51 60代

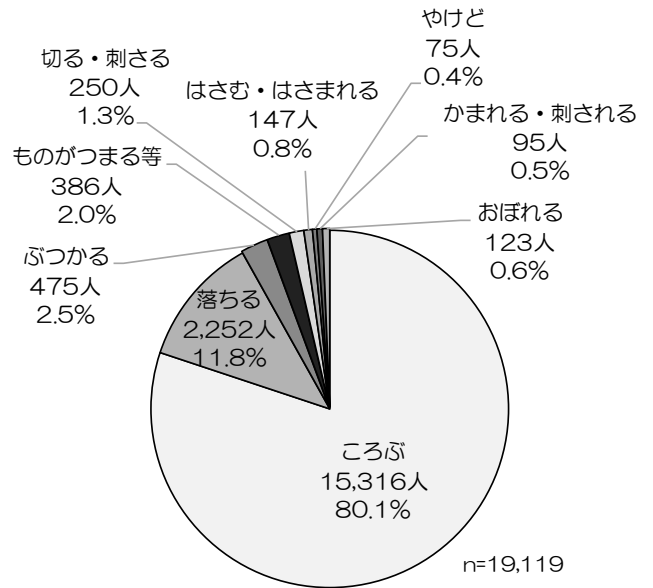


図3-52 70代

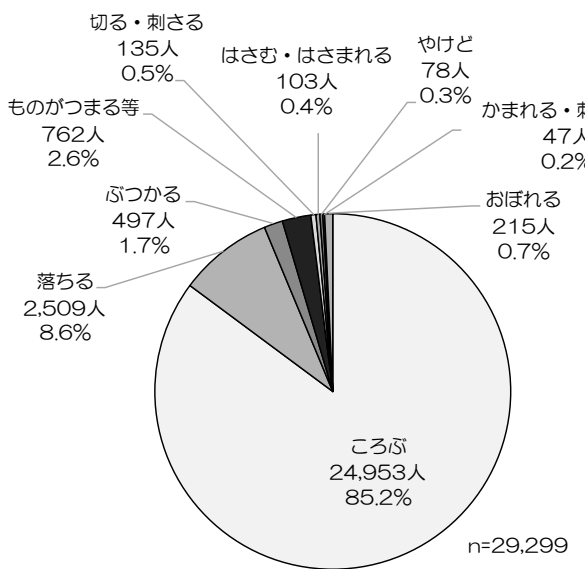


図3-53 80代

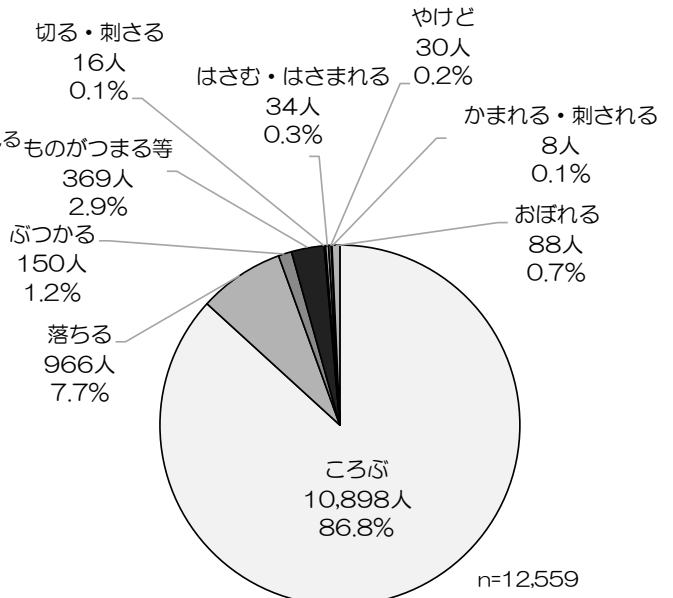


図3-54 90歳以上

(3) 時間帯別の比較

時間帯別に比較すると、9歳以下では16時から20時までの時間帯で800人以上が救急搬送されています。10代では日中が多くなっており、20代から50代までにかけては夜間に増加しています。60代では夜間に加えて、日中でも多く救急搬送されています。70代以上では夜間の救急搬送が減少し、日中に多く救急搬送されています（図3-55から図3-64まで）。

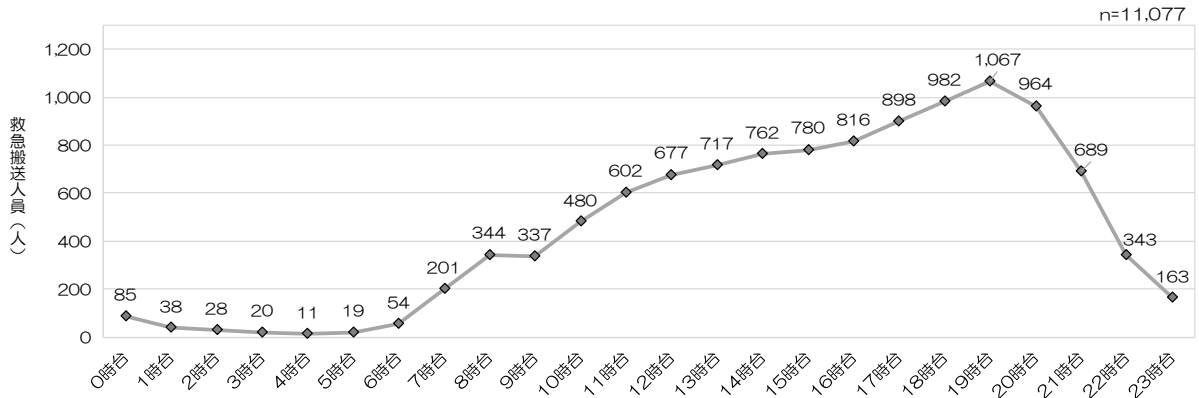


図3-55 9歳以下

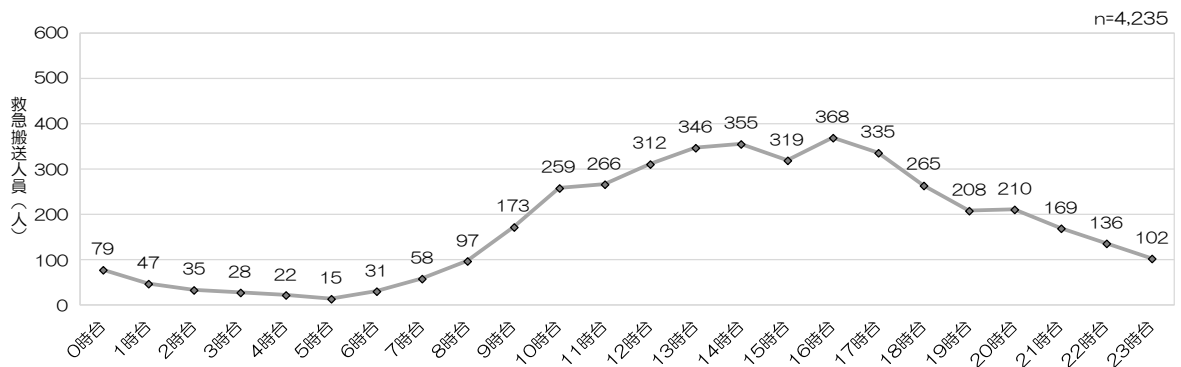


図3-56 10代

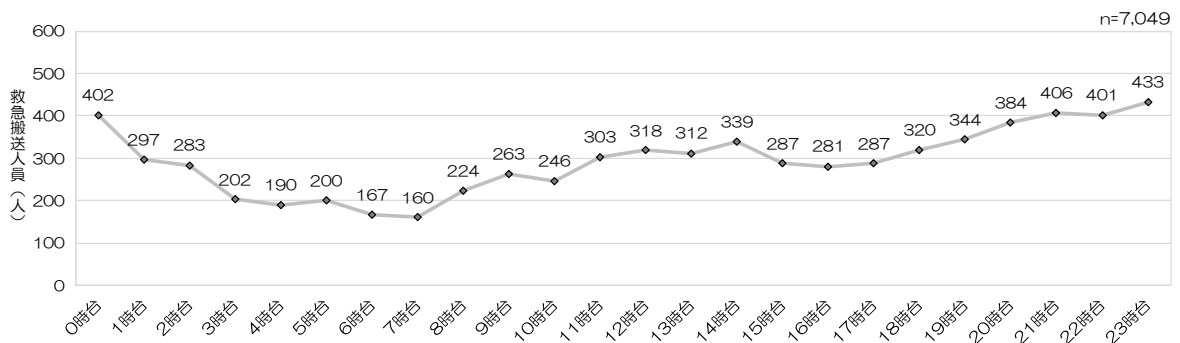


図3-57 20代

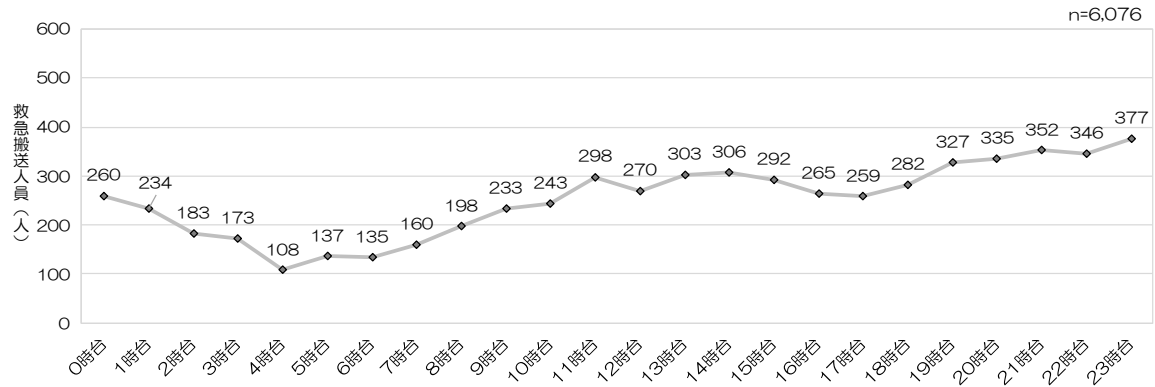


図3-58 30代

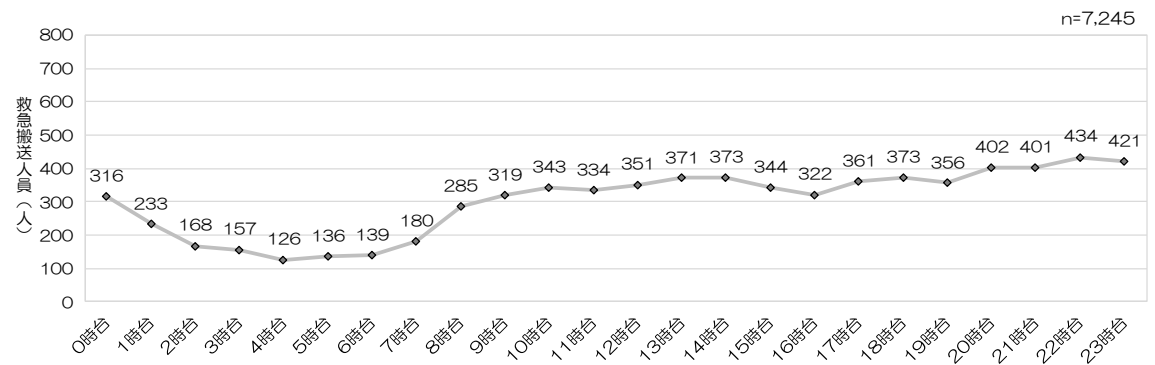


図3-59 40代

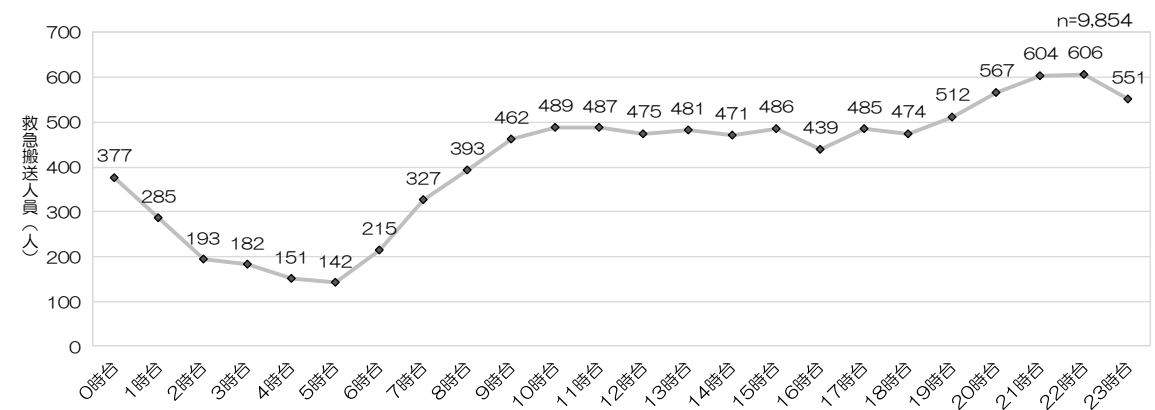


図3-60 50代

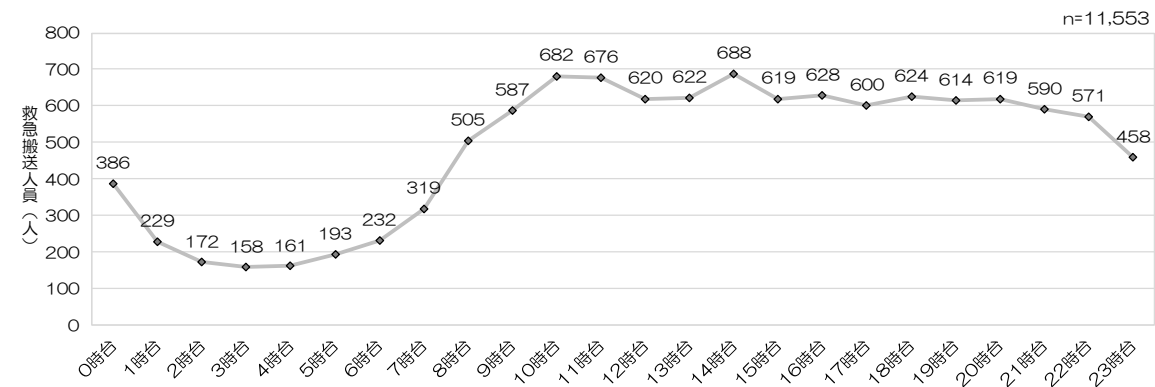


図3-61 60代

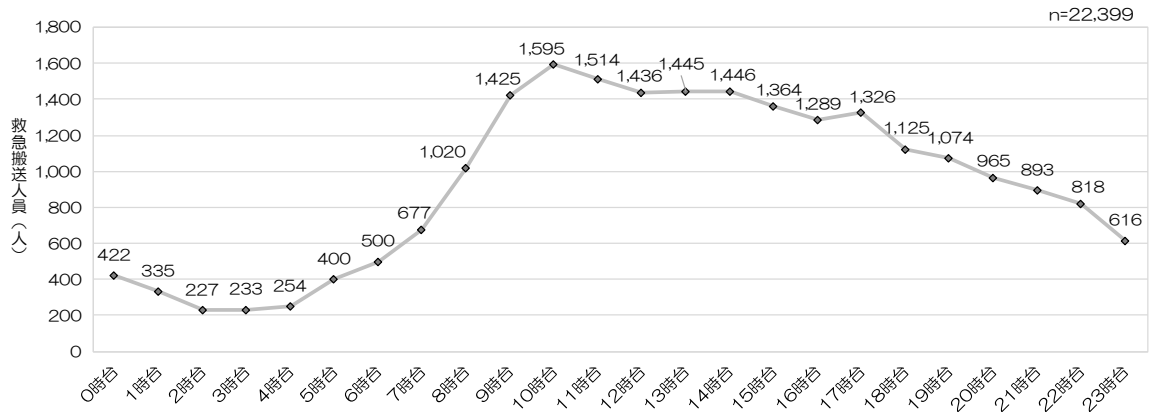


図3-62 70代

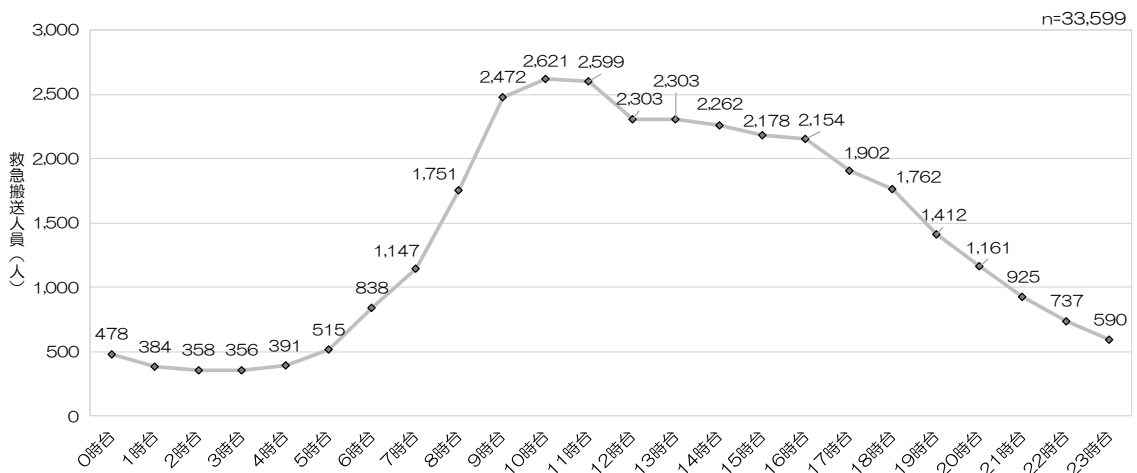


図3-63 80代

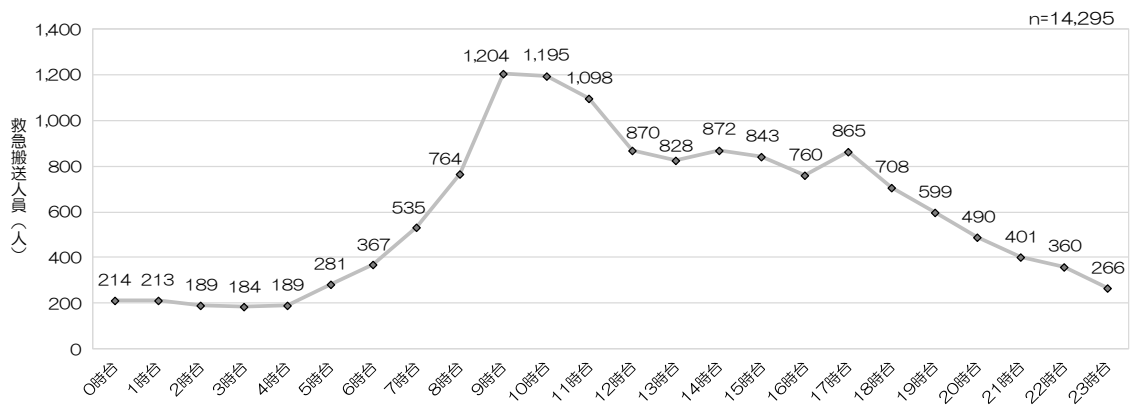


図3-64 90歳以上

第4部 関連器物から見た事故

日常生活の中では、エスカレーターで転んだり、遊具から落ちたり、日々使用する様々なもの（器物）により事故に遭うことが多くあります。

ここでは、これまでに多くの事故が発生している器物について事故の傾向をまとめました。また、使い方によっては思いがけない危険が潜んでいる器物についても取り上げました。

1 エスカレーター

エスカレーターは、駅やショッピングセンター等、多くの場所で利用されています。エスカレーターに乗っていてバランスを崩して転んだり、小さな子どもが靴をはさまれたりする事故が発生しています。

(1) 年別搬送人員

平成28年から令和2年までの5年間で、6,613人が救急搬送されています。

令和2年中は1,069人が救急搬送されており、65歳以上の高齢者が全体の7割以上を占めています（図4-1）。

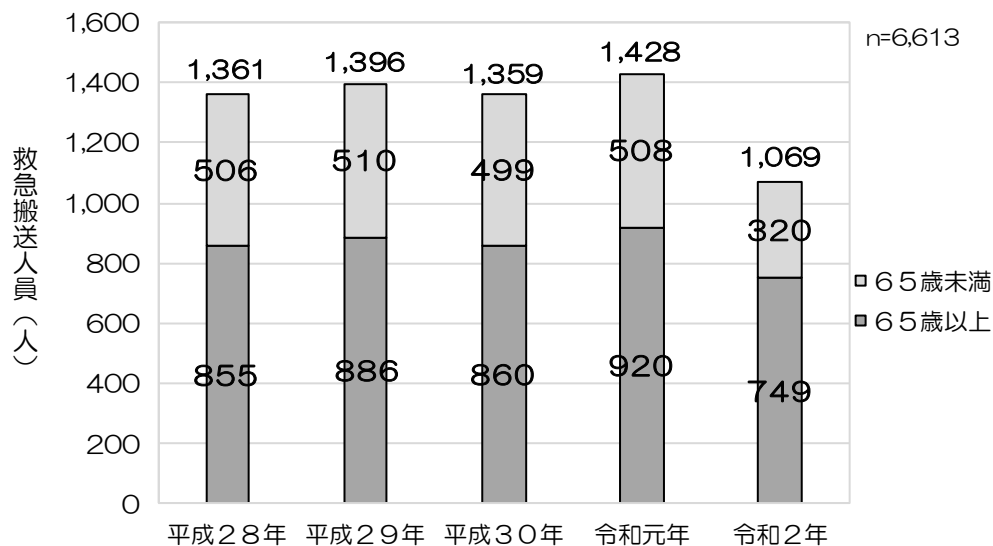


図4-1 年別の救急搬送人員

(2) 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別に見ると、75歳から89歳までの各年齢層で150人以上が救急搬送されています（図4-2）。

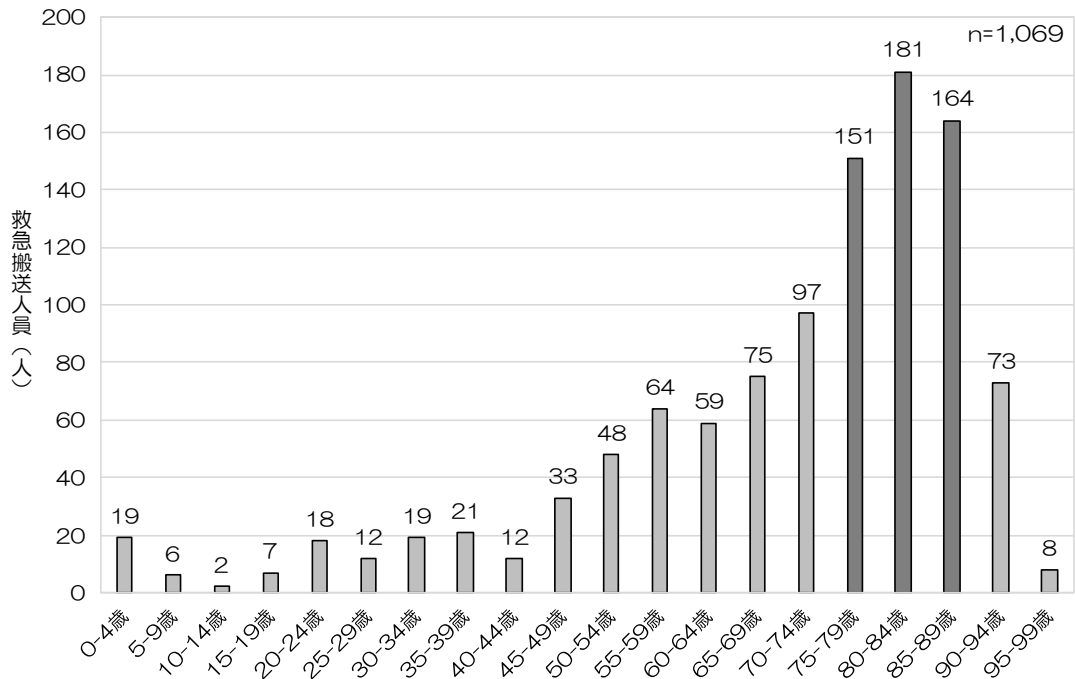


図4-2 年齢層別の救急搬送人員

(3) 時間帯別搬送人員

高齢者と高齢者以外（64歳以下）の時間帯別救急搬送人員を見ると、高齢者では10時台から15時台までに多く発生しています。また、64歳以下では23時台が最も多くなっています（図4-3）。

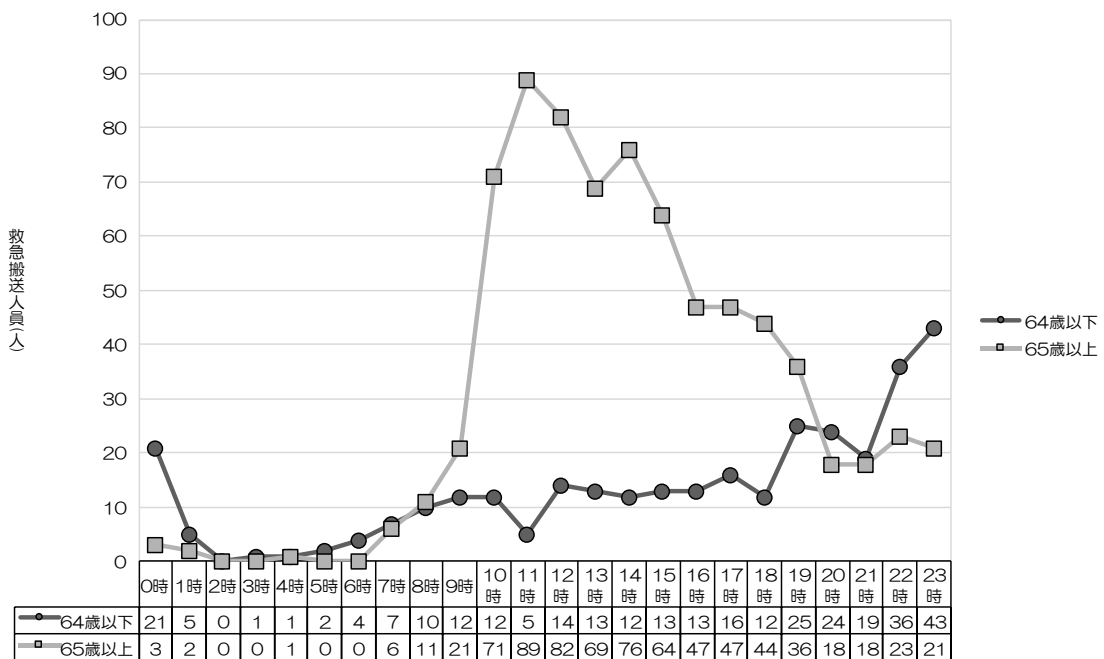


図4-3 時間帯別の救急搬送人員

(4) 事故種別ごとの搬送人員

エスカレーターでの事故を事故種別ごとに見ると、「ころぶ」事故、「落ちる」事故が9割以上を占めています（図4-4）。

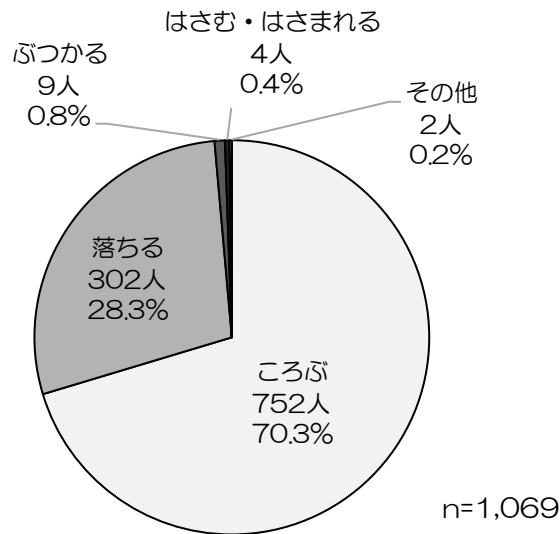


図4-4 事故種別ごとの救急搬送人員

(5) 初診時程度別搬送人員

エスカレーターで受傷して救急搬送された人の2割は中等症以上と診断されています（図4-5）。

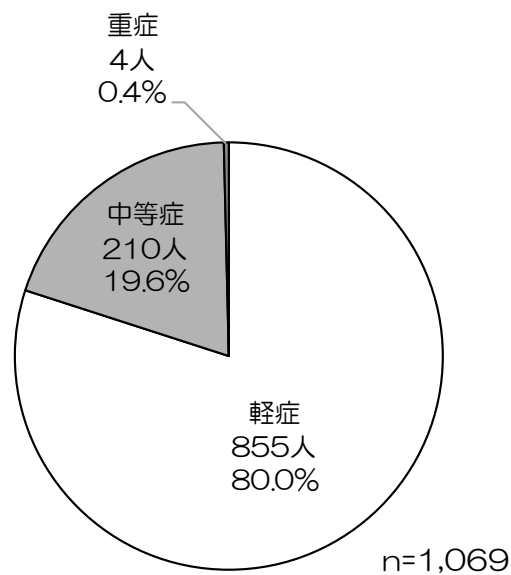


図4-5 初診時程度別の救急搬送人員

(6) 発生場所別搬送人員

事故発生場所で見ると、駅などの道路・交通施設で最も多く発生していますが、高齢者では店舗・遊技施設等が約5割を占めています（図4-6、図4-7）。

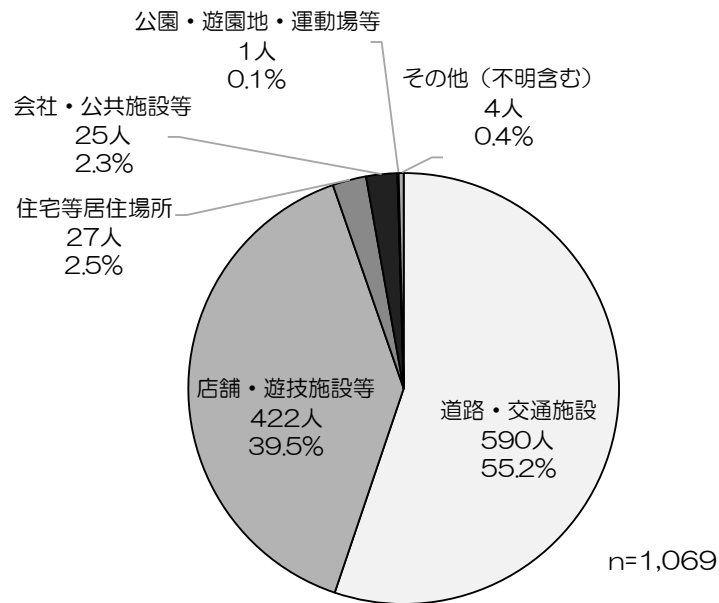


図4-6 発生場所別の救急搬送人員

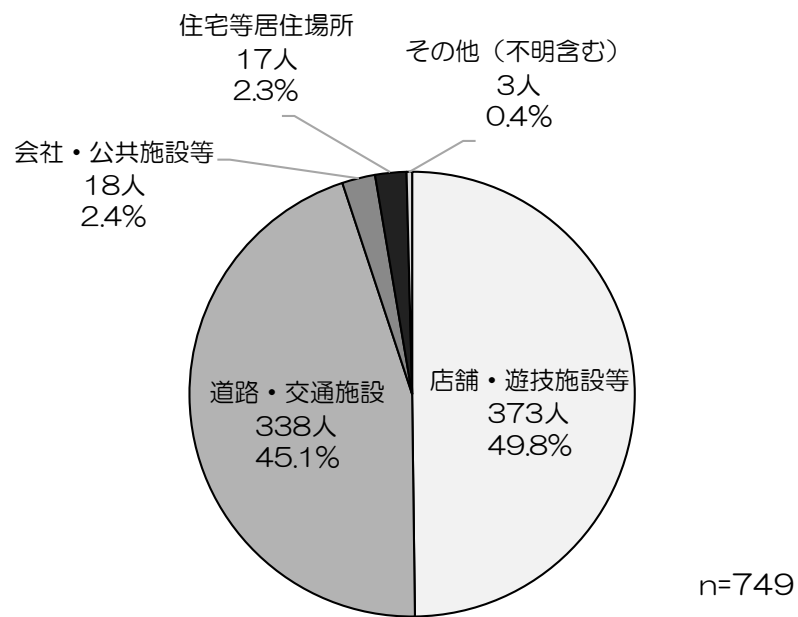


図4-7 発生場所別の救急搬送人員(高齢者)

(7) エスカレーターでの事故事例

【事例1 飲酒後に転倒】

飲酒後、エスカレーターに乗っている際に前のめりに転倒し、エスカレーター下まで転落した（70代 軽症）。

【事例2 靴紐がはさまれる】

エスカレーターで下っていたときに、ほどけていた靴紐がエスカレーターにはさまれて転倒し、受傷した（53歳 中等症）。

【事例3 指がはさまれる】

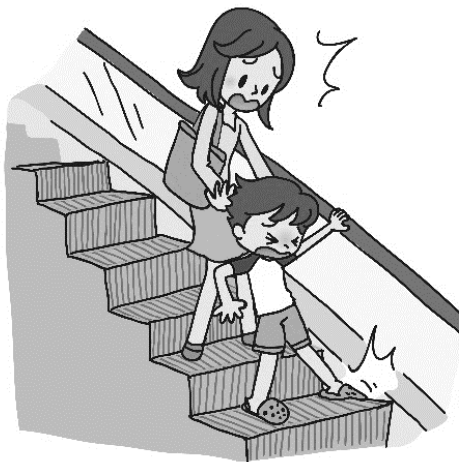
上りエスカレーターに乗っているときに、荷物が落ちたため手で取ろうとした際、隙間に指がはさまれ受傷した（4歳 軽症）。

【事例4 物にぶつかり転倒】

下りエスカレーターに乗っていたところ、後方から転落してきたキャリーケースが体にぶつかり受傷した（40代 中等症）。

【エスカレーターでの事故防止】

- 手すりにつかましましょう。
- 飲酒後の事故が多く発生しているため十分に注意しましょう。
- エスカレーター上の歩行は、バランスを崩しやすく、他の利用者と接触するおそれがあります。ステップに立ち止って利用しましょう。
- 靴のはさまれ等を防止するため、ステップの黄色い線の内側に立ちましょう。
- 買い物カート等を乗り入れると、バランスを崩すおそれがあるため、注意しましょう。
- 子どもがエスカレーター近くで遊ばないように注意しましょう。



2 エレベーター

エレベーターは、共同住宅やビル、店舗等、あらゆる場所で利用されています。エレベーターの乗降時に転んだり、小さな子どもが手や指をはさまれたりする事故が発生しています。

(1) 年別搬送人員

平成28年から令和2年までの5年間で672人が救急搬送されています。令和2年中は90人が救急搬送されています（図4-8）。

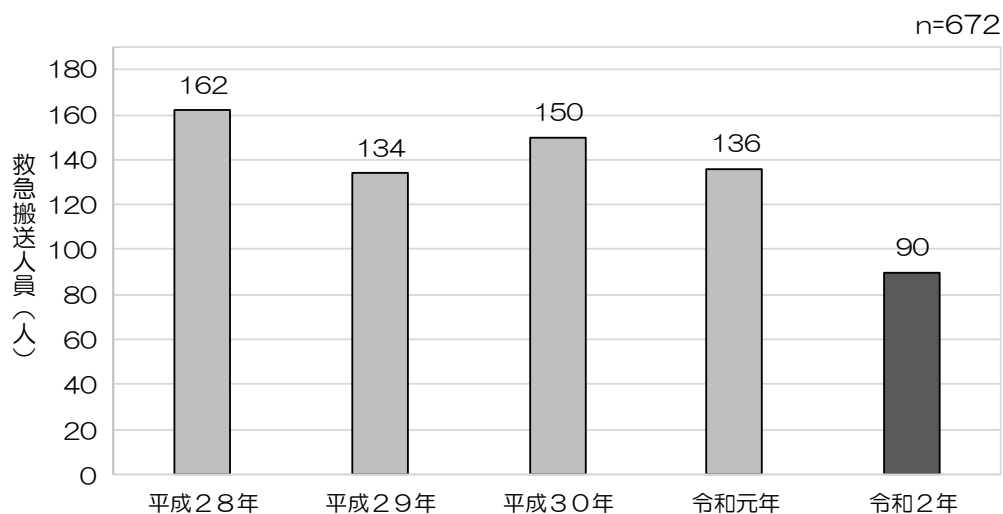


図4-8 年別の救急搬送人員

(2) 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別に見ると、80歳から84歳までが16人と最も多くなっています。次いで、0歳から4歳までが15人と多くなっています（図4-9）。

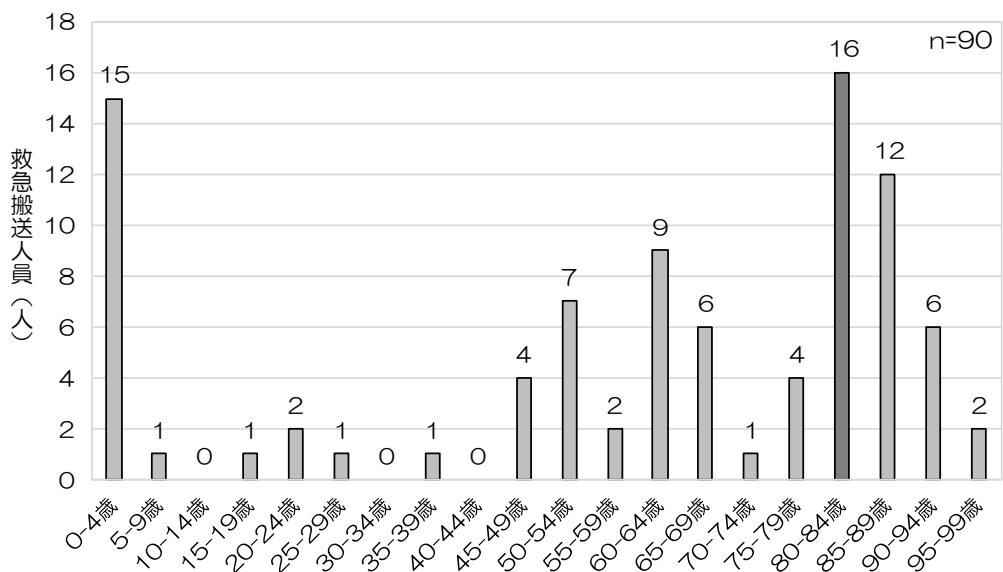


図4-9 年齢層別の救急搬送人員

(3) 時間帯別搬送人員

時間帯別救急搬送人員を見ると、17時台が14人と最も多く、全般的に日中の時間帯が多くなっています（図4-10）。

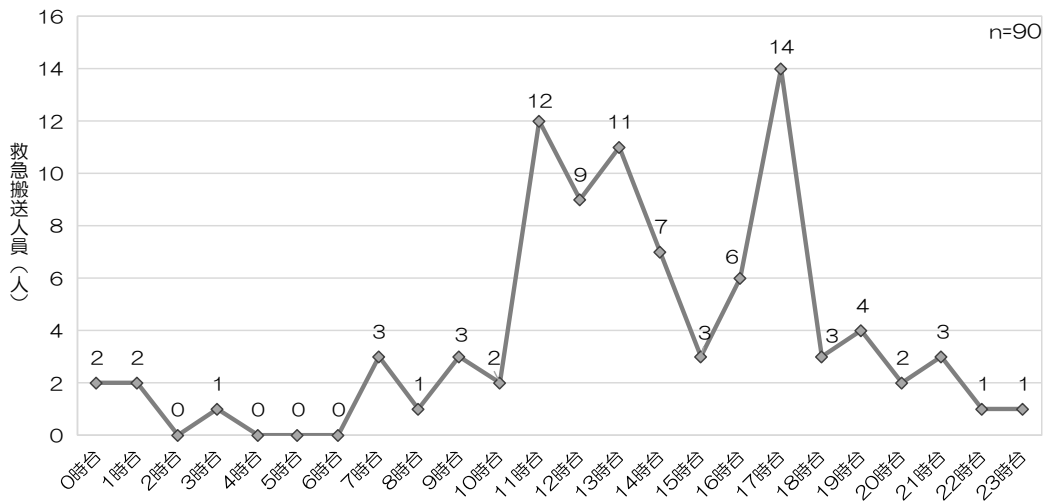


図4-10 時間帯別の救急搬送人員

(4) 事故種別ごとの搬送人員

エレベーターでの事故を事故種別ごとに見ると、5割以上がころんで受傷しています。また、手や指等が扉や戸袋にはさまれたりして受傷する事故も多く発生しています（図4-11）。

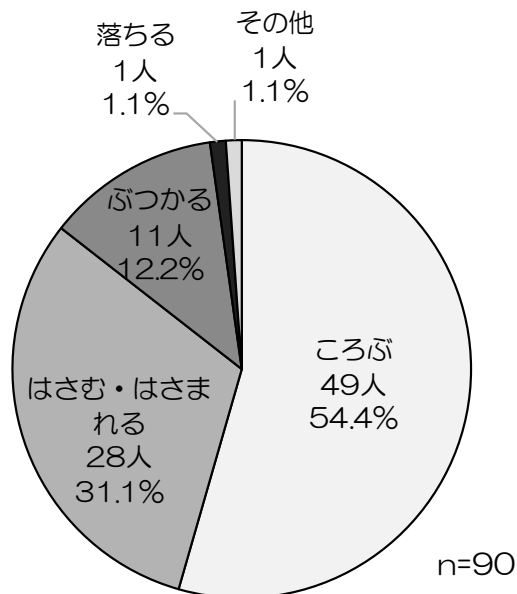


図4-11 事故種別ごとの救急搬送人員

(5) 初診時程度別搬送人員

エレベーターでの事故で救急搬送された人の約4割は、入院の必要があるとされる中等症以上と診断されています（図4-12）。

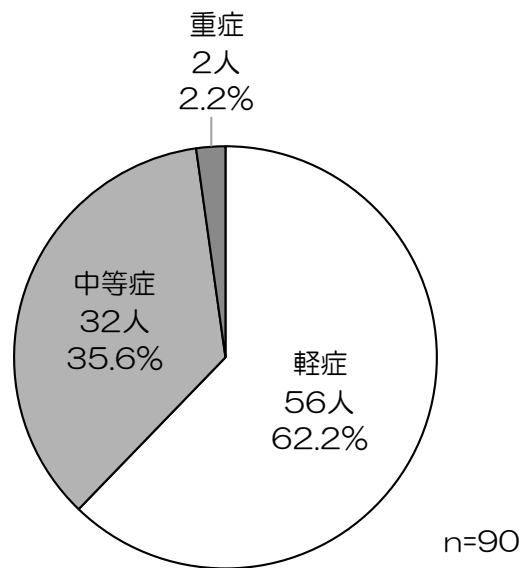


図4-12 初診時程度別の救急搬送人員

(6) 発生場所別搬送人員

事故発生場所で見ると、住宅等居住場所や店舗・遊技施設等、道路・交通施設で多く発生しており、8割がこの3つの場所で発生しています（図4-13）。

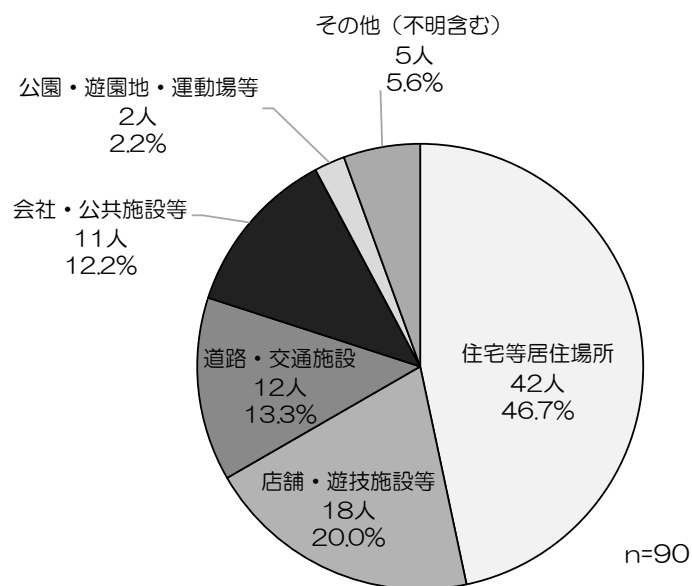


図4-13 発生場所別の救急搬送人員

(7) 0歳～5歳のエレベーターによる事故の内訳

0歳から5歳までのエレベーターによる事故は、15人中14人が「はさむ・はさまれる」事故となっており、手や指等をはさまれる事故が多くなっています（表9）。

表9 0～5歳のエレベーターによる事故の内訳

	はさむ・はさまれる		ころぶ	総計
	戸袋	扉		
0歳	0	0	0	0
1歳	3	5	1	9
2歳	4	1	0	5
3歳	0	1	0	1
4歳	0	0	0	0
5歳	0	0	0	0
小計	7	7		
総計	14		1	15

(8) エレベーターでの事故事例

【事例1 戸袋にはさまれる】

ドアが閉まる際に、抱いていた子どもの手が戸袋にはさまれて受傷した（2歳 軽症）。

【事例2 扉にぶつかる】

急いでエレベーターに乗ろうとしたところ、ドアに衝突してしまい転倒し、受傷した（80代 軽症）。

【エレベーターでの事故防止】

- 乗降時は床との段差に注意し、駆け込みなど無理な乗降はやめましょう。
- ドアの開閉時にはドアに触れず、荷物や衣服などが巻き込まれないように注意しましょう。また、子どもはドアから離れた位置にさせましょう。
- エレベーターを使った作業時の事故は、重症事故につながることを認識し、作業手順、制限重量などに十分注意しましょう。

3 自転車の幼児用座席

保護者が自転車の幼児用座席に子どもを乗せていて転倒したり、子どもだけを残して自転車を離れ、自転車が倒れるなどして乳幼児が受傷する事故が多く発生しています。

(1) 年別搬送人員

自転車の幼児用座席から転落するなどして平成28年から令和2年までの5年間に967人の乳幼児（0歳から5歳まで）が救急搬送されています。令和2年中は136人が救急搬送されています（図4-14）。

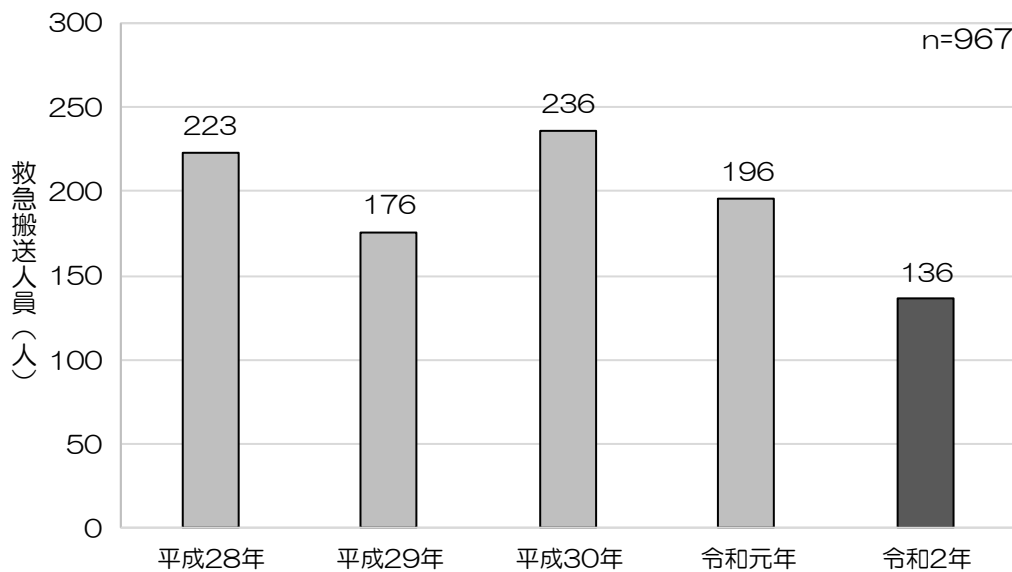


図4-14 年別の救急搬送人員

(2) 年齢別搬送人員

年齢別では、1歳児、2歳児の事故が多く発生しています（図4-15）。

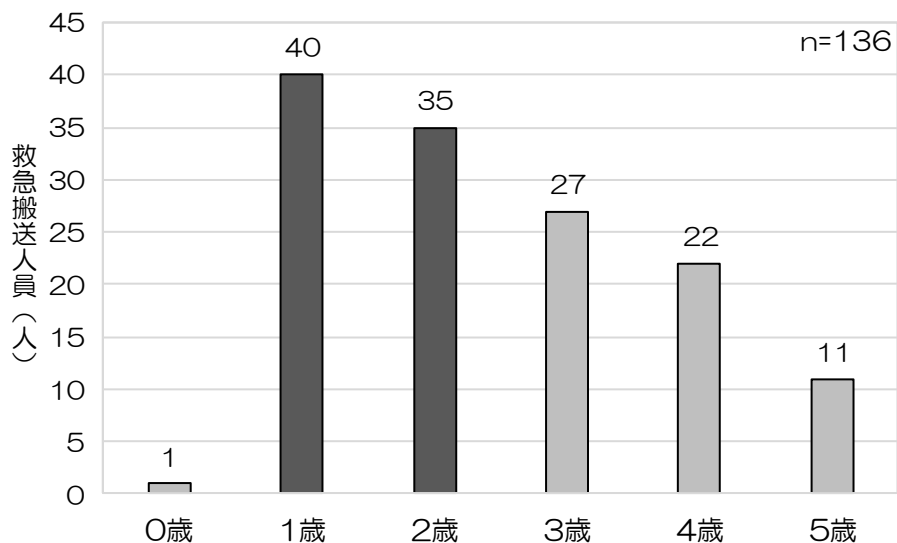


図4-15 年齢別の救急搬送人員

(3) 初診時程度別搬送人員

初診時程度では、軽症が9割以上となっています（図4-16）。

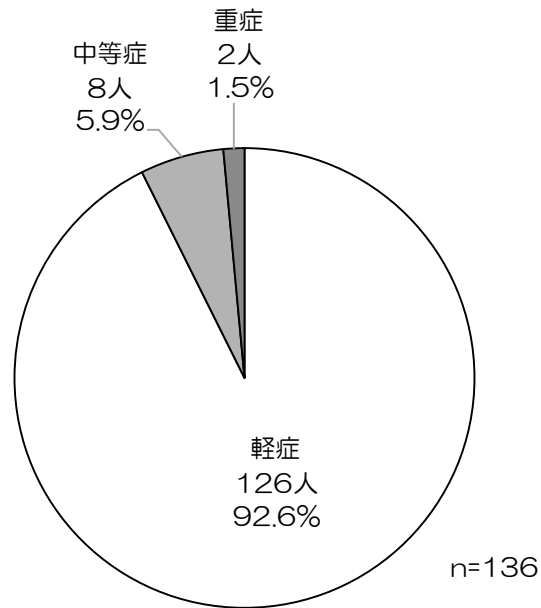


図4-16 初診時程度別の救急搬送人員

(4) 受傷部位別搬送人員

受傷部位別に分類すると、全体の9割以上が顔や頭を受傷しています。また、足や腕を骨折する事故も発生しています（図4-17）。

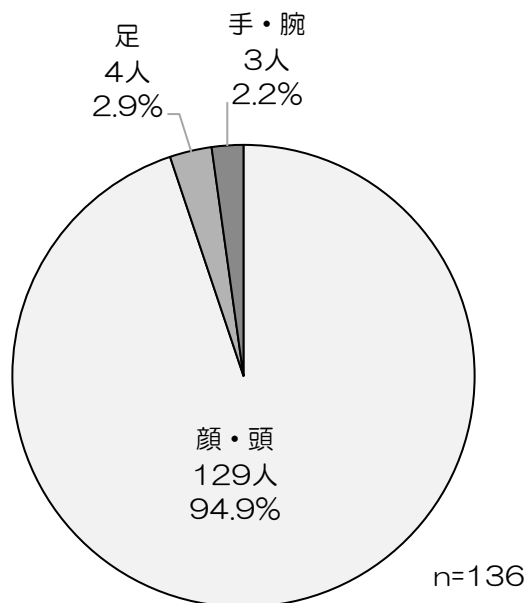


図4-17 受傷部位別の救急搬送人員

(5) 自転車の幼児用座席での事故事例

【事例1 バランスを崩す】

親が運転する自転車がバランスを崩して転倒し、後方の座席に乗っていた子どもが頭部をぶつけ受傷した（1歳 中等症）。

【事例2 目を離した際に】

停車させた自転車の前後の座席にそれぞれ子どもを乗せていたところ、後方の座席に乗っていた子どもが自転車から降りたため自転車が倒れ、前方の座席に乗っていた子どもが受傷した（2歳 軽症）。

【自転車の幼児用座席での事故防止】

- 子どもを自転車の幼児用座席に乗せたまま自転車から離れないようにしましょう。
 - ヘルメットは、頭部への衝撃を緩和するのに有効であるため、ヘルメットを着用させてから自転車に乗せましょう。
 - 転落防止のため、備え付けのベルトを締めましょう。
 - 自転車走行中以外にも事故が発生することを意識しましょう。
 - ルールとマナーを守った運転を心がけましょう。
- ※ 平成25年7月1日に「東京都自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」が施行されました。



4 遊 具

(1) 年別搬送人員

遊具による事故で、平成28年から令和2年までの5年間に4,515人の子ども(12歳以下)が救急搬送されています。令和2年中は940人が救急搬送されています(図4-18)。

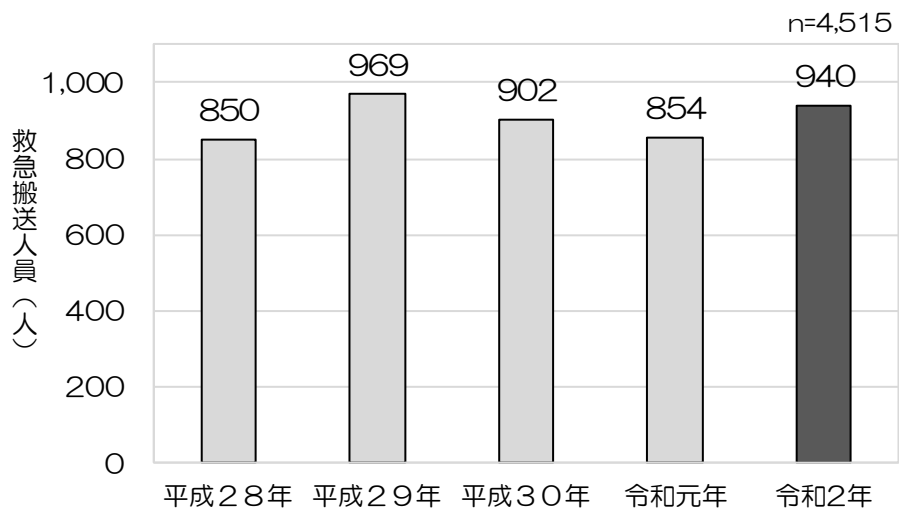


図4-18 年別の救急搬送人員

(2) 年齢別搬送人員

年齢別では、2歳が最も多く130人が救急搬送され、次いで、3歳が102人と なっています(図4-19)。

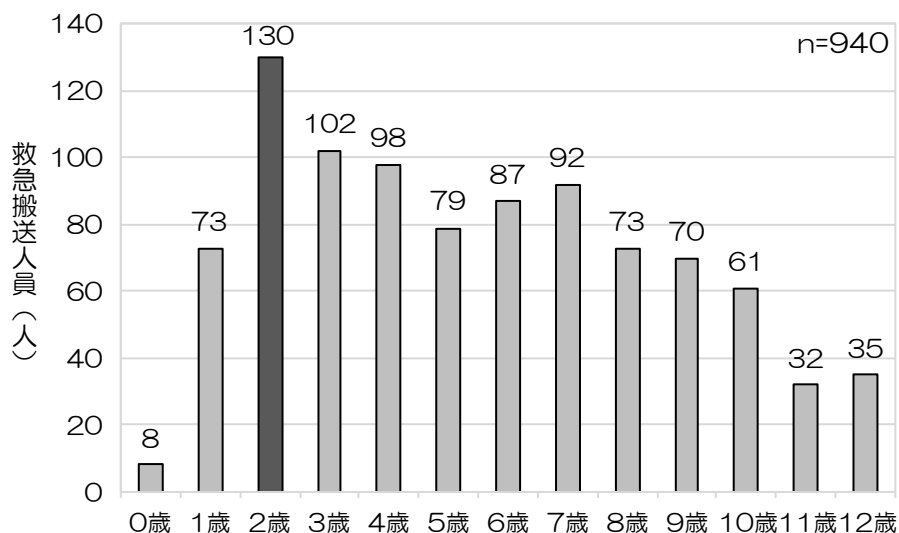


図4-19 年齢別の救急搬送人員

(3) 月別搬送人員

月別では、11月が最も多く、140人が救急搬送されています。次いで12月に101人の子どもが救急搬送されています（図4-20）。

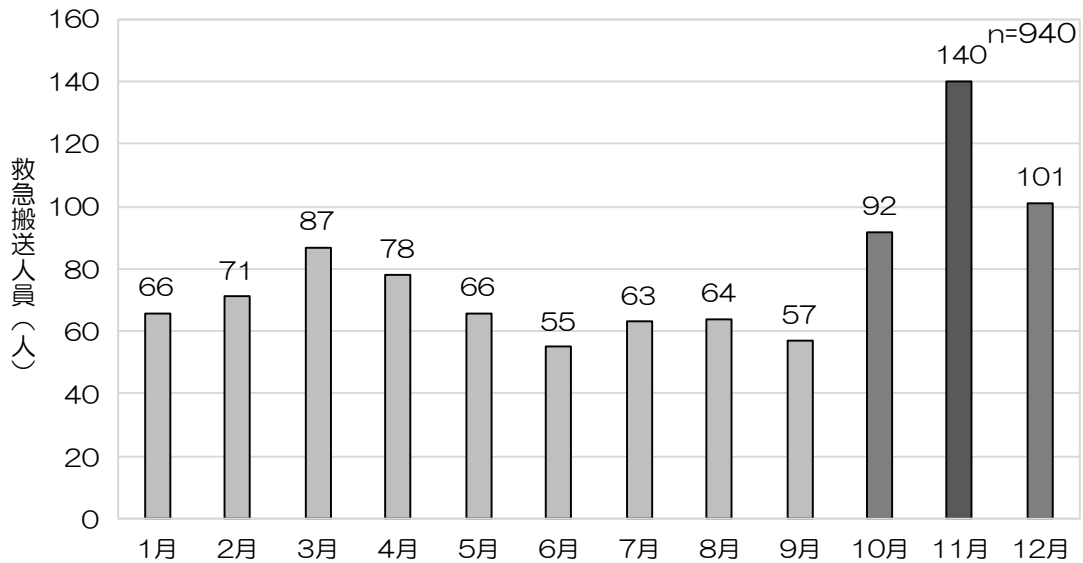
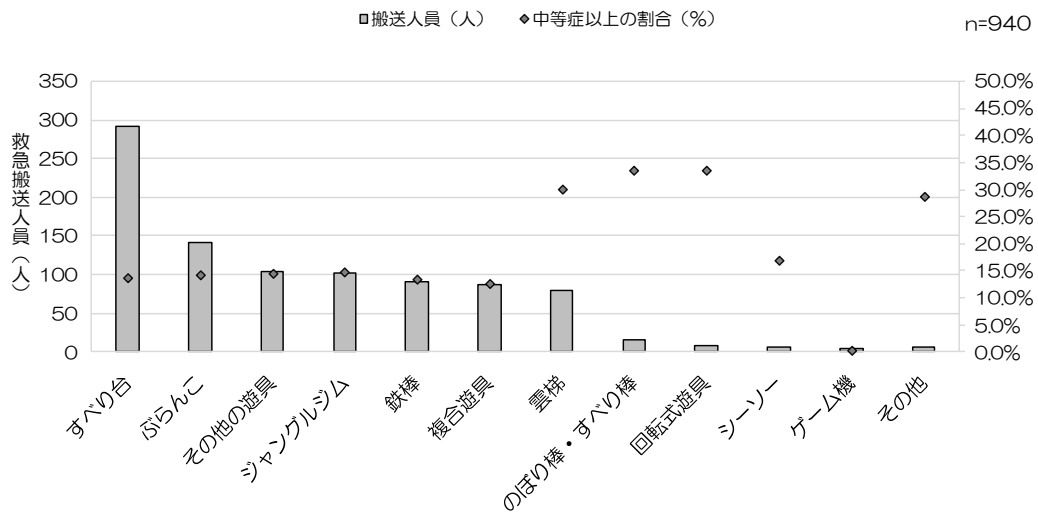


図4-20 月別の救急搬送人員

(4) 遊具別の搬送人員と中等症以上の割合

遊具別に見ると滑り台での事故が最も多く発生しています。また、のぼり棒・すべり棒と回転式遊具で中等症以上の割合が3割以上と最も高くなっています（図4-21）。



遊具	滑り台	ぶらんこ	その他の遊具	ジャングルジム	鉄棒	複合遊具	雲梯	のぼり棒・すべり棒	回転式遊具	シーソー	ゲーム機	その他
救急搬送人員	291人	142人	104人	103人	91人	88人	80人	15人	9人	6人	4人	7人
中等症以上の割合	13.4%	14.1%	14.4%	14.6%	13.2%	12.5%	30.0%	33.3%	33.3%	16.7%	0.0%	28.6%

※その他の遊具とは、吊橋遊具、トンネル遊具、はしご遊具等

※その他とは、アトラクション、電動立ち乗り二輪車型遊具等

図4-21 遊具別の救急搬送人員と中等症以上の割合

(5) 遊具での事故事例

【事例1 滑り台】

滑り台に上がったところでバランスを崩して約1.5mの高さから転落し、受傷した(12歳 中等症)。

【事例2 雲梯】

公園の雲梯に飛び移ろうとした際、棒をつかみ損ねて落下し、受傷した(8歳 中等症)。

【事例3 ジャングルジム】

自宅内のジャングルジムで遊んでいる際に、高さ80cmから転落し、腕を受傷した(3歳 中等症)。

【事例4 ブランコ】

ブランコで立ちこぎをしていてジャンプした際に、前方の柵に腹部をぶつけて受傷した(12歳 中等症)。

5 ガスによる事故

(1) 年別発生件数

ガスによる事故（火災、不救護を除く）は、平成28年から令和2年までの5年間に183件発生しています。令和2年中は11件発生しています（図4-22）。

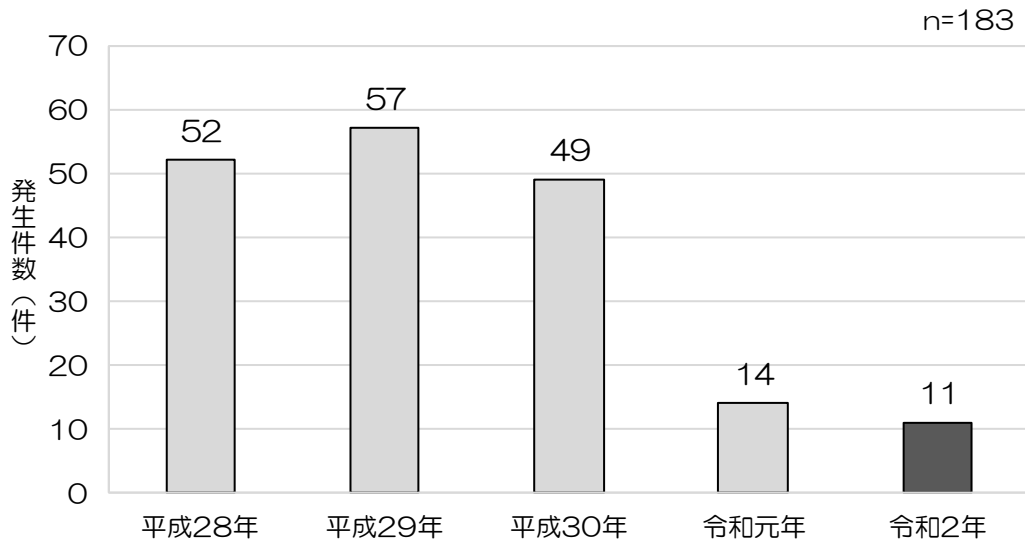


図4-22 年別の発生件数

(2) 月別発生件数

月別では、6月が3件と最も多くなっています（図4-23）。

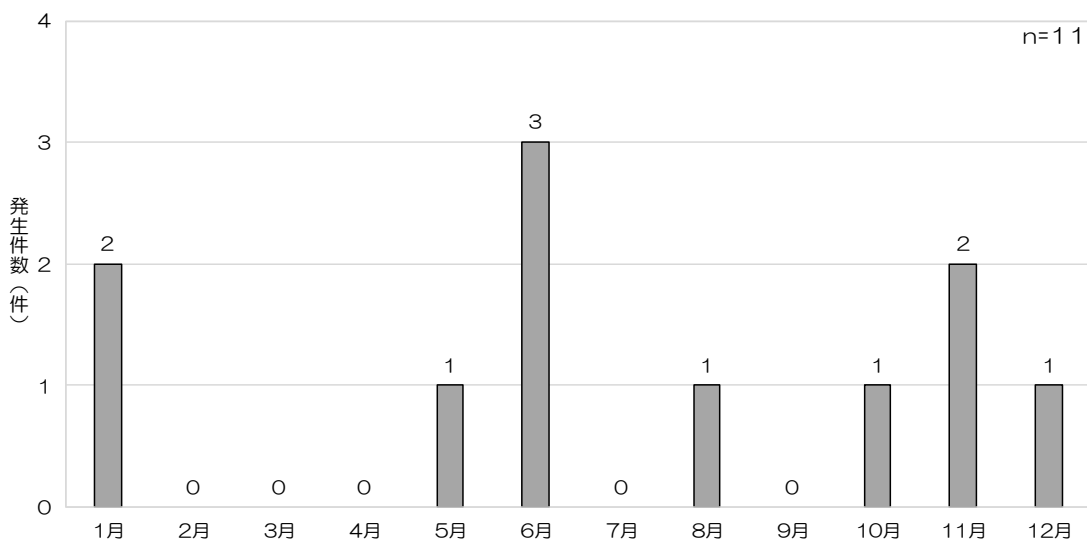


図4-23 月別の発生件数

(3) 年齢層別搬送人員

令和2年中にガスによる事故（火災、自損、不救護を除く）で、19人が救急搬送されています。年齢層（5歳単位）別に見ると、45歳から49歳までと55歳から59歳までが3人と最も多くなっています（図4-24）。

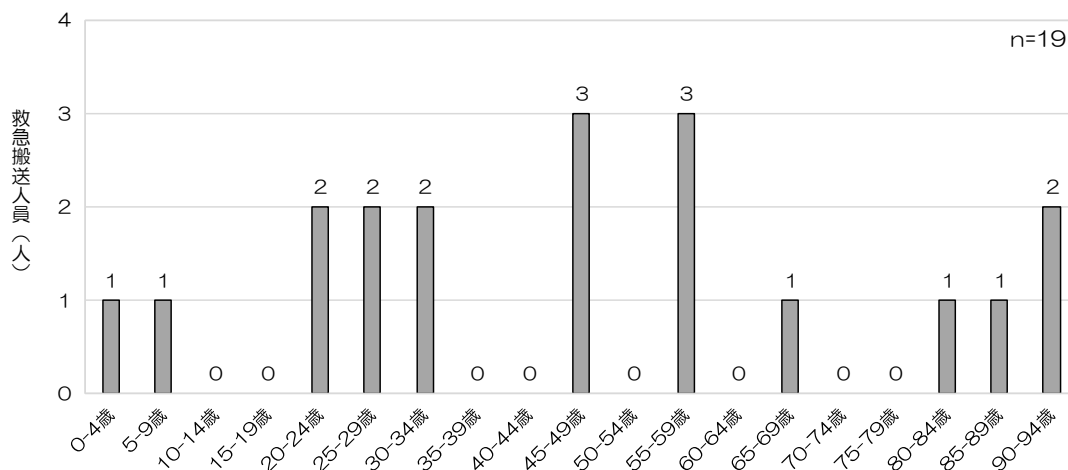


図4-24 年齢層別の救急搬送人員

(4) 発生場所別発生件数

事故発生場所で見ると、8割以上が住宅等居住場所と店舗・遊技施設等で発生しています（図4-25）。

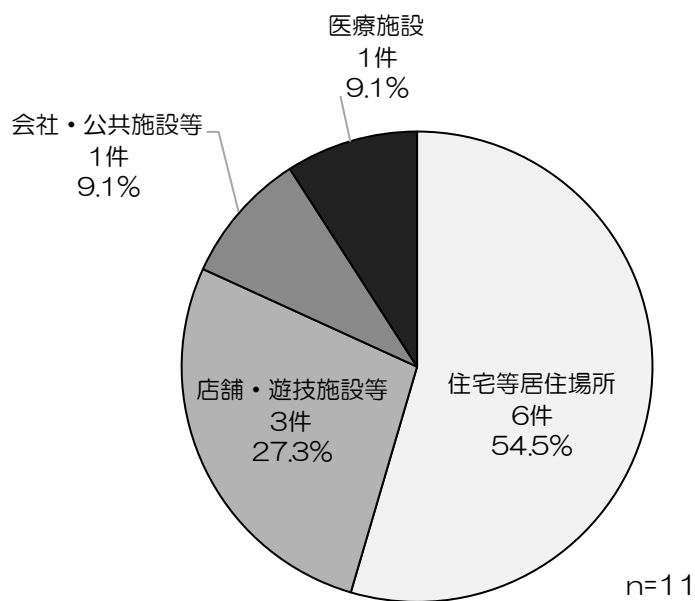


図4-25 発生場所別の発生件数

(5) 初診時程度別とガス種別ごとの搬送人員

ガスによる事故で搬送された人の約6割が、入院の必要があるとされる中等症以上と診断され、重症以上も2割以上を占めています（図4-26）。

ガス種別ごとに見ると一酸化炭素中毒による搬送が最も多く約6割を占めており、次いでエアゾール缶ガスとなっています（図4-27）。

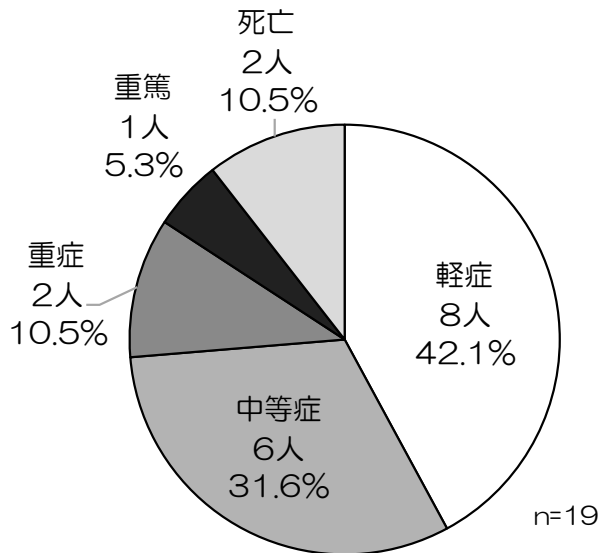


図4-26 初診時程度別の救急搬送人員

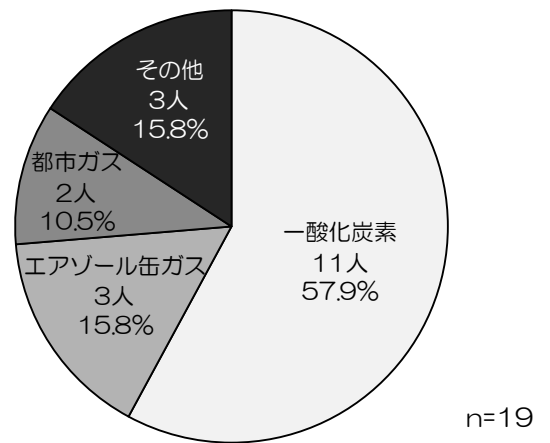


図4-27 原因別の救急搬送人員

(6) ガス種別ごとの発生件数

ガス種別ごとに見ると、一酸化炭素中毒が5件と最も多くなっています（図4-28）。一酸化炭素による事故のうち「炭」が3件と最も多くなっています。

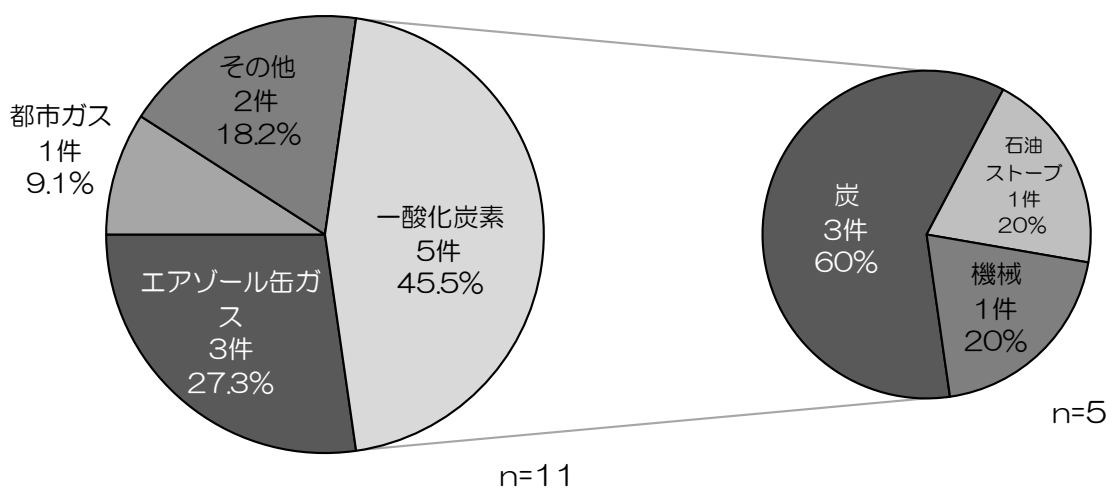


図4-28 ガス種別ごとの発生件数

(7) 一酸化炭素中毒による初診時程度別搬送人員

一酸化炭素中毒による事故で救急搬送された人の9割以上が、入院の必要があるとされる中等症以上と診断されており、重症以上も全体の4割以上を占めています（図4-29）。

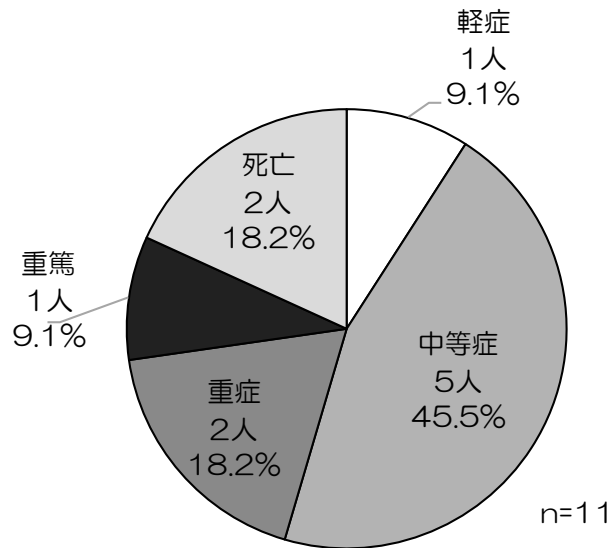


図4-29 初診時程度別の救急搬送人員（一酸化炭素）

(8) ガスに関連する事故事例

【事例1 一酸化炭素中毒】

囲炉裏で使用していた調理用炭が不完全燃焼を起こして一酸化炭素が発生し、3名が倒れた（90代 重症 90代 中等症 80代 中等症）。

【一酸化炭素での事故防止】

- 十分な換気により、室内の一酸化炭素濃度が下がることから、火気設備・器具を使用の際は換気扇の使用や定期的に窓等を開けるなどして換気を十分に行いましょう。また、使用中に少しでも異常を感じたら、使用を中止するとともに十分な換気を行いましょう。
- 不完全燃焼が起こると一酸化炭素が発生することから、火気設備・器具の定期的な点検と清掃を行いましょう。
- 発電機やバーベキュー用こんろなど屋外での使用が想定されている火気器具等は屋内では使用せず、火気設備・器具の使用法を守りましょう。
- 一酸化炭素は、無色・無臭で気が付きにくい気体です。一酸化炭素を感知する警報器を設置することも有効です。

【事例2 スプレー缶のガス抜き】

厨房器具付近でスプレー缶を廃棄処分するために穴をあけていたところ、噴出したガスに引火し、下肢を受傷した（30代 中等症）。

【穴あけ・ガス抜きでの事故防止】

- 廃棄する場合は、必ず中身を使い切り、各区市町村が指定するごみの分別を守って捨てましょう。
- 厨房器具や暖房器具付近の高温となる場所や、直射日光と湿気を避けて保管し、厨房器具や暖房器具等の付近では使用しないようにしましょう。
LPGなどの可燃性ガスは噴射剤として使われていることが多いので、使用前には必ず製品に記載されている注意書きを確認しましょう。



第5部 区市町村別の比較

1. 事故種別ごとの救急搬送人員①

(単位：人)

救急隊出場先 区市町村	全事故 種別	ころぶ	落ちる	ぶつかる	つまものが 等	刺さる・ 切れる	はさまれる・ はきぎれる	やけど	かまれる・ 刺される	おぼれる	その他	不明
全出場先	127382	74004	14253	5985	3238	2952	1692	1,143	589	534	17829	5,163
千代田区	1,810	999	316	97	25	42	31	12	7	4	225	52
中央区	1,860	1,053	270	93	43	58	40	16	5	6	219	57
港区	3,323	1,842	445	185	67	100	69	33	15	6	434	127
品川区	3,683	2,213	387	168	79	73	50	29	9	12	542	121
大田区	6,819	3,943	765	287	146	147	112	53	24	29	927	386
目黒区	2,333	1,376	264	127	47	62	40	15	10	2	308	82
世田谷区	7,550	4,376	825	380	215	196	89	78	19	40	1,038	294
渋谷区	2,814	1,520	357	191	39	83	42	28	13	10	422	109
新宿区	4,671	2,565	634	247	86	121	73	54	10	10	667	204
中野区	2,863	1,675	323	132	74	66	25	31	7	13	396	121
杉並区	4,650	2,749	533	196	133	107	48	49	14	25	606	190
文京区	1,876	1,059	215	101	56	43	25	26	7	8	261	75
豊島区	3,239	1,817	391	171	61	83	37	30	7	4	479	159
北区	3,630	2,245	349	142	82	63	49	31	11	18	471	169
板橋区	5,109	3,086	484	228	134	118	59	52	21	18	672	237
練馬区	6,033	3,597	661	240	166	141	56	54	24	12	847	235
台東区	2,804	1,611	362	122	42	62	31	19	10	14	408	123
荒川区	2,185	1,268	234	91	65	49	36	23	9	17	308	85
足立区	6,688	3,875	739	267	215	148	98	56	35	28	964	263
墨田区	2,665	1,590	308	121	71	41	28	13	3	20	388	82
江東区	4,762	2,617	524	271	113	123	103	51	9	27	744	180
葛飾区	4,448	2,602	486	195	139	96	49	48	21	29	594	189
江戸川区	6,006	3,455	635	288	177	131	102	62	31	28	848	249
立川市	1,956	1,150	216	87	56	34	14	13	9	6	285	86
国立市	664	398	64	35	15	15	7	6	1	1	94	28
武蔵野市	1,392	859	128	62	35	31	17	14	5	1	190	50
三鷹市	1,505	905	150	71	44	36	11	17	6	4	187	74
府中市	1,973	1,097	198	111	62	49	19	12	17	10	327	71
昭島市	1,036	600	94	59	29	29	18	8	7	2	140	50
調布市	1,923	1,171	190	109	56	39	19	15	6	8	250	60
小金井市	857	500	86	40	18	29	9	7	7	4	120	37
小平市	1,596	961	160	68	34	39	14	19	9	4	221	67
東村山市	1,410	845	155	43	39	27	11	15	10	5	206	54
国分寺市	936	575	92	44	33	21	9	7	5	5	108	37
狛江市	586	343	65	16	24	8	6	6	4	4	89	21
東大和市	772	454	87	31	23	15	7	6	5	4	113	27
武蔵村山市	589	330	57	44	10	23	14	6	3	1	85	16
清瀬市	769	476	75	20	18	18	7	5	1	3	113	33
東久留米市	1,055	622	112	52	21	22	8	8	1	9	153	47
西東京市	1,682	1,039	156	73	35	26	13	10	4	13	230	83
八王子市	4,930	2,800	574	227	136	118	65	43	50	22	739	156
青梅市	990	567	118	35	32	25	12	6	20	8	131	36
町田市	3,969	2,390	386	173	110	81	35	24	39	17	570	144
日野市	1,495	824	193	55	41	37	24	13	17	6	196	89
多摩市	1,257	784	95	68	24	23	14	6	13	5	181	44
福生市	545	293	71	32	15	12	6	4	2	2	94	14
羽村市	453	277	51	23	17	2	8	-	3	1	60	11
瑞穂町	281	133	32	24	8	10	17	4	1	1	41	10
あきる野市	629	336	80	29	18	18	10	4	18	6	100	10
日の出町	158	85	24	9	7	3	3	-	-	1	19	7
橋原村	40	14	9	1	2	2	3	1	1	-	4	3
奥多摩町	113	43	28	4	1	7	-	1	4	1	15	9

多い区市町村 上位10	全事故 種別	ころぶ	落ちる	ぶつかる	つまものが 等	刺さる・ 切れる	はさまれる・ はきぎれる	やけど	かまれる・ 刺される	おぼれる	その他	不明
1位	世田谷区	世田谷区	世田谷区	世田谷区	世田谷区・ 足立区 同率1位	世田谷区	大田区	世田谷区	八王子市	世田谷区	世田谷区	大田区
2位	大田区	大田区	大田区	江戸川区	世田谷区・ 足立区 同率1位	足立区	江東区	江戸川区	町田市	大田区・ 葛飾区 同率2位	足立区	世田谷区
3位	足立区	足立区	足立区	大田区	江戸川区	大田区	江戸川区	足立区	足立区	足立区	大田区	足立区
4位	練馬区	練馬区	練馬区	江東区	練馬区	練馬区	足立区	新宿区・ 練馬区 同率4位	江戸川区	足立区・ 江戸川区 同率4位	江戸川区	江戸川区
5位	江戸川区	江戸川区	江戸川区	足立区	大田区	江戸川区	世田谷区	新宿区・ 練馬区 同率5位	大田区・ 練馬区 同率5位	足立区	江東区	練馬区
6位	板橋区	板橋区	新宿区	新宿区	葛飾区	江東区	新宿区	大田区	板橋区・ 葛飾区 同率7位	江東区	江東区	練馬区
7位	八王子市	八王子市	八王子市	練馬区	八王子市	新宿区	港区	板橋区	板橋区・ 葛飾区 同率7位	杉並区	八王子市	新宿区
8位	江東区	杉並区	杉並区	板橋区	板橋区	板橋区・ 八王子市 同率8位	八王子市	江東区	板橋区	八王子市	板橋区	杉並区
9位	新宿区	江東区	江東区	八王子市	杉並区	杉並区	板橋区	杉並区	青梅市	墨田区	新宿区	葛飾区
10位	杉並区	葛飾区	葛飾区	杉並区	江東区	杉並区	練馬区	葛飾区	世田谷区	板橋区	杉並区	江東区

2. 人口10万人当たりの事故種別ごとの救急搬送人員①

※住民基本台帳による東京都の人口（令和3年1月1日時点）を用いて算出しています。

（単位：人）

救急隊出場先 区 市 町 村	全 種 別 事 故	こ ろ ぶ	落 ち る	ぶ つ か る	つ も の が お も い な い 等	刺 切 る ・ 刺 さ る	は さ み ま れ る ・ は さ み ま れ る	や け ど	か ま れ る ・ 刺 さ れ る	お ぼ れ る	そ の 他	不 明
全 出 場 先	954.4	554.5	106.8	44.8	24.3	22.1	12.7	8.6	4.4	4.0	133.6	38.7
千 代 田 区	2,692.8	1,486.3	470.1	144.3	37.2	62.5	46.1	17.9	10.4	6.0	334.7	77.4
中 央 区	1,090.4	617.3	158.3	54.5	25.2	34.0	23.4	9.4	2.9	3.5	128.4	33.4
港 区	1,282.8	711.1	171.8	71.4	25.9	38.6	26.6	12.7	5.8	2.3	167.5	49.0
品 川 区	906.2	544.5	95.2	41.3	19.4	18.0	12.3	7.1	2.2	3.0	133.4	29.8
大 田 区	929.4	537.4	104.3	39.1	19.9	20.0	15.3	7.2	3.3	4.0	126.4	52.6
目 黒 区	829.3	489.1	93.8	45.1	16.7	22.0	14.2	5.3	3.6	0.7	109.5	29.1
世 田 谷 区	820.3	475.5	89.6	41.3	23.4	21.3	9.7	8.5	2.1	4.3	112.8	31.9
渋 谷 区	1,220.8	659.4	154.9	82.9	16.9	36.0	18.2	12.1	5.6	4.3	183.1	47.3
新 宿 区	1,353.0	743.0	183.6	71.5	24.9	35.0	21.1	15.6	2.9	2.9	193.2	59.1
中 野 区	855.6	500.5	96.5	39.4	22.1	19.7	7.5	9.3	2.1	3.9	118.3	36.2
杉 並 区	810.8	479.3	92.9	34.2	23.2	18.7	8.4	8.5	2.4	4.4	105.7	33.1
文 京 区	828.0	467.4	94.9	44.6	24.7	19.0	11.0	11.5	3.1	3.5	115.2	33.1
豊 島 区	1,127.4	632.4	136.1	59.5	21.2	28.9	12.9	10.4	2.4	1.4	166.7	55.3
北 区	1,027.9	635.7	98.8	40.2	23.2	17.8	13.9	8.8	3.1	5.1	133.4	47.9
板 橋 区	896.0	541.2	84.9	40.0	23.5	20.7	10.3	9.1	3.7	3.2	117.9	41.6
練 馬 区	815.2	486.0	89.3	32.4	22.4	19.1	7.6	7.3	3.2	1.6	114.4	31.8
台 東 区	1,376.9	791.1	177.8	59.9	20.6	30.4	15.2	9.3	4.9	6.9	200.3	60.4
荒 川 区	1,009.1	585.6	108.1	42.0	30.0	22.6	16.6	10.6	4.2	7.9	142.2	39.3
足 立 区	967.9	560.8	106.9	38.6	31.1	21.4	14.2	8.1	5.1	4.1	139.5	38.1
墨 田 区	966.8	576.8	111.7	43.9	25.8	14.9	10.2	4.7	1.1	7.3	140.8	29.7
江 東 区	1,139.9	626.5	125.4	64.9	27.0	29.4	24.7	12.2	2.2	6.5	178.1	43.1
葛 飾 区	1,167.5	683.0	127.6	51.2	36.5	25.2	12.9	12.6	5.5	7.6	155.9	49.6
江 戸 川 区	1,175.5	676.2	124.3	56.4	34.6	25.6	20.0	12.1	6.1	5.5	166.0	48.7
立 川 市	1,059.7	623.0	117.0	47.1	30.3	18.4	7.6	7.0	4.9	3.3	154.4	46.6
国 立 市	869.4	521.1	83.8	45.8	19.6	19.6	9.2	7.9	1.3	1.3	123.1	36.7
武 蔵 野 市	942.8	581.8	86.7	42.0	23.7	21.0	11.5	9.5	3.4	0.7	128.7	33.9
三 鷹 市	791.6	476.0	78.9	37.3	23.1	18.9	5.8	8.9	3.2	2.1	98.4	38.9
府 中 市	758.1	421.5	76.1	42.7	23.8	18.8	7.3	4.6	6.5	3.8	125.6	27.3
昭 島 市	912.4	528.4	82.8	52.0	25.5	25.5	15.9	7.0	6.2	1.8	123.3	44.0
調 布 市	808.6	492.4	79.9	45.8	23.5	16.4	8.0	6.3	2.5	3.4	105.1	25.2
小 金 井 市	692.1	403.8	69.5	32.3	14.5	23.4	7.3	5.7	5.7	3.2	96.9	29.9
小 平 市	816.2	491.5	81.8	34.8	17.4	19.9	7.2	9.7	4.6	2.0	113.0	34.3
東 村 山 市	930.2	557.5	102.3	28.4	25.7	17.8	7.3	9.9	6.6	3.3	135.9	35.6
国 分 寺 市	737.8	453.2	72.5	34.7	26.0	16.6	7.1	5.5	3.9	3.9	85.1	29.2
狛 江 市	703.8	411.9	78.1	19.2	28.8	9.6	7.2	7.2	4.8	4.8	106.9	25.2
東 大 和 市	904.9	532.1	102.0	36.3	27.0	17.6	8.2	7.0	5.9	4.7	132.4	31.6
武 蔵 村 山 市	817.8	458.2	79.1	61.1	13.9	31.9	19.4	8.3	4.2	1.4	118.0	22.2
清 瀬 市	1,026.6	635.5	100.1	26.7	24.0	24.0	9.3	6.7	1.3	4.0	150.9	44.1
東 久 留 米 市	901.7	531.6	95.7	44.4	17.9	18.8	6.8	6.8	0.9	7.7	130.8	40.2
西 東 京 市	816.3	504.3	75.7	35.4	17.0	12.6	6.3	4.9	1.9	6.3	111.6	40.3
八 王 子 市	877.5	498.4	102.2	40.4	24.2	21.0	11.6	7.7	8.9	3.9	131.5	27.8
青 梅 市	749.2	429.1	89.3	26.5	24.2	18.9	9.1	4.5	15.1	6.1	99.1	27.2
町 田 市	924.8	556.9	89.9	40.3	25.6	18.9	8.2	5.6	9.1	4.0	132.8	33.6
日 野 市	799.3	440.6	103.2	29.4	21.9	19.8	12.8	7.0	9.1	3.2	104.8	47.6
多 摩 市	846.6	528.0	64.0	45.8	16.2	15.5	9.4	4.0	8.8	3.4	121.9	29.6
福 生 市	1,019.7	548.2	132.8	59.9	28.1	22.5	11.2	7.5	3.7	3.7	175.9	26.2
羽 村 市	827.8	506.2	93.2	42.0	31.1	3.7	14.6	-	5.5	1.8	109.6	20.1
瑞 穂 町	862.8	408.4	98.3	73.7	24.6	30.7	52.2	12.3	3.1	3.1	125.9	30.7
あ ぎ る 野 市	784.1	418.8	99.7	36.2	22.4	22.4	12.5	5.0	22.4	7.5	124.7	12.5
日 の 出 町	952.5	512.4	144.7	54.3	42.2	18.1	18.1	-	-	6.0	114.5	42.2
檜 原 村	1,893.9	662.9	426.1	47.3	94.7	94.7	142.0	47.3	47.3	-	189.4	142.0
奥 多 摩 町	2,264.1	861.6	561.0	80.1	20.0	140.3	-	20.0	80.1	20.0	300.5	180.3

多い区市町村 上位10	全 種 別 事 故	こ ろ ぶ	落 ち る	ぶ つ か る	つ も の が お も い な い 等	刺 切 る ・ 刺 さ る	は さ み ま れ る ・ は さ み ま れ る	や け ど	か ま れ る ・ 刺 さ れ る	お ぼ れ る	そ の 他	不 明
1位	千代田区	千代田区	奥多摩町	千代田区	檜原村	奥多摩町	檜原村	檜原村	奥多摩町	奥多摩町	千代田区	奥多摩町
2位	奥多摩町	奥多摩町	千代田区	渋谷区	日の出町	檜原村	瑞穂町	奥多摩町	檜原村	荒川区	奥多摩町	檜原村
3位	檜原村	台東区	檜原村	奥多摩町	千代田区	千代田区	千代田区	千代田区	あきる野市	東久留米市	台東区	千代田区
4位	台東区	新宿区	新宿区	瑞穂町	葛飾区	港区	港区	新宿区	青梅市	葛飾区	新宿区	台東区
5位	新宿区	港区	台東区	新宿区	江戸川区	渋谷区	江東区	港区	千代田区	あきる野市	檜原村	新宿区
6位	港区	葛飾区	港区	港区	足立区	新宿区	中央区	葛飾区	日野市	墨田区	渋谷区	豊島区
7位	渋谷区	江戸川区	中央区	江東区	羽村市	中央区	新宿区	瑞穂町	町田市	台東区	江東区	大田区
8位	江戸川区	檜原村	渋谷区	武蔵村山市	立川市	武蔵村山市	江戸川区	江東区	八王子市	江東区	福生市	葛飾区
9位	葛飾区	渋谷区	日の出町	台東区	荒川区	瑞穂町	武蔵村山市	渋谷区	多摩市	西東京市	港区	港区
10位	江東区	北区	豊島区	福生市	狛江市	台東区	渋谷区	江戸川区	東村山市	青梅市	豊島区	江戸川区

3. 事故種別ごとの救急搬送人員②

(単位：人)

救急隊出場先 区 市 町 村	全 種 別 事 故	一 般 負 傷	運 動 事 故 競 技	自 然 災 害	水 難 事 故	労 働 災 害
全 出 場 先	127,382	119,645	2,917	7	363	4,450
千代田区	1,810	1,647	22	-	4	137
中央区	1,860	1,701	23	-	5	131
港区	3,323	2,995	72	-	4	252
品川区	3,683	3,456	89	-	10	128
大田区	6,819	6,396	127	-	17	279
目黒区	2,333	2,204	44	-	1	84
世田谷区	7,550	7,134	221	1	24	170
渋谷区	2,814	2,573	87	1	6	147
新宿区	4,671	4,378	106	-	8	179
中野区	2,863	2,754	39	-	5	65
杉並区	4,650	4,425	103	-	19	103
文京区	1,876	1,732	70	1	5	68
豊島区	3,239	3,062	69	-	2	106
北区	3,630	3,462	75	1	11	81
板橋区	5,109	4,858	89	-	12	150
練馬区	6,033	5,771	105	-	9	148
台東区	2,804	2,643	34	1	13	113
荒川区	2,185	2,081	23	-	13	68
足立区	6,688	6,353	100	-	21	214
墨田区	2,665	2,520	43	-	21	81
江東区	4,762	4,284	167	-	21	290
葛飾区	4,448	4,232	88	-	26	102
江戸川区	6,006	5,678	118	-	22	188
立川市	1,956	1,827	63	-	5	61
国立市	664	608	24	-	1	31
武蔵野市	1,392	1,312	39	-	-	41
三鷹市	1,505	1,434	37	-	1	33
府中市	1,973	1,837	62	-	5	69
昭島市	1,036	959	26	-	2	49
調布市	1,923	1,779	96	1	3	44
小金井市	857	806	22	-	1	28
小平市	1,596	1,507	36	-	1	52
東村山市	1,410	1,352	22	-	2	34
国分寺市	936	902	12	-	1	21
狛江市	586	569	9	-	1	7
東大和市	772	720	26	-	4	22
武蔵村山市	589	535	20	-	1	33
清瀬市	769	727	19	-	1	22
東久留米市	1,055	1,006	19	-	2	28
西東京市	1,682	1,573	54	-	12	43
八王子市	4,930	4,579	164	1	13	173
青梅市	990	925	17	-	6	42
町田市	3,969	3,728	108	-	8	125
日野市	1,495	1,408	28	-	4	55
多摩市	1,257	1,166	49	-	2	40
福生市	545	511	15	-	1	18
羽村市	453	432	4	-	-	17
瑞穂町	281	233	7	-	-	41
あきる野市	629	582	22	-	5	20
日の出町	158	148	3	-	-	7
檜原村	40	36	-	-	-	4
奥多摩町	113	105	-	-	2	6
多い区市町村 上位10	全 種 別 事 故	一 般 負 傷	運 動 事 故 競 技	自 然 災 害	水 難 事 故	労 働 災 害
1位	世田谷区	世田谷区	世田谷区	世田谷区 渋谷区	葛飾区	江東区
2位	大田区	大田区	江東区	文京区 北区	世田谷区	大田区
3位	足立区	足立区	八王子市	台東区	江戸川区	港区
4位	練馬区	練馬区	大田区	調布市 八王子市	足立区・ 墨田区・ 江東区 同率4位	足立区 江戸川区
5位	江戸川区	江戸川区	江戸川区	全て同率 1位	同率4位	新宿区
6位	板橋区	板橋区	町田市		杉並区	八王子市
7位	八王子市	八王子市	新宿区		大田区	世田谷区
8位	江東区	杉並区	練馬区		荒川区・台東区 ・八王子市 同率9位	板橋区
9位	新宿区	新宿区	杉並区			練馬区
10位	杉並区	江東区	足立区			

4. 人口10万人当たりの事故種別ごとの救急搬送人員②

※住民基本台帳による東京都の人口（令和3年1月1日時点）を用いて算出しています。

（単位：人）

救急隊出場先 区市町村	全 種 別 事 故	一 般 負 傷	運 動 競 技	自 然 災 害	水 難 事 故	労 働 災 害
全 出 場 先	9544	8965	219	0.1	2.7	33.3
千 代 田 区	2,692.8	2,450.3	32.7	-	6.0	203.8
中 央 区	1,090.4	997.2	13.5	-	2.9	76.8
港 区	1,282.8	1,156.2	27.8	-	1.5	97.3
品 川 区	906.2	850.4	21.9	-	2.5	31.5
大 田 区	929.4	871.8	17.3	-	2.3	38.0
目 黒 区	829.3	783.5	15.6	-	0.4	29.9
世 田 谷 区	820.3	775.1	24.0	0.1	2.6	18.5
澁 谷 区	1,220.8	1,116.2	37.7	0.4	2.6	63.8
新 宿 区	1,353.0	1,268.1	30.7	-	2.3	51.8
中 野 区	855.6	823.0	11.7	-	1.5	19.4
杉 並 区	810.8	771.6	18.0	-	3.3	18.0
文 京 区	828.0	764.4	30.9	0.4	2.2	30.0
豊 島 区	1,127.4	1,065.8	24.0	-	0.7	36.9
北 区	1,027.9	980.3	21.2	0.3	3.1	22.9
板 橋 区	896.0	852.0	15.6	-	2.1	26.3
練 馬 区	815.2	779.8	14.2	-	1.2	20.0
台 東 区	1,376.9	1,297.8	16.7	0.5	6.4	55.5
荒 川 区	1,009.1	961.0	10.6	-	6.0	31.4
足 立 区	967.9	919.4	14.5	-	3.0	31.0
墨 田 区	966.8	914.2	15.6	-	7.6	29.4
江 東 区	1,139.9	1,025.5	40.0	-	5.0	69.4
葛 飾 区	1,167.5	1,110.8	23.1	-	6.8	26.8
江 戸 川 区	1,175.5	1,111.3	23.1	-	4.3	36.8
立 川 市	1,059.7	989.8	34.1	-	2.7	33.0
国 立 市	869.4	796.1	31.4	-	1.3	40.6
武 蔵 野 市	942.8	888.6	26.4	-	-	27.8
三 鷹 市	791.6	754.2	19.5	-	0.5	17.4
府 中 市	758.1	705.8	23.8	-	1.9	26.5
昭 島 市	912.4	844.5	22.9	-	1.8	43.2
調 布 市	808.6	748.1	40.4	0.4	1.3	18.5
小 金 井 市	692.1	650.9	17.8	-	0.8	22.6
小 平 市	816.2	770.7	18.4	-	0.5	26.6
東 村 山 市	930.2	892.0	14.5	-	1.3	22.4
国 分 寺 市	737.8	711.0	9.5	-	0.8	16.6
狛 江 市	703.8	683.3	10.8	-	1.2	8.4
東 大 和 市	904.9	843.9	30.5	-	4.7	25.8
武 蔵 村 山 市	817.8	742.8	27.8	-	1.4	45.8
清 瀬 市	1,026.6	970.6	25.4	-	1.3	29.4
東 久 留 米 市	901.7	859.8	16.2	-	1.7	23.9
西 東 京 市	816.3	763.4	26.2	-	5.8	20.9
八 王 子 市	877.5	815.0	29.2	0.2	2.3	30.8
青 梅 市	749.2	700.0	12.9	-	4.5	31.8
町 田 市	924.8	868.7	25.2	-	1.9	29.1
日 野 市	799.3	752.8	15.0	-	2.1	29.4
多 摩 市	846.6	785.3	33.0	-	1.3	26.9
福 生 市	1,019.7	956.1	28.1	-	1.9	33.7
羽 村 市	827.8	789.4	7.3	-	-	31.1
瑞 穂 町	862.8	715.4	21.5	-	-	125.9
あ ぎ る 野 市	784.1	725.5	27.4	-	6.2	24.9
日 の 出 町	952.5	892.2	18.1	-	-	42.2
檜 原 村	1,893.9	1,704.5	-	-	-	189.4
奥 多 摩 町	2,264.1	2,103.8	-	-	40.1	120.2

多い区市 町村 上位10	全 種 別 事 故	一 般 負 傷	運 動 競 技	自 然 災 害	水 難 事 故	労 働 災 害
1位	千代田区	千代田区	調布市	台東区	奥多摩町	千代田区
2位	奥多摩町	奥多摩町	江東区	文京区	墨田区	檜原村
3位	檜原村	檜原村	渋谷区	渋谷区	葛飾区	瑞穂町
4位	台東区	台東区	立川市	調布市	台東区	奥多摩町
5位	新宿区	新宿区	多摩市	北区	あきる野市	港区
6位	港区	港区	千代田区	八王子市	荒川区	中央区
7位	渋谷区	渋谷区	国立市	世田谷区	千代田区	江東区
8位	江戸川区	江戸川区	文京区		西東京市	渋谷区
9位	葛飾区	葛飾区	新宿区		江東区	台東区
10位	江東区	豊島区	東大和市		東大和市	新宿区

5. 発生場所別の救急搬送人員

(単位：人)

救急隊出場先 区市町村	全発生場所	居住場所等	交通施設・ 道路	遊技店舗・ 施設等	運動公園・ 遊園地等	公共会社・ 施設等	児童学校・ 施設等	医療施設	(その他 含む)
全出場先	127,382	72,267	33,345	8,478	4,707	3,748	2,448	560	1,829
千代田区	1,810	338	926	229	39	190	33	16	39
中央区	1,860	654	687	284	40	117	28	8	42
港区	3,323	1,367	1,127	384	112	183	43	22	85
品川区	3,683	1,924	1,096	294	155	120	54	14	26
大田区	6,819	4,084	1,692	351	241	235	103	19	94
目黒区	2,333	1,374	600	132	85	55	40	17	30
世田谷区	7,550	4,703	1,717	388	330	127	170	36	79
渋谷区	2,814	1,191	903	333	125	123	46	19	74
新宿区	4,671	1,879	1,691	584	169	188	64	24	72
中野区	2,863	1,717	818	123	68	64	36	12	25
杉並区	4,650	2,848	1,193	215	180	74	85	13	42
文京区	1,876	1,094	457	94	86	57	48	13	27
豊島区	3,239	1,446	1,148	348	80	96	68	18	35
北区	3,630	1,968	1,132	190	147	81	63	12	37
板橋区	5,109	3,042	1,376	260	155	125	80	27	44
練馬区	6,033	3,777	1,431	307	207	116	123	22	50
台東区	2,804	1,201	1,030	258	93	115	34	12	61
荒川区	2,185	1,213	655	116	59	70	36	7	29
足立区	6,688	4,061	1,695	310	220	193	118	20	71
墨田区	2,665	1,479	779	169	74	73	41	10	40
江東区	4,762	2,638	1,079	355	304	236	58	20	72
葛飾区	4,448	2,718	1,103	217	178	101	65	16	50
江戸川区	6,006	3,661	1,416	330	242	171	98	28	60
立川市	1,956	1,128	441	173	74	60	41	13	26
国立市	664	390	147	38	24	26	26	7	6
武蔵野市	1,392	716	390	154	58	28	30	5	11
三鷹市	1,505	960	327	69	71	25	34	2	17
府中市	1,973	1,215	420	109	90	47	46	6	40
昭島市	1,036	633	202	76	37	44	26	3	15
調布市	1,923	1,138	454	138	98	26	35	7	27
小金井市	857	532	174	47	35	20	31	6	12
小平市	1,596	1,049	327	73	44	26	50	7	20
東村山市	1,410	914	311	63	34	31	33	3	21
国分寺市	936	594	236	50	13	12	19	3	9
狛江市	586	418	104	24	13	11	8	-	8
東大和市	772	517	137	41	20	15	28	3	11
武蔵村山市	589	375	95	38	21	26	21	3	10
清瀬市	769	494	173	26	23	14	22	7	10
東久留米市	1,055	687	209	83	19	12	34	4	7
西東京市	1,682	1,058	387	99	73	21	30	6	8
八王子市	4,930	3,109	924	279	186	133	145	21	133
青梅市	990	647	161	45	35	26	24	3	49
町田市	3,969	2,397	926	272	133	78	99	23	41
日野市	1,495	928	327	77	56	34	43	9	21
多摩市	1,257	694	331	91	59	30	29	7	16
福生市	545	314	121	42	26	14	12	2	14
羽村市	453	286	91	26	13	18	12	1	6
瑞穂町	281	156	45	18	14	37	4	1	6
あきる野市	629	379	91	29	32	15	25	3	55
日の出町	158	95	17	22	3	8	6	-	7
檜原村	40	19	3	-	1	-	-	-	17
奥多摩町	113	48	23	5	13	1	1	-	22

多い区市町村 上位10	全発生場所	居住場所等	交通施設・ 道路	遊技店舗・ 施設等	運動公園・ 遊園地等	公共会社・ 施設等	児童学校・ 施設等	医療施設	(その他 含む)
1位	世田谷区	世田谷区	世田谷区	新宿区	世田谷区	江東区	世田谷区	世田谷区	八王子市
2位	大田区	大田区	足立区	世田谷区	江東区	大田区	八王子市	江戸川区	大田区
3位	足立区	足立区	大田区	港区	江戸川区	足立区	練馬区	板橋区	港区
4位	練馬区	練馬区	新宿区	江東区	大田区	千代田区	足立区	新宿区	世田谷区
5位	江戸川区	江戸川区	練馬区	大田区	足立区	新宿区	大田区	町田市	渋谷区
6位	板橋区	八王子市	江戸川区	豊島区	練馬区	港区	町田市	港区・ 練馬区 同率6位	新宿区・ 江東区 同率6位
7位	八王子市	板橋区	板橋区	渋谷区	八王子市	江戸川区	江戸川区		
8位	江東区	杉並区	杉並区	江戸川区	杉並区	八王子市	杉並区	八王子市	足立区
9位	新宿区	葛飾区	豊島区	足立区	葛飾区	世田谷区	板橋区	足立区・ 江東区 同率9位	台東区
10位	杉並区	江東区	北区	練馬区	新宿区	板橋区	豊島区		江戸川区

6. 人口10万人当たりの発生場所別の救急搬送人員

※住民基本台帳による東京都の人口（令和3年1月1日時点）を用いて算出しています。（単位：人）

救急隊出場先 区 市 町 村	全発生場所	居住場所等	交通路・ 道路施設	遊技施設・ 施設等	運動場・ 公園等	公共施設・ 施設等	児童施設・ 施設等	医療施設	(その他 含む)
全 出 場 先	9544	5415	2498	635	353	2808	183	42	137
千代田区	26928	5029	13776	3407	580	28267	491	238	580
中央区	10904	3834	4027	1665	234	6859	164	47	246
港区	12828	5277	4351	1482	432	7065	166	85	328
品川区	9062	4734	2697	723	381	2953	133	34	64
大田区	9294	5567	2306	478	328	3203	140	26	128
目黒区	8293	4884	2133	469	302	1955	142	60	107
世田谷区	8203	5110	1866	422	359	1380	185	39	86
渋谷区	12208	5167	3917	1445	542	5336	200	82	321
新宿区	13530	5443	4898	1692	490	5446	185	70	209
中野区	8556	5131	2444	368	203	1913	108	36	75
杉並区	8108	4966	2080	375	314	1290	148	23	73
文京区	8280	4828	2017	415	380	2516	212	57	119
豊島区	11274	5033	3996	1211	278	3341	237	63	122
北区	10279	5573	3205	538	416	2294	178	34	105
板橋区	8960	5335	2413	456	272	2192	140	47	77
練馬区	8152	5103	1934	415	280	1567	166	30	68
台東区	13769	5897	5058	1267	457	5647	167	59	300
荒川区	10091	5602	3025	536	272	3233	166	32	134
足立区	9679	5877	2453	449	318	2793	171	29	103
墨田区	9668	5366	2826	613	268	2648	149	36	145
江東区	11399	6315	2583	850	728	5649	139	48	172
葛飾区	11675	7134	2895	570	467	2651	171	42	131
江戸川区	11755	7165	2771	646	474	3347	192	55	117
立川市	10597	6111	2389	937	401	3251	222	70	141
国立市	8694	5107	1925	498	314	3404	340	92	79
武蔵野市	9428	4850	2642	1043	393	1896	203	34	75
三鷹市	7916	5049	1720	363	373	1315	179	11	89
府中市	7581	4668	1614	419	346	1806	177	23	154
昭島市	9124	5575	1779	669	326	3875	229	26	132
調布市	8086	4785	1909	580	412	1093	147	29	114
小金井市	6921	4296	1405	380	283	1615	250	48	97
小平市	8162	5365	1672	373	225	1330	256	36	102
東村山市	9302	6030	2052	416	224	2045	218	20	139
国分寺市	7378	4682	1860	394	102	946	150	24	71
狛江市	7038	5020	1249	288	156	1321	96	-	96
東大和市	9049	6060	1606	481	234	1758	328	35	129
武蔵村山市	8178	5207	1319	528	292	3610	292	42	139
清瀬市	10266	6595	2310	347	307	1869	294	93	134
東久留米市	9017	5871	1786	709	162	1026	291	34	60
西東京市	8163	5135	1878	480	354	1019	146	29	39
八王子市	8775	5534	1645	497	331	2367	258	37	237
青梅市	7492	4896	1218	341	265	1968	182	23	371
町田市	9248	5585	2158	634	310	1818	231	54	96
日野市	7993	4962	1748	412	299	1818	230	48	112
多摩市	8466	4674	2229	613	397	2020	195	47	108
福生市	10197	5875	2264	786	486	2619	225	37	262
羽村市	8278	5226	1663	475	238	3289	219	18	110
瑞穂町	8628	4790	1382	553	430	11361	123	31	184
あきる野市	7841	4724	1134	362	399	1870	312	37	686
日の出町	9525	5727	1025	1326	181	4823	362	-	422
檜原村	18939	8996	1420	-	473	-	-	-	8049
奥多摩町	22641	9617	4608	1002	2605	2004	200	00	4408

多い区市 町村 上位10	全発生場所	居住場所等	交通路・ 道路施設	遊技施設・ 施設等	運動場・ 公園等	公共施設・ 施設等	児童施設・ 施設等	医療施設	(その他 含む)
1位	千代田区	奥多摩町	千代田区	千代田区	奥多摩町	千代田区	千代田区	千代田区	檜原村
2位	奥多摩町	檜原村	台東区	新宿区	江東区	瑞穂町	日の出町	清瀬市	奥多摩町
3位	檜原村	江戸川区	新宿区	中央区	千代田区	港区	国立市	国立市	あきる野市
4位	台東区	葛飾区	奥多摩町	港区	渋谷区	中央区	東大和市	港区	千代田区
5位	新宿区	清瀬市	港区	渋谷区	新宿区	江東区	あきる野市	渋谷区	日の出町
6位	港区	江東区	中央区	日の出町	福生市	台東区	清瀬市	立川市	青梅市
7位	渋谷区	立川市	豊島区	台東区	江戸川区	新宿区	武蔵村山市	新宿区	港区
8位	江戸川区	東大和市	渋谷区	豊島区	檜原村	渋谷区	東久留米市	豊島区	渋谷区
9位	葛飾区	東村山市	北区	武蔵野市	葛飾区	日の出町	八王子市	目黒区	台東区
10位	江東区	台東区	荒川区	奥多摩町	台東区	昭島市	小平市	台東区	福生市

7. 年齢層別の救急搬送人員

(単位：人)

救急隊 出場先 区 市 町 村	全 年 齢	0 ～ 4 歳 代	5 ～ 9 歳 代	10 歳 代	20 歳 代	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 代	90 歳 代	100 歳 以 上
全 出 場 先	127,382	7,958	3,119	4,235	7,049	6,076	7,245	9,854	11,553	22,399	33,599	13,815	480
千代田区	1,810	72	27	44	214	154	216	309	261	233	202	73	5
中央区	1,860	127	39	28	135	165	186	238	217	254	344	126	1
港区	3,323	255	79	74	308	322	337	386	322	458	544	235	3
品川区	3,683	280	96	96	208	205	231	296	303	637	923	397	11
大田区	6,819	382	152	197	279	260	365	503	648	1,298	1,838	875	22
目黒区	2,333	159	84	61	124	131	146	187	158	338	617	320	8
世田谷区	7,550	571	213	302	449	368	381	536	565	1,100	2,036	997	32
渋谷区	2,814	157	57	123	358	266	227	253	231	378	529	225	10
新宿区	4,671	180	68	125	614	419	365	492	466	709	851	369	13
中野区	2,863	186	58	70	181	147	148	209	246	464	763	387	4
杉並区	4,650	333	119	130	261	208	199	289	342	783	1,282	669	35
文京区	1,876	148	38	69	126	102	121	153	125	282	452	246	14
豊島区	3,239	162	67	103	283	235	216	265	335	549	729	287	8
北区	3,630	187	73	100	176	151	172	221	369	725	1,032	411	13
板橋区	5,109	313	106	158	238	180	244	309	487	989	1,478	581	26
練馬区	6,033	416	164	186	247	208	275	430	491	1,021	1,743	822	30
台東区	2,804	130	41	68	176	147	187	314	391	527	605	208	10
荒川区	2,185	163	49	59	82	109	122	168	236	416	578	196	7
足立区	6,688	404	162	205	246	260	360	501	618	1,282	2,057	578	15
墨田区	2,665	155	47	67	123	126	131	223	284	526	709	263	11
江東区	4,762	350	156	140	230	264	349	415	439	889	1,123	391	16
葛飾区	4,448	282	123	156	182	161	223	296	421	848	1,288	450	18
江戸川区	6,006	437	183	216	266	223	338	434	615	1,193	1,565	517	19
立川市	1,956	127	32	78	102	102	116	140	155	347	541	211	5
国立市	664	25	14	35	27	25	30	44	61	132	185	83	3
武蔵野市	1,392	81	44	42	94	81	61	92	124	219	365	184	5
三鷹市	1,505	100	48	60	56	47	60	105	126	255	408	227	13
府中市	1,973	125	56	85	90	72	98	149	162	370	530	232	4
昭島市	1,036	64	20	46	41	47	33	74	105	195	306	104	1
調布市	1,923	137	53	74	103	64	106	117	148	299	576	243	3
小金井市	857	66	22	33	36	30	46	71	70	122	235	119	7
小平市	1,596	100	42	63	54	58	72	98	122	257	485	240	5
東村山市	1,410	89	46	51	41	36	63	118	123	237	418	185	3
国分寺市	936	61	26	16	46	37	36	57	86	139	293	134	5
狛江市	586	45	20	15	17	13	30	36	37	105	193	75	7
東大和市	772	44	18	38	24	21	39	54	55	157	230	89	3
武蔵村山市	589	31	16	44	23	27	26	42	48	116	154	57	5
清瀬市	769	43	20	37	21	16	30	64	70	143	233	89	3
東久留米市	1,055	63	33	38	24	30	48	58	92	207	337	119	6
西東京市	1,682	105	37	63	61	56	57	106	140	287	518	244	8
八王子市	4,930	283	111	222	242	187	270	348	436	965	1,319	524	23
青梅市	990	35	16	32	27	26	67	74	99	231	287	93	3
町田市	3,969	203	101	162	182	124	184	237	335	758	1,214	447	22
日野市	1,495	108	56	68	64	41	61	82	105	263	484	159	4
多摩市	1,257	58	38	53	67	43	44	87	96	253	400	113	5
福生市	545	30	9	26	22	14	26	49	42	101	162	60	4
羽村市	453	25	7	19	13	24	24	29	33	108	127	41	3
瑞穂町	281	11	7	10	16	15	26	19	30	56	67	22	2
あきる野市	629	34	18	42	29	17	31	45	56	107	181	66	3
日の出町	158	9	1	3	6	6	8	15	9	46	36	18	1
檜原村	40	2	1	-	4	1	4	7	2	8	6	5	-
奥多摩町	113	5	6	3	11	5	10	10	16	17	21	9	-

多い区市 町村 上位10	全 年 齢	0 ～ 4 歳 代	5 ～ 9 歳 代	10 歳 代	20 歳 代	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 代	90 歳 代	100 歳 以 上
1位	世田谷区	世田谷区	世田谷区	世田谷区	新宿区	新宿区	世田谷区	世田谷区	大田区	大田区	足立区	世田谷区	杉並区
2位	大田区	江戸川区	江戸川区	八王子市	世田谷区	世田谷区	大田区・ 新宿区 同率2位	大田区	足立区	足立区	世田谷区	大田区	世田谷区
3位	足立区	練馬区	練馬区	江戸川区	渋谷区	港区	足立区	新宿区	世田谷区	世田谷区	練馬区	練馬区	練馬区
4位	練馬区	足立区	足立区	足立区	港区	渋谷区	足立区	新宿区	世田谷区	世田谷区	練馬区	杉並区	板橋区
5位	江戸川区	大田区	江東区	大田区	豊島区	江東区	江東区	江戸川区	練馬区	練馬区	江戸川区	板橋区	八王子市
6位	板橋区	江東区	大田区	練馬区	大田区	大田区・ 足立区 同率6位	江戸川区	練馬区	板橋区	板橋区	板橋区	足立区	大田区・ 町田市 同率6位
7位	八王子市	杉並区	葛飾区	町田市	江戸川区	豊島区	練馬区	港区	江東区	新宿区	八王子市	八王子市	八王子市
8位	江東区	板橋区	杉並区	板橋区	杉並区	豊島区	練馬区	港区	江東区	江東区	葛飾区	江戸川区	江戸川区
9位	新宿区	八王子市	八王子市	葛飾区	練馬区	江戸川区	八王子市	八王子市	八王子市	葛飾区	杉並区	葛飾区	葛飾区
10位	杉並区	葛飾区	板橋区	江東区	足立区	杉並区・ 練馬区	板橋区	台東区	葛飾区	杉並区	町田市	町田市	江東区

